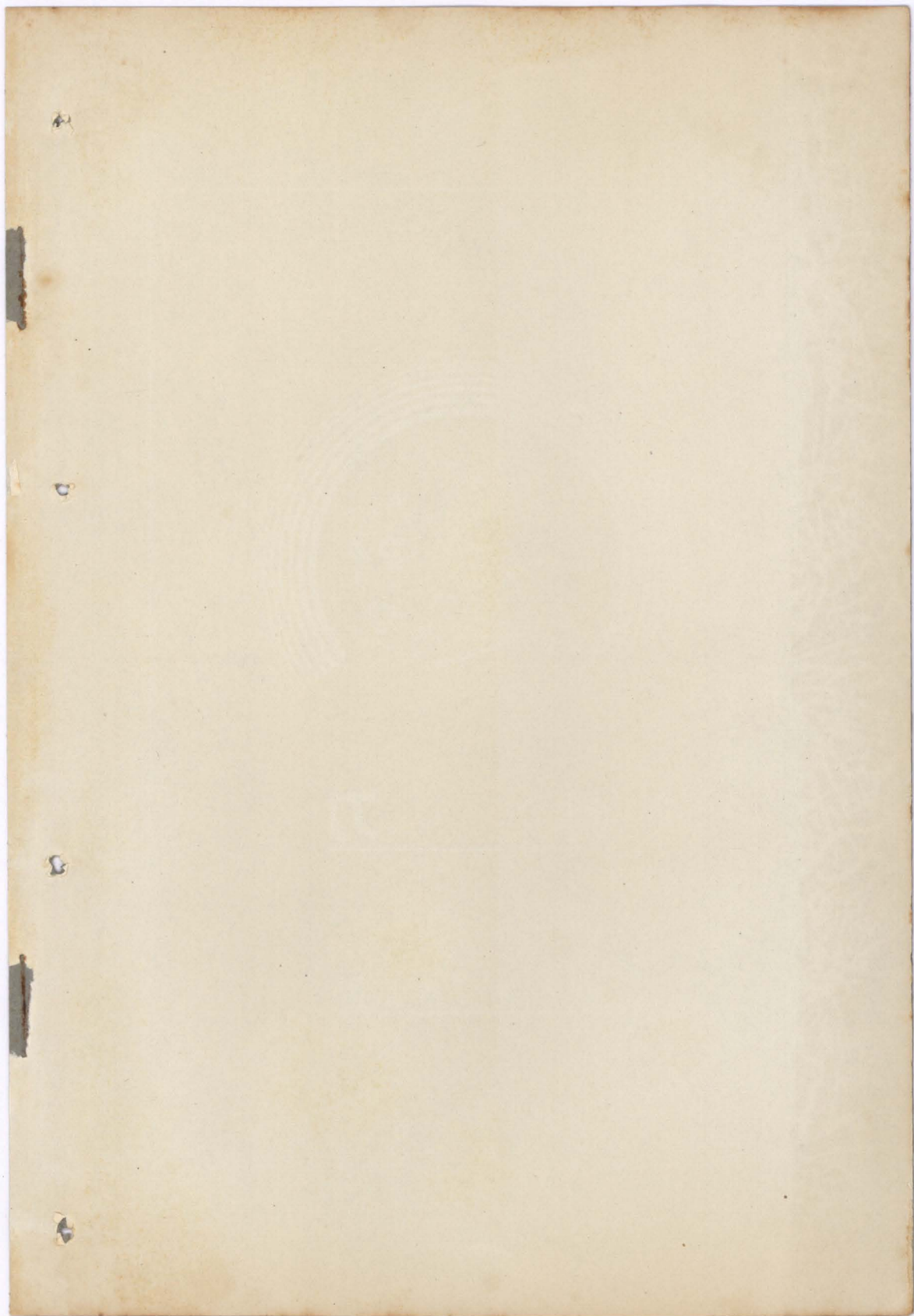


刀林

第拾壹號



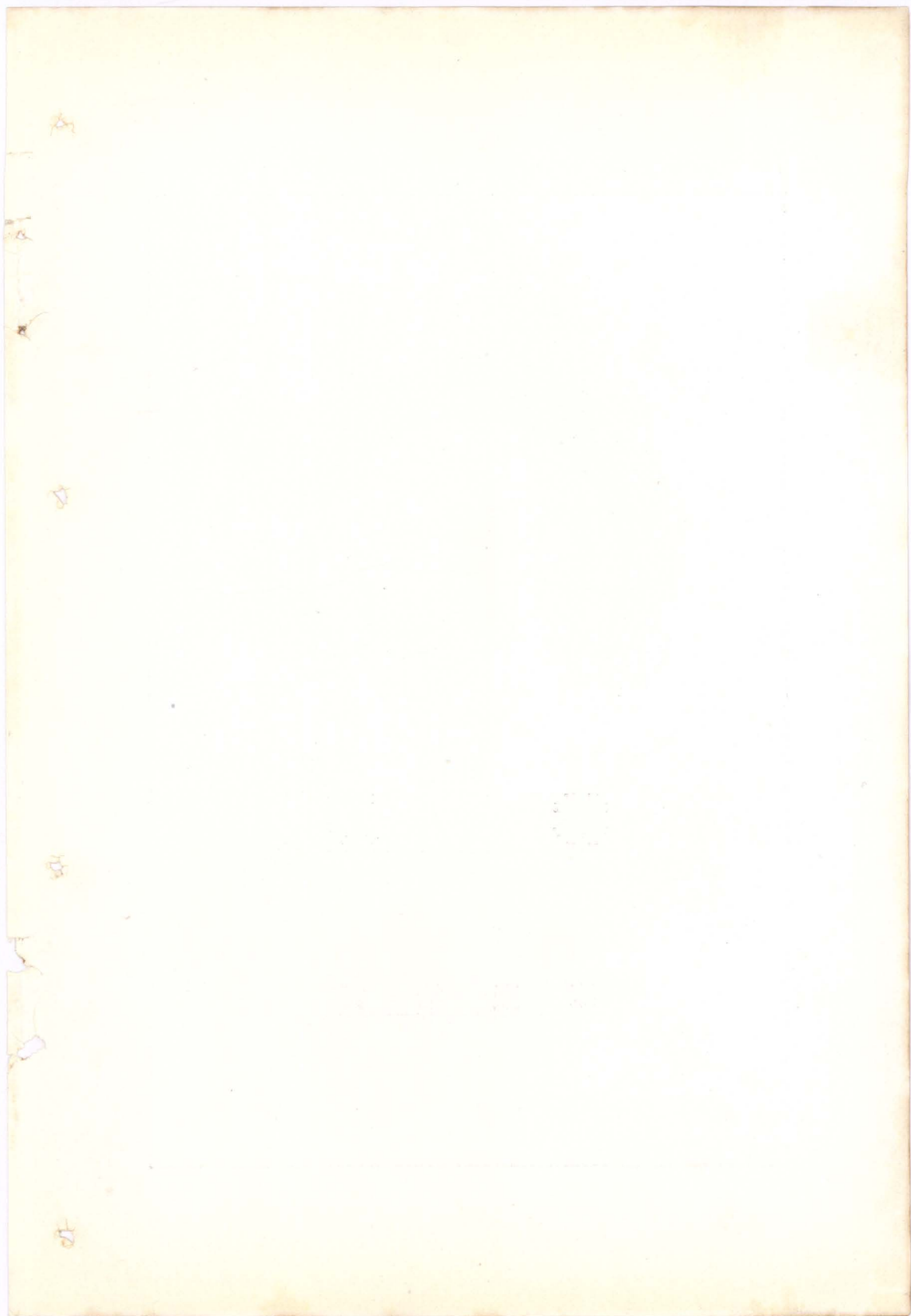


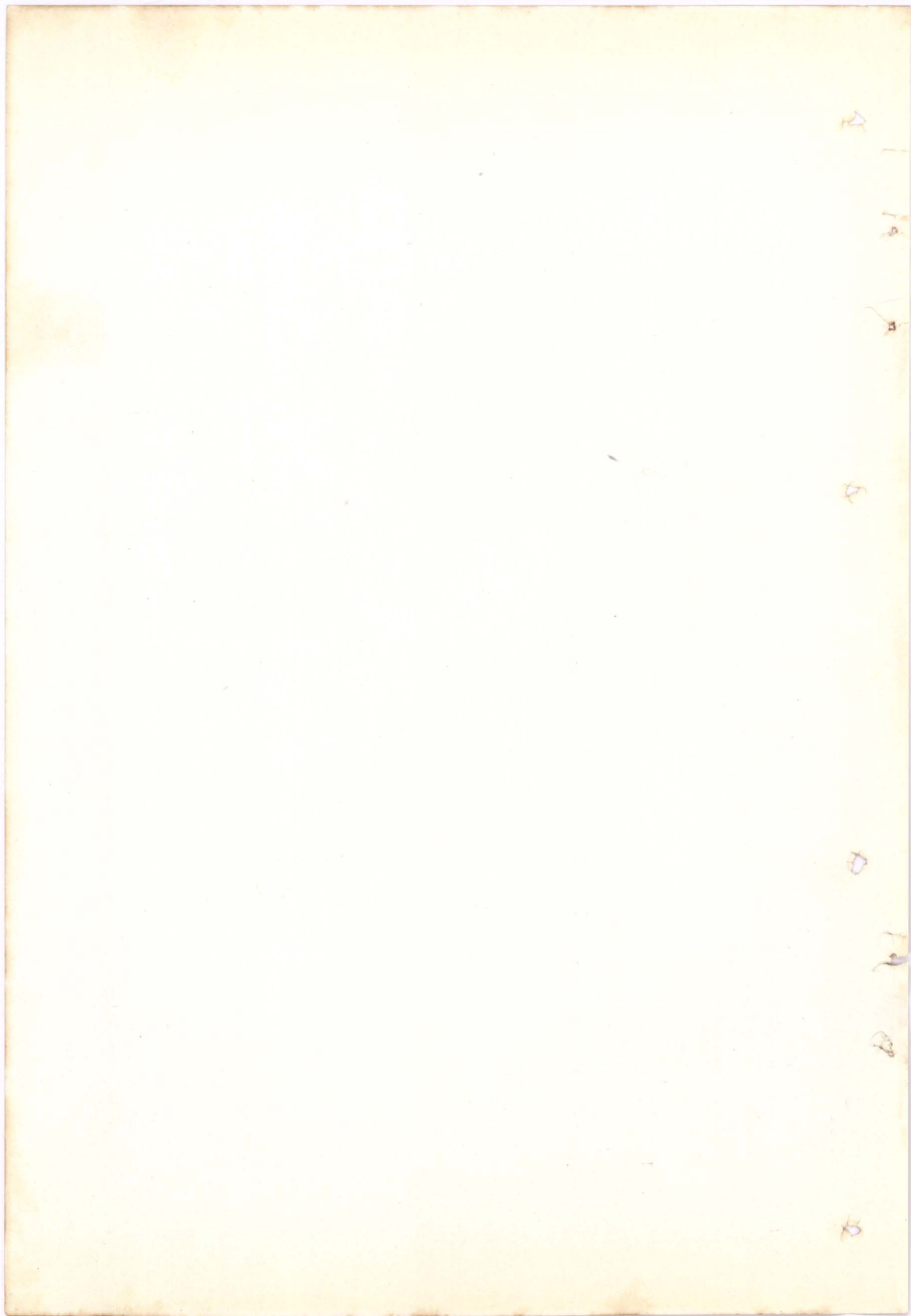




林 刀

號 壹 拾 第





刀 林 第十一號 目次

表紙
扉紙
口繪 其一 其二
論文通過
昇格
新入局
歸局
結婚
出產
赴任
轉入
營業

同窓會欄

昭和十一年の雜感	前田和三郎	岩泉の秋	渡邊敬四郎
漫便、インチキアツベ	K S 生四	甲斐雜話	山田迪聖
漫談、アツベと屁	大槻正路	通信欄	
石巻市便り	上石英造	同窓會記事	
熊に引搔れた話	林生二	茂木先生嚴父御訃報	編輯員 五
トンガラシ異聞	Y 生四	茂木先生忘年會	編輯員 五
嗤へない笑噺二つ	竹下生六	茂木先生謝恩觀劇會	編輯員 五
中島飛行機製作所病院便り	横山生三	茂木先生新年宴會	編輯員 五
釧路便り	桑野生二	同窓會總會	編輯員 五
東電病院便り	森文雄	同窓會報告	編輯員 五
芝濟生會病院便り	島田信勝	同窓會會則	編輯員 五
茶のみ話	東會生三	同窓會會計報告	編輯員 五
小樽病院最近十ヶ月の入 院患者に就き	古山實三	御禮の言葉	編輯員 五

學 術 欄

昭和十一年度第三十八回日本外科學會總會
宿題報告

日本外科學會

日本整形外科學會

慶應醫學會

醫 局 欄

醫局近況

醫局から各地へ御手傳ひ

スポーツと救護

對青山外科懇親會

一、對青山外科庭球試合

二、對青山外科
ホートレリスの記

一、對青山外科蹴球記

文 苑

豊田秀穂の憶出

古い「カルテ」

動物雜考

眞の話に相違ない

滿洲國とエチオピア

文 鳥

宇宙説

利那主義者

酒 友

同窓會會員名簿

編輯後記

伊 藤 記 五

外科教室より出たる文献

整形外科教室より出たる文献

外科集談會

整形外科集談會

抄讀會

某事件と醫局

新入局員紹介

醫局便り

庭球醫局リーグ戦跡

野 球

對醫局リレー

昭和十一年夏季富士山救護記

秋の宵

ブルの一日

日光遊記

見學生

刀林噓俱樂部

1 S先生と強盜

2 お湯の無いお風呂へ這入らせられた話

3 お父様と尻尾

4 正チヤンのお腹と狸の腹

5 汗と足

一 醫局員會

一 新人會

庶 務 充

關 口 三〇

小 島 三二

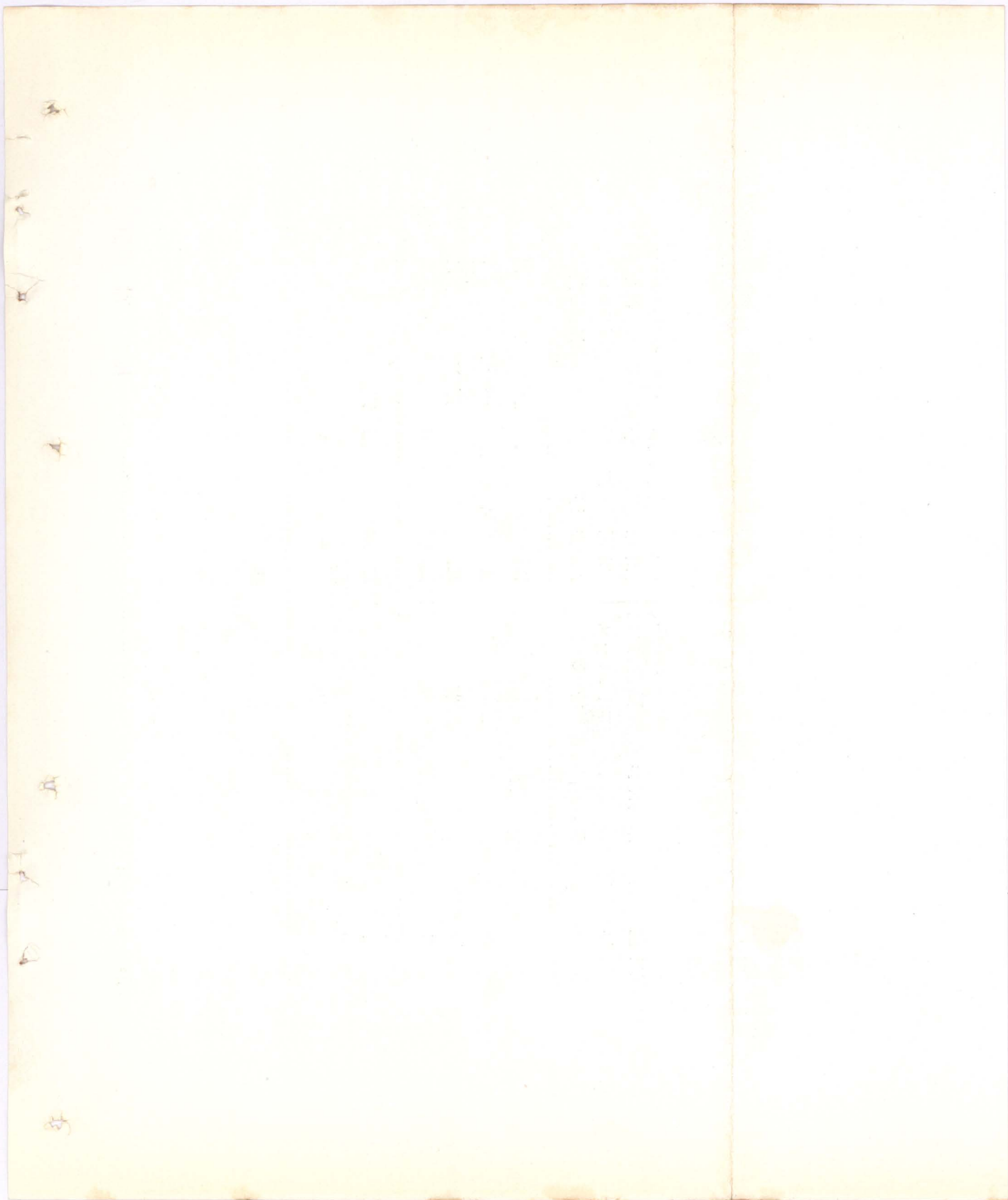
小 林 忠 二三

山 男 二四

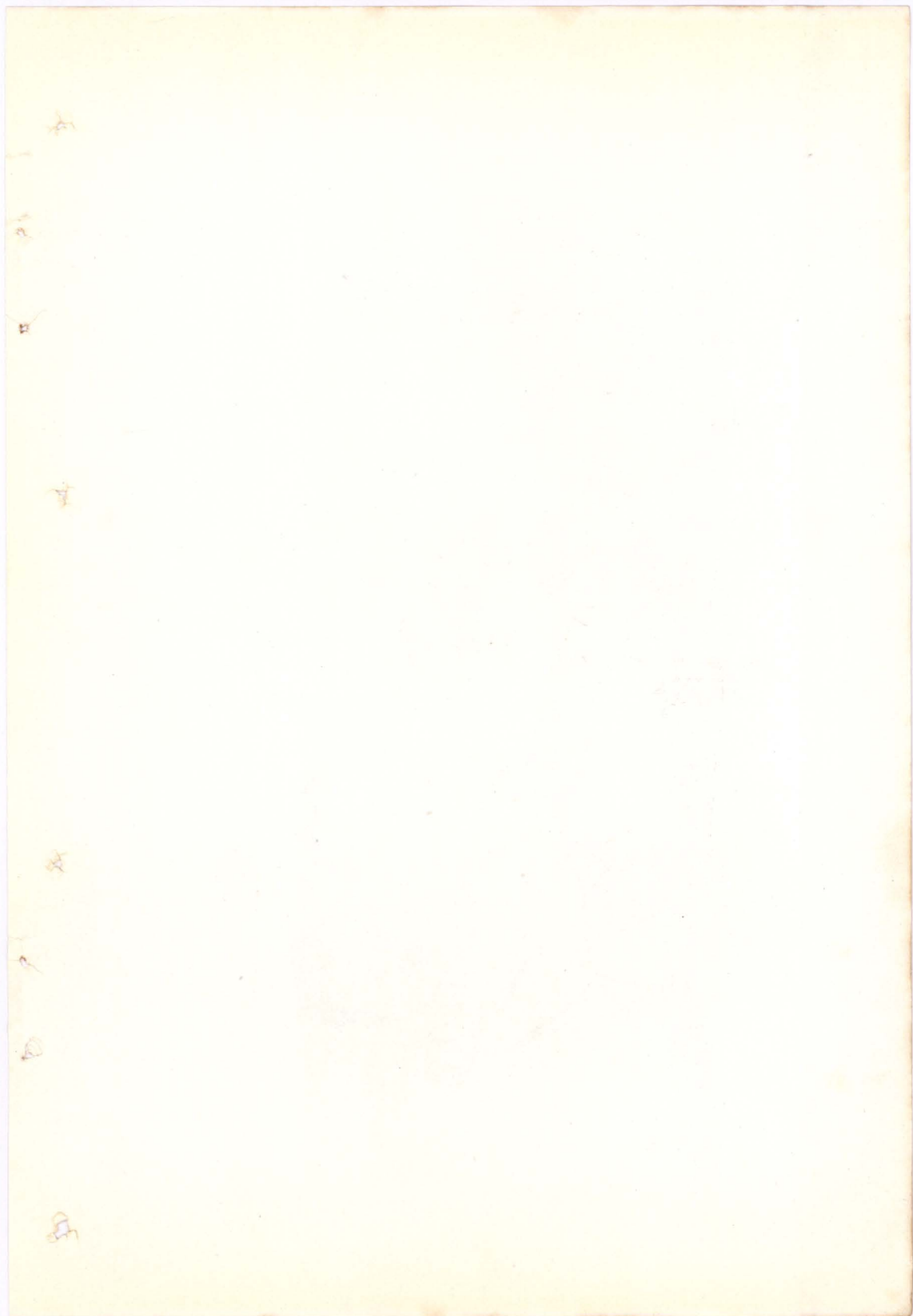
ひ か る 二五

幸 村 公 二五

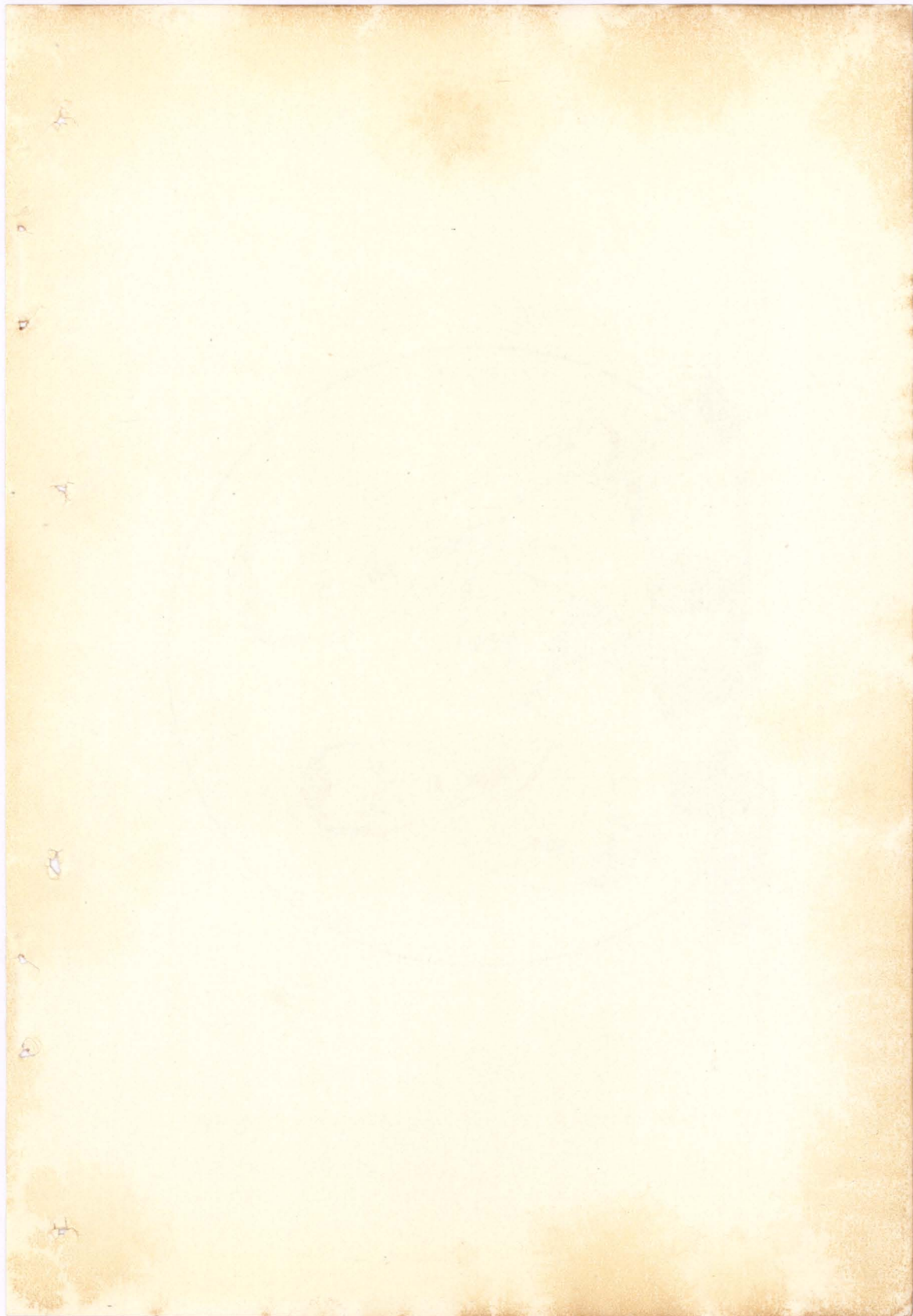
編輯員 野崎 一六〇



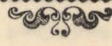








祝 賀



論文通過

山田 迪君

昭和十一年五月

桑野鐵四郎君

昭和十一年六月

神山敏雄君

昭和十一年九月

昇格

外科講師 鎌田竹次郎君 昭和十一年五月

外科講師 渡邊治生君 昭和十一年八月

迎 歡



新 入 局

工 藤 達 之 君	名 和 精 君	辻 岡 浩 君	加 納 保 君	小 田 滿 君	富 田 忠 良 君	西 平 賀 健 君	林 克 己 君	稻 葉 玉 六 君
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

(十四回生)

石 川 七 郎 君	左 奈 田 幸 夫 君	關 口 政 三 君	菊 池 龍 介 君	安 齋 直 君	小 柴 清 定 君	松 丸 忍 君	松 浦 勇 四 郎 君
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

(十四回生)

歸 局

吉 野 史 郎 君	吉 岡 勝 衛 君	小 野 田 肇 君	竹 内 實 君	山 田 庸 夫 君	古 川 明 君	八 木 勝 郎 君
-----------	-----------	-----------	---------	-----------	---------	-----------

同	同	同	同	同	同	同
九日	九月	五月	四月	四月	四月	昭和十一年三月
自宅より、次で生理學教室に轉科	解剖學教室より	北海道博濟病院より	除 隊	除 隊	生理學教室より	ブラッセルより次で衛生學教室に轉科

慶 事



出 産

結 婚

小 瀬 尾 省 三 君
 小 泉 次 郎 君
 伊 藤 原 郎 君
 百 溪 定 七 郎 君
 門 橋 勇 郎 君
 若 林 研 爾 君
 河 田 清 士 君
 笹 島 彦 次 郎 君

高 橋 眞 雄 君
 渡 田 眞 君
 小 田 眞 君
 鶴 澤 敏 三 君
 小 平 正 三 君

長 男
 長 女
 長 女
 長 男
 長 男
 長 男
 長 女
 長 男

同
 同
 同
 同
 昭
 和
 十
 一
 年
 五
 月

同
 同
 同
 同
 同
 同
 同
 昭
 和
 十
 一
 年
 一
 月

十月

八月

六月

五月

四月

三月

二月

昭
和
十
一
年
一
月

送 別

赴任

岩崎一平君	昭和十一年三月	青森、増田病院
中野宗夫君	四月	大阪、日赤
桑野鐵四郎君	四月	北海道、博濟病院
山田迪君	四月	山梨縣、飯野村倉庫町組合病院
渡邊敬君	五月	岩手縣、岩泉濟生會支部
神山敏雄君	七月	滿洲、興城滿鐵病院
君塚正君	十月	山形縣、小松町々立小松病院

轉科

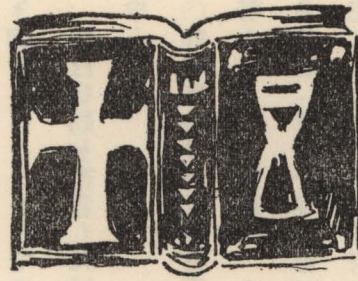
大岡保司君 昭和十一年四月 理學科へ

入營

蓮江信行君	昭和十年十二月	近歩三
大木猪四郎君	同	十二月 近歩三
稻葉玉六君	昭和十一年七月	海軍二年現役
富田忠良君	同	月 名古屋、歩六

豊田秀穂君御逝去謹んで哀悼の意を表す

+ + + + +
 + + + + +
 + + 同 + + + + +
 + + 窓 + + + + +
 + + 會 + + + + +
 + + + + +
 + + + + +
 + + + + +



昭和十一年の雜感

前 田 和 三 郎

○本年一月の同窓會に於て、幹事諸兄から不圖も副會長に就任する様にとの御話しを受けた、何分突然のことで少々當惑したのであるが、茂木會長からの御薦めもあり、木村教授と共に副會長となるのであるから考へ方によつては、同窓會の形が調ふといふようにも思はれたのでとにかく受諾した。今後は木村教授と共に、茂木會長を補佐して益々同窓會の發展のため努力しよう。

○四月名古屋で開かれた外科學會、及び整形外科學會には整形外科教室からは畠中、野崎、伊藤の三

君が出演した、殊に畠中、野崎兩君のアルバイトはその道の専門家たる、神中教授や東教授から非常な賞讃の辭を受けたのは實に愉快であつた。

○明年度の外科學會の宿題として、蟲様突起炎を茂木會長が木村教授、町田助教授、鎌田講師と共に擔當せられる事になつた、これは我國外科學の進歩の爲めといふ、尊き學者的道念の上に立たれたのは勿論であるが、他面多數の若き教室員に研究の機會と好學の精神を與へんとする、茂木會長の有難き御考へによるものであるから、教室員一同は之を無駄にしてはならぬ。

尙ほ宿題を擔當した場合は、色々隠れたる苦心の要るものである、茂木會長の御健康を切に御祈り申上げる。

○昨年度の外科及び整形外科學會の宿題脊髄外科の報告原著が岩原助教授の約一年間に亘る倦まざる努力によつて完成し、本年五月の日本外科學會雜誌（第卅七回、第二號）及び七月の日本整形外科學會雜誌（第十一卷、第二號）に立派に掲載せられた、これで宿題報告に關する吾々の責任はいよゝゝ完了したのでやつと肩の荷が降りた。

○脊髄外科原著別刷を我國の主なる専門家は勿論、ドイツに於ける「ミエログラフイー」の先達バイバー氏、Zeitschr. f. orthop. Chir.の主幹ボルレンベルグ氏、アメリカに於ける世界の脊髄外科の先達とも云ふべきエルスバーク氏、フレジア氏及びデンディー氏等のもとに各々送つた。

○本年七月拙著「前田整形外科学」を上梓する事が出来た、自分はこれによつて日本の整形外科学の現況を正しく示したつもりである。本書を我國整形外科の始祖田代先生に献呈したところ非常に喜ばれ、御病氣中の御不自由なる手をもいとはず、自筆の御返書に於て御ほめの言葉を頂き實に恐縮の思ひをした。

○本夏整形外科教室に音楽の素養のある保姆を置いて整形外科保育園を創始した。これは日々外來で通つて來る多數の肢體不自由なる幼児に、治療のかたわら若干の教育をしたいといふところから出發したもので、ドイツに於ける「タルユツペルハイム」の前提とでもいふべきものである。これが出來てから整形外科の外來は益々ほがらかなものになつた。

○本年の秋病理の草間滋教授がなくなられた、同窓會には直接の關係のない事かも知れぬが、明朗であつた草間滋教授の顔が見られぬと思ふと實に淋しい氣がする。

(昭和十一年十一月記)



漫 便
インチキアツペ

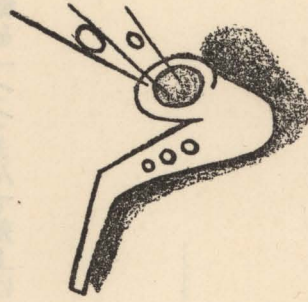
K S 生

東京から割と近い所に居り乍ら御無沙汰ばかりして何とも申譯ありません。醫局の皆様にも御元氣で御奮闘の趣、何よりの事と存じます。僕の處でも宿題のアツペに關する參考資料もがなと常に注意はして居ますが、一寸面白いと思ふのに出會しても、充分調査する餘裕がないには閉口してしまひます。僕の處へ來るアツペは地方の開業醫から紹介されて來るのが多いのですが、或る醫者の如きは少しメテオリスムスがあると必ず腸狭窄といふ診斷をつけて送つて來る。時々患者について來る事もあるのです、僕がコレはアツペからバンペリになつた様に思ひますが……などと言ふと、先生甚だ腑に落ちない顔付きで「尤もこれは異型でせうが」と頗る御機嫌斜めである。僕が「尤も瓦斯の通りは悪くなつてゐる様ですが」と云へば先生急に我が意を得たりといふ面持ちで御機嫌が直る始末です。

然し先達などは腸狭窄兼アツペがあつた。六十六歳の老人、イレウスの症狀に蓋はれて一方に氣が

つかなかつたが、手術の結果蟲様突起に相當の炎症々状を認められた。つまり *Hernia incarcerata* *recessus ileocecalis inferior* に依つて蟲様突起根部が壓迫され續發的に *circulationsstörung* を起し早期のアツベと何等異ならない外見を呈したものと思はれた。尙此の患者の小腸は非常に長い部分に亘つて漿膜下粘液囊腫が無數に散在し、或る部分では丁度海酸漿様外觀を呈する塊まりとなつて居り他の部分では豆大福餅の觀を呈し、その豆のイポイボ（大豆大）が甚だ箆頓に好都合であつた爲場所柄に似合はずヘルニア内容は甚だ豊富であつた。従つて盲腸及び蟲様突起迄強く壓迫するに到つたといふイキサツです。

こんなのはインチキアツベかも知れませんが、詳しく調べる暇もなかつたので、お茶うけ代りに豆大福を一つつまんで差上げた次第です。



「アツペと屁」

大槻正路

諸兄益々御勇健の段奉慶賀候。拙者お蔭様にて、息災に在之候間乍憚御放念願ひ上げ候

今回刀林發行のため消息及びアツペに關する經驗漫談珍事件等に知らず様との御仰せにて候ふも生來の筆不精にて遺憾に存じ居り候

たゞ先般或文士アツペにて入院手術二日目に（前夜まで正に死ぬ様な大騒ぎ致し）左の様な川柳をしたため、小生まで届け参り候へば、之にて消息及アツペに關する御返答として、お聞き届け下され度候

手術後の屁川柳五首

ガスなどいはいはれて屁共出をこなひ。

氷囊ほどの屁の玉出よと願をかけ。

そら出たぞいつても高がブーサーなり。

へひとつをへほどに言はぬお醫者どの。

命より屁玉一つを大事がり。



石 卷 市 便 り

石 卷 市 上 石 英 造

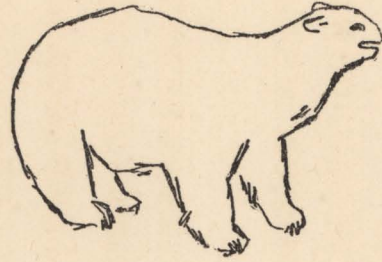
茂木先生始め醫局皆様には御機嫌麗しき御事と拜察致します。いつも御無沙汰ばかり致して申譯ありません。早いものです、私が開業してから早や十年になります。(塾出身在局者の中で私が一番早いのです)當石卷市醫師會々員の中老どころとなりました。でも氣は若いです。在局當時の氣分は十二分に漲つてゐます。今年の暑中期に先輩町田先生から、たまには上京して朗かな醫局の氣分に浸つて見給へと御手紙を頂戴した時は飛んで行きたい程嬉しかつたです。でも開業の身それも自由になりません。悲しいです。

こんな時は、開業の記念に貴局から戴いた診察室の大時計を眺めて、それが刻みこむ音を耳にして皆様の孜孜御研鑽なされてゐる倂を偲んで居ります。尙去る九月十五日我等が日頃敬慕する學長北島

先生には、大日本醫師會長の御資格にて、奥羽六縣醫師會長並びに健康保險部長會議が仙臺市に開催されましたのに御臨席下さいました。

其の席で當石巻市に御迎へ申上げ、靈島金華山參拜の御供して參りました。先生の何時も變らぬ温顔と御壯健を拜し、又先生の神前にて嚴かに我慶應醫學の學運を御祈願申した御容子を拜しては、只々感激の至りに堪えない次第でありました。

皆様も御研鑽に御餘暇のありましたなら、是非金華山參詣に御出で下さい。御待ちしてゐます。
終に醫局皆様の學運長久を祈つて筆を擱きます。



熊に引掻かれた話

林

生

廣い滿洲の野や山に治安肅正のため活躍する我親愛なる兵隊さんの討伐餘話とも言ふべき二、三の話をお傳へします。



一望千里見渡す限りの曠野を快音を立て、轟進する東洋一の快速列車流線型「あじあ」號の展望車の厚いクッションに反り返つて紫煙をなびかす視察者のグループ。近代建築の櫛比するペーブメントの上を若人のコンタックスを首にかけ、颯爽とステップを切る新京の街頭風景、その一面

何處まで續く泥濘ぞ、三日二夜も食も無く、雨降りしづく鐵兜

路なき山野を馬脚の没する濕地帯を匪賊を求めて進撃する我皇軍の活躍、汗に濡れ泥に塗れ異臭を放つ我勇士、任務とは言ひながら困苦缺乏に甘んじつゝ文字通り惡戰苦闘する我兵隊さんに接する時我々自身も感謝の念の湧かない時はない。クラীগを聞く前に先づ「御苦勞」と慰勞の辭をかけざるを得ない。

汽車の窓から見ゆる寒村、山の中の數戸しかない寂しい驛にも、滿人の汚ない家屋と竝んで守備兵の住む粗末なバラックがある。此を分遣隊と言ふ、此處で軍隊衛生と全く正反對な不衛生極まる生活を餘儀なくされる。

斯くして直接戰闘に依る死傷と氣候風土の激變、不衛生なる環境、過激なる勤務等に起因する結核と急性傳染病、此等に今も尙多大の犠牲が拂はれて居る。所謂白衣の凱旋として毎月三、四百名の患者が内地に還送さされるがその大部分は結核だ、國民保健問題が喧しい折柄眞に由々しき大事だ。

前記明朗滿洲の半面、斯うした陰慘な事實のある事を國民は知つてもらひたい。



今年の春、私の現在居る新站からそう遠くない拉賓線の上營と言ふ小さな驛、其處に分遣されて居る一隊十名の兵が匪賊が出たといふ情報を得て出動した。處が運悪く三百餘名といふ多數の匪賊に包圍襲撃され、六名は戦死、四名は重傷を負ふた。

堆高く積まれた薪の上に竝べられた六つの棺、更にその上に薪が置かれ簡単にガンリンがかけられて火は點せられた。立會ふ者はたつた一人の坊さんと隊の者、少數の居留民等極少數の人だ。それだけしか居ないのだ。勇士の肉親は一人として居ない、これが戰場に於ける茶毘だ、佛は知らぬでよい様なもの、此寂しさを親兄弟に見せたら何んと言はう。我々も唯々其殉國の士の靈に對し感謝を捧げその冥福を祈るのみである。

此の勇士達の中隊の戦友がこの復讐の念に燃え盛り、機あれば仇討に飛出さんとする意氣の熾んなのに幹部は之を抑へるのに苦心したと言ふ。

「匪賊の彈丸でも中れば穴があくから癩だ」此が兵隊さんの言草だ、何んとその旺んなる。



列車の襲撃を受けた時、乗つて居た警乗兵が腹部の貫通銃創を受けて私の病院に送られた。相當時間も經つて居り逆も助からぬとは思つたが早速開けて見た。小腸に九つの穴が明いてゐた。二日ばかり奄々としてゐて、もう終りに近づいた頃隊長が見舞に來た。室の入口に立つた隊長の顔を見て、此の瀕死の重症者は一段と眼を見はり、上らぬ頭と首を正し頤を引き、我と我身に「氣を付け」と號令をかけ隊長に注目した。隊長は「よし／＼靜かに寝てゐなければいけない、直きに治るからね」と枕許に近寄つて頭を撫で、やつた。此の時慈父の如き隊長の眼には涙が光つてゐた。居竝ぶ者も皆頭を

下げた、私も思はず顔をそむけた。此患者の危篤の報が内地に達せられた時生家から次の電報が来た。

「セイシンヲタシカニミクニノタメニツクセアトハシンハイナシハハ」噫何んといふ健氣な事か、此母にして此の子ありだ。子を思ふ切情を抑へた此母の神々しい心情には誰一人泣かない者はなかつた。



國都新京より北鮮清津へ出る國際鐵道のその中間に敦化といふ古い街がある。この街から數里離れた田舎であつた話、此年の秋木の葉も色づき初めた頃、食糧を運搬中の七、八名の我兵隊さん達、路なき山の中を木の枝草の根を分けて進行中、突然傍の木蔭から大熊が現はれ、突差の間に最後に居た二人の兵を前足で引掻いて逃走した。此二人は共に顔面をひどくやられ、傷の治つた後も一人は顔がひん曲り、眼はびつことなり物凄しい面相となつて軍人の威容を害すといふので兵役免除となり内地へ歸された。此の熊は戦友達の仇討に仕留められたが、六尺豊かな六十貫といふ大物、而かも妊娠中だつたといふ。蓋し熊君ヒス氣で御機嫌斜めの折柄強敵現はれ、彼女の逆鱗に觸れたので彼女得意のアップパーカットを喰はしたもならん。(完)



トンガラシ異聞

Y

生

穿孔しちまつたひどい嫌な奴だ、無理をして切除、経過良好だったが十日目からフステンを伴つて發熱、畜生アブセスを作りやがつたかな。今少しと思つて様子を見てゐると。

御婆さんが御見舞だ、咳が出て熱があれば風邪さ、風邪はこれに限ると「トンガラシ」をどん／＼いふした。婆さんは盛んにいふ患者は咳嗽で七轉八倒の苦しみ。近所の患者がびつくりして看護婦

を起す、醫者を起す、病室の扉を開けて見たら煙で一寸先も見えぬ、可愛想に彼も腹膜炎を起して二三日して死んだ。

ペニスクレプスと山の神

硬性下疳が何かの診断で醫者廻り驅微療法の限りを盡す。ペニスクレプスで切除。

大事なものと御別れだと痛いのを我慢して入院前日「カチャナツタ」。「痛かつたろ」「痛くてく涙が出たが山の神が可愛想だったから」との事、手術がすんで山の神なるものを拜観、なる程その顔が「ガンモドキ」。(若い方々ガンモドキに似たかゝあを嫁らはるゝな！)



笑へない笑話二ツ

竹 下 生

一、副損傷新記録

或日の夜九時頃である。チャン／＼市外から電話がかゝつて来た。出て見ると、七里ばかり離れた或田舎町のお醫者さんからである。大分周章てゐる。ヘルニアの手術をやつたら膀胱を切つた様だから、すぐ来てくれとの話。ヘルニアでブラーゼまで切る事があるかなあ？……

多分陰嚢水腫をヘルニアと間違へて、手術してザツクを破つたのではないかなあを思ひながら、それでも大急ぎで用意を整へて、出掛けた。向ふに着いて見ると、既に手術は済んで、患者は病室にゐたが盛に痛がつて苦しがつてゐる。

話を聞いて見ると矢張り、ブラーゼを切つてゐる。それも御叮嚀に、ブラーゼのシユライム、ハウトを大分剝離して切除してゐるらしい。これはなか／＼容易ならぬ出来事である。

咄はこうである。その御醫者さんは僕の親父の友人だから、相當に年輩であるが、今尙流行つてゐる

る。だが老田舎醫お多分に漏れず腕は頗る怪しい。(ヘルニアの手術は、一度もやつたことも見たこともないといふことは、その時聞いた。その人の遠縁にあたり、これは三十幾歳の青年醫師で専門は耳鼻科である。或時二人の間に交された話。

老醫青年醫に向ひ、

「お前ヘルニアの手術やつたことあるかい」

青年醫「七八年前に、二三度やつたことがある」

老醫「今俺の所に一人ヘルニアの患者があるがやつて見んか」

青年醫大分思案した末

「やつて若し、結果が悪かつたら困るが出来ないことはないと思ふからやつてもよい」

それではやらうと二人は、相談一決。數日後の夕刻、患者を手術臺の上に乗せて、二人は相對した。

青年醫少々不安らしく

「あなたメス持つてやんなさい！私が助手をします」

老醫不機嫌に、「それは困るよお前やれよ！」

青年醫「それでも……どうも！」

老醫「それでは、お前皮膚切開をやれ、それから先は、どうにかならうよ」

ヘルニアの皮膚切開どう切つてよいか、知らない老醫それでも齡の効で、落付いてゐる。斯くして遂にメスは下された。それから約二時間ばかり、ヘルニア、ザツク發見に、二人は汗を流した。ルムボールで始められた患者は、既にルムボールも覺めて生身を切られる苦痛に堪へられなかつた。最後に、引掛けられたザツクらしき膜、幸か不幸か、青年醫のピンセットの先で發見されたのである。

青年醫やゝ得意らしく、

「これがヘルニア囊ですよ」

老醫感心して

「成る程これか」

ザツクは破られた。少量の漿液が流れ出た。

老醫「水が溜つてゐるね!」

青年醫「ヘルニア囊にも時々水が溜つてゐることがあるですよ」

入念にザツクは、プレバリールレンされたが、仲々大きい、青年醫も老醫も少々不安になつて來た。

「この位にしておこうよ」と二人はヘルニア囊を縛り、ポルテは型の如くシユリーセンせられて濟んだ。

患者は、その間堪へられない苦痛を堪へて漸く、濟んだ安心も束の間、十數分を出ずして膀胱部に

堪へられない疼痛を覺へて來た。盛にハルンドラングを訴へるのである。

尿器を付けても出ない。老醫はすかさず、カテーテルを入れた。眞赤な血液を混じた、尿と少量の凝血が出た。

老醫「アッ」

老醫の不安は、こうした結果となつて現れた。膀胱を切つたんだなあ！これは大變だ？それから大慌てに慌て、僕への電話になつたのである。

ネーベンフェルレツツングもこれくらゐやれば、新記録である兎に角困つたことになつたが、放つておくわけにはいかん若し輸尿管でも切斷されてゐたら、場合によつては腎臓も剔出しなければならぬですよ。ファスチアは奇麗に處置されてゐた。その縫合を開くと、血性の尿臭を有する液がドンドン出て來た。正しく、ハルンである。膀胱の粘膜は結紮されてゐるが、完全ではないのである。ハルンはファスチア下迄浸出して、すでに相當の壓力になつてゐるのである。

剝離された粘膜は、殆どブラーゼの半分に達してゐるが、幸にも前壁が大部分であつたため、ウレトラは、その難を逃れてゐるらしい。それを確かめたので、その附近の切り開かれた筋層、筋膜を出来るだけ丁寧に縫合し、ガーゼのタンポンを入れ、ダウエル、カテーテルを突込んで、これで多分大丈夫ですよと云つた。老醫は感謝した。

それから三週間ばかりたつて、大分長たらしい経過報告と共に、お蔭で心配した程の悪い結果にならず、無事退院したと言つて來た。僕はひそかに當分はさぞ小便が近いことだらうと苦笑した。

二、瓢箪形の陰嚢水腫

これも或田舎のお醫者さんの咄。専門は全科であるから何でも得意である。或時百姓の陰嚢水腫が治療を乞ひに來た。

「手術してやらうか？」

一度も手術をやつた経験のない名醫も度胸だけはいゝ。患者もさるもの

「やつてお呉んなさい」

と來た。名醫は持合せの外科書を調べ、附近の友人の醫者の應援を頼んだ。そして物々しい用意で手術は初められた。恐るゝ皮膚は切られた。皮下組織は一本一本の纖維が入念に、開かれて行つた。ザツク迄達するに可成りの時間が費された。

「これが水の溜つてゐる袋だよ」

居並ぶ家族の面々「へー！」と言つた。

「今之を破ると水が出るよ」

とばかり、名醫はメスの先でチョツと破つた。すんだ漿液が泉の如く渾々と湧いて出た。

「大分溜つてゐるものですね」

と立會の人々は感心した。

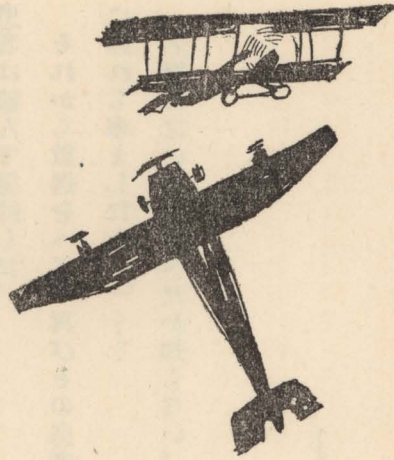
「おいこれからどうするんだい」

名醫は口の中で言つた不幸にして、ザツクの處置が完全に頭に這入つてゐないのである。家族の面々の手前相手の醫者に聞くわけに行かず、聞いても勿論相手は知らないのである。

ザツクに穴をあけとけば、又水が溜つても、その穴から吸収されるだらう。こう考へつゝいた名醫はザツクを圓く、罌丸の出入る位切り破つた。よし、これでよしと手術は成功裡に濟された。數日後患者は嬉んで退院した。

それから數週をへて、再びその患者は名醫の門をたゝいた。そして曰く、「先生こんどは妙な恰好に腫れち來ましたあ?」……

名醫は之に何と答へたか知らない。



中島飛行機製作所病院便り

横 山 生

今年二月一日此の病院に來てまる十ヶ月、あつと云ふ間に過ぎて了つた。當院は皆様も御承知の様に、昭和八年に中島飛行機會社診療所として従業員並にその家族の診療を目的として開設され、内科の淺野君（四回生）が單獨で赴任されたのですが、その後同君の非常な努力により次第に各科を開設され、外科は皮膚科の宮田君が兼任されておりました。従つて婦人科だけがなかつたのです。所が患者が次第に増加して來たので、淺野君が會社側を大に説得之努めたる結果病院建設が決定し、今年二月を以て開設することになり、此機會に外科専任及婦人科を新設することになつたのです。小さいながら慶應出身者許りの氣安さで、各科獨り天下で兎も角も愉快に診療に従事して居ります。

往診料は金四十五錢、車代の方が高くなります。外科は外來患者が大體四十人前後ですが大したものはなく、忙しい時は看護婦に交換させることもあります。入院手術の患者ですが、此の十ヶ月間に治療した病氣は私が赴任當時考へてゐたよりは多く、何と言つても蟲様突起炎が一位を占めて五十五例あります。此の中腹膜炎を起してゐたものが六例あります。また腹膜炎後イレウスを起して吻合術を行つたもの一例、死亡せるもの一例あります。

次は骨折ですが、自動車事故による頭蓋骨陥凹骨折——之は學生で、フロリダのダンサーをダットサンに同乗させ、村山貯水池へドライヴの歸途青梅街道にてオートバイと衝突して外傷を受けたものですが、數日後偶然にも茂木先生が往診下さつたことは非常に嬉しいことでした。相手のオートバイの方は鎖骨々折及内出血があつたので手術した所、脾臓の皮下断裂があり、縫合して助かつたので後で鎖骨々折の方も手術、ダットサンもオートバイも助かつて退院しました。——骨折で面白いのは野球外傷（スポンヂボール）で投手をして直球を投げてゐて、急に下手投で投げた所上膊骨がボキンと音を立て、折れたもの、如く急に腕が動かなくなつたといふ。X線検査の結果、上膊骨の完全骨折でした。之は整形外科の方に御願ひしました。

同じく野球で盗塁の際、スパイクが引かゝつて下腿の脛骨並に腓骨の完全骨折がありました。之は目下治療中です。その他骨折が可成りあります。

内臓の方では胃潰瘍の穿孔性腹膜炎一例、手術したが死亡。蛔蟲症に依るイレウス。廻盲部結核に依る腸狭窄。上腸間膜血管閉塞症に依る廻腸壞疽——之は廻腸を六十糎程切除して助かりました。非常に一般状態が悪いので子宮外妊娠かアツペの腹膜炎？として開腹した所が、意外のものが飛び出したもので手術臺の上で一時呼吸、脈がなくなつて人工呼吸をしながら家族の者を手術場に入れて、最後の告をした所、その内呼吸が恢復、それから輸血等をして一般状態少しく好くなつたので再び手術、腸切除腸吻合術を遂行して幸に一命を取り止めた例です。

その他ヘルニア、乳癌、血管腫、アヒレス腱断裂、痔核等で、私が赴任前考へてゐたよりは手術も多いので毎日愉快に多忙な日を送つてゐます。



釧路便り

桑野生

釧路といふところ

北海道の東南、釧路川に跨つて太平洋に臨む人口約六萬の小都會釧路市がある。町の後方は一望千里廣漠たる釧路平原であるが、人家は極く疎で岡山縣全體よりも尙廣い位の範圍に人口僅か三萬に過ぎない。而も野生の丹頂鶴が悠々散歩してゐる。風景は實際にまだ見ぬ内地の人には想像も及ばぬのどかさである。

氣候は勿論寒い、六月下旬に漸く櫻が咲き、七月十五日に始めて汽車のスチームが通らなくなる。極寒の候は萬物總て凍結し、酒などは練瓦の様になつたのを一切づゝ繩に縛つてさげて行く。

それだけに暖房装置は精巧を極め、室内は常に七十—八十度を保つてゐる、従つて夏はセルに羽織を着てゐるに反し冬は浴衣一枚である。冬の夜ストーブを圍んでの一家團欒は實に *Angenehm* の一語に盡きる。こゝに住み馴れた人は誰でも、決つた様に「東京もよい所だが冬の寒いには閉口だ」といふ。

博 濟 病 院

釧路市の略中央、浦見町高臺に地方裁判所と並んで博濟病院がある。木造二階建てその形、その大いさ慶應の東校舎にそっくりであることは慶應育ちの吾々にとつて特に親しみを感ぜしめる。

院長は吾等の茂木先生と同窓の赤門出、明治三十九年此處へ始めて來た時には北海道全體に「醫學士」といふものが四人しか居なかつたといふ。従つて名聲忽ち全市は固より全道に普く、遠く千島の果てより診を求めて訪れるものも多數にあつたといふ。爾來三十年隆盛に隆盛を重ね今日に於ては釧路の市に院長の往診しない家は残つてゐないと云はれてゐる。

博濟病院が慶應系なるに對して北大系の市立病院がある。市中の開業醫も殆ど總てが嘗てはこの兩者何れにか籍をおいた人である。勢ひ醫師會は兩派に分れてゐるが醜い暗闘の如きものは全然なく、毎月十日に催される醫師懇親會は實になごやかなもので、酔へば互ひに打連れて散歩するのが例である。

院内も院長を中心に全員四十餘名極めて親密に且つ朗らかである。

ア ツ ペ

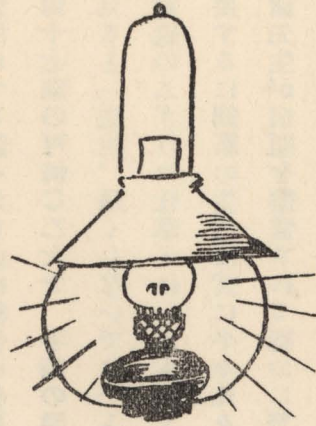
編輯係より特にアツペのことを報告する様にとのことであるが、私は赴任後僅かに約半年にしかならぬので症例も少なく、今日迄の手術は僅かに四十數例に過ぎない。従つて特に記して貴重なる紙面を塞ぐ程のものがないのを遺憾とする。

然しこんな田舎でありながら、アツペに早期手術の必要なることのよく普及宣傳されてゐるには驚くと同時に先人の努力に限りなき敬意を表する次第である。一診アツペの診断をつけると患者の方から「ではすぐ手術を」と申出る、東京の知識階級でも手術を承諾させるまでには相當骨の折れる場合がある様に思ふが、この點非常に樂である。

強いて比較的珍らしい例を求めると蛔蟲迷入によるものが一例あつた。これは單に一例報告でなく統計的にも調べたら或は報告の價値があると思ふ。

尙十七歳の可憐な乙女で、手術の翌日廻診して腹帶を解くとその間から小さな紙片が出た何氣なく見ると「先生、痛くしないでネ」と書いてある。附添ひの姉と相談して案出した一策らしいが、お轉婆娘のふざけた仕草とはいふものゝ疼痛防禦策としては正に効果百パーセントであらう。

要するに釧路の生活は實に平々凡々、進歩なき一日々々を送るのみで、母校の教室では茂木先生始め諸先生が宿題を擔當されて懸命に努力して居られるに對し、片田舎で安逸を貪つてゐることを誠に申譯なく思つてゐる次第である。



東電病院便り

森 文 雄

醫局の近くに居りながら醫局へは御無沙汰勝で誠に申譯なく思つて居ります。

今年も残す處僅かになりました。學會も追々近づいて茂木先生はじめ教室の皆様益々御多忙の事と御推察申し上げます。私が東電病院へ勤める様になりましたのもつひ此の間の様な氣が致しますが、早いものでもう僅かで滿四年になります。でも醫局が近い爲か本當に醫局を去つて他の病院へ赴任したと云ふ様な氣持になれずに居ります。

オペラチオンも相當にやりました。數では矢張りアツベが一番です。電氣火傷も時々相當ひどいのがやつて來ますが漸時減つて來てゐる様です。バトをやつて居られる方でも研究されたら面白い仕事ではないかと存じます。

オペラチオンをして死んだのはマーゲンクレブスが一人、イレウスが二人、膿胸（大人）が一人だけだと思ひます。アツペも中には相當ひどいものも有りましたが幸ひに未だ一人も殺しません。アツペのオペラチオンの度に何か珍しいものでも有つて、宿題報告の御役に立つやうなのが有つて呉れ、ばと願ふのですが平凡なものばかりで失望致して居ります。

こうして大過も無く勤めて居る事の出来たのも一重に先生方の御指導の賜と深く感謝致してゐる次第です。

茂木先生はじめ皆々様の御健康と御奮闘をお祈り致します。

濟生會病院外科の近況

島 田 信 勝

昭和十一年度外科學會が、名古屋市中にて開催の最中吾々濟生會外科醫局に「ゲカシユクダイタントウスカマタ」といふ電報が舞ひ込みました。當日は日曜日でありましたが、何となく心騒ぎが致しましたので、病院へ来て居りました。所へ此の報告をうけ、來院せる二三の醫局員と雙手を擧げて萬歳を叫びました。早速醫局員の來院を乞ひ、當時御入院されてゐた鎌田醫長の親友西田敬先生を輸送車にて病室より外科外來へ、又鎌田先生の御令閨様を御宅より御迎へ申上げ、一同歡喜の坩堝の中に、祝盃を擧げ遙かに外科教室の發展と鎌田先生の前途を祝福すると同時に、宿題完成への第一歩を踏み出しました。かうした純心な感激の情景もはや八ヶ月前の想ひ出となりました、只今では、全醫局員只管宿題完成を期して、努力に努力を重ねてゐる次第です。

現在醫局員は、十三名程おりますが、患者の數より見ますと、決して多い數字ではありません。毎日の診療に際しては實に極めて多忙を極めてゐる状態です、繁忙に加ふるに、場所ありませんので「アルバイト」開始の時間も自然制限される様な譯で、大抵は午後三時より夫々仕事に取りかゝるや

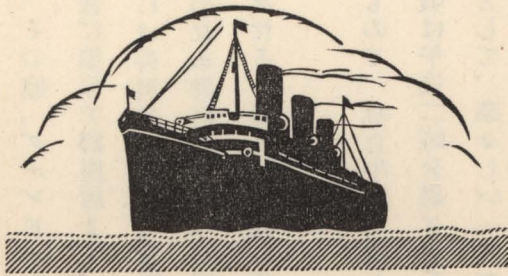
うに致して居ります。

醫局員の大部分は慶應の卒業生が占めておりますが、その他「グランド」の方で仕事を濟された三四會員も可成り居りますので、四谷と同様慶應気分も甚だ濃厚で御座居ます。而も毎週茂木先生の御來院があり、種々御指導御鞭撻を賜りますので、私達には外科教室に居た當時と同様な氣持で過してゐる次第です。又長年私事を放棄して、只管慶應發展のため御努力下さつた鎌田局長の偉大なる人格は文字通り、醫局の一致團結を招來して、實に和氣霽々たる一家庭を表現してゐるかの感じがあります。

醫局員少數とは言へ、強い團結心の向ふ所實に凄いもので、毎日午後三時より九時迄の間は全員寸時も惜んで「アルバイト」に従事致して居ります。近頃は午後二時を過ぎますと、各々本日の「テーマ」を要求され、醫局、新患室、外來診察室等を戰場として、華々しい「アルバイト」戦が展開される様は學徒の本領とは申しながら實に、涙ぐましい場面であります。斯ふして、午後九時頃になりますと、切りのよい所で本日の「アルバイト」を終り鎌田先生を頭に全員一堂に會して「コーヒー」、「紅茶」時には「ビール」等により勞を慰しつゝ種々本日を懇談致すことになつて居ります。近頃は、日曜、祭日の區別なく、毎日以上を繰り返して居ります。之は統計に關した極く一部分の狀況であります。但、大多數は各自の「テーマ」がありますので此等は、此の時間以外に行ふことになつて居りま

す。故に各自の負擔は相當大なるものがありますが、絶えざる努力によつて、今や終局に近づきつゝあります。

最後の奮闘を期して擱筆致します。





茶のしみ話

東 金 生

何れも無駄のお話である事をことわつておく。

其の一 棒で女を釣る話

先頃赤坂三會堂で蘭領「ニュージランド」の十六「ミリ」映畫を見せてもらつた時、ついでに面白いものを見學して來た。精々三尺位の細い棒である。原名をきゝもらしたが一名夜〇棒と云ふものさうである。手に取つて見ると棒全體にいとも丹念に無邪氣な加工がしてある。實に見事なものである。此の棒は土人の若者たちが椰子の葉かげでひねもすかすゝの思ひを胸にひめて精魂を費してでつち上げるものさうである。夜月の出る頃今宵の首尾を念願しながら娘の軒場に立て掛けるのださ

うである。繊細ならぬ娘の手が一本の棒をいとも面はづかしげに引き入れる時其の棒の主こそ有難くも、今宵を約束されるのださうである。上弦か下弦か満月かはしらないが青い光を浴びながら一本の棒に己れが運命を託して大きな眼玉をぎよろつかせながら、今か今かと待つてゐるであらう士人の生話を想像して見るのも一寸愉快である。

其の二 學生獎學の話

僕は毎日汽車で通つてゐる。都合がよいからである。乗り込む箱が一定してゐる、東京驛に着いてから便利の爲めである。そこで毎日面白い場面を見せられるのである。二名の某大學生と某女學生との可憐にして勇しき「ローマンス」である。大學生の方は横濱から通學してゐるのであるが、女學生はどこか知らないが少くとも大船以西であらう。時は「ラッシュユアワー」である。人をおしのけても席を取り度い混雜の折である。所が勇ましくも女學生は大學生の爲めには形振かまわず、ちやんと席を設けておくのである、そこで四人の若者たちの間に楽しい汽車の旅が行はれるわけである。此の一群の成り立ちを僕は知らない亦その將來も僕には何等の關係もないわけである。而し現状に破綻の起らない間はこの連中は雨の日でも風の日でも、いや一寸位風を引いた位ひでは決して學校を休むどころか一回も遅刻さへしないであらう。學生獎學の對策としてはどうかかなあ

其の三 面目をほどこした男の話

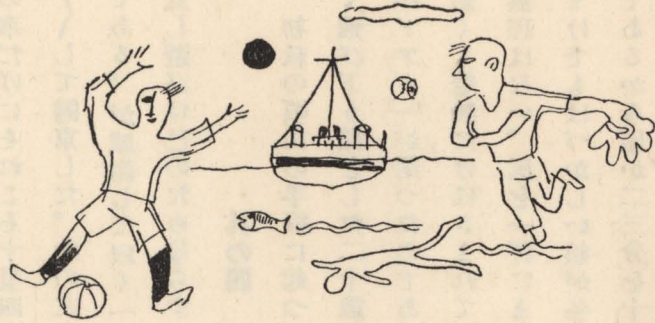
今年の夏教室で上越國境蓬峠を越えた時の話である。教室某君の郷里某町でえらく豪遊をした田舎藝者を總動員して一里程を舟で下りそれこそ文字通りの底ぬけさわぎをやらかした。川端のお百姓さんは仕事の手を止めて盆と正月と一緒に來た様なうれしがり方であつた。後で聞いた話であるが田舎の事だけにそれこそ十里四方大評判であつたらしい。所がその直後歸國した同郷の友人が實にこゝとして歸京した。此の友人は道樂「オッサマ」と云ふ越後では餘り有難くない異名を戴いてゐる男である。が感謝して曰く「いや君たちが馬鹿さわぎをやつてくれたお蔭で俺の評判がよくなつたよ」蓋し遊びは己のためならず。

其の四 現代の女性須らく洋裝なるべし

初秋の頃山の手線に起つた御話である。丁度電車が目黒驛に停車して正に發車し様とした時あわてゝ飛び下り様とした二十歳前後の下町風の娘があつた。下り様として右足をうんと踏張つて出した時「ドア」が閉つたのである。娘さん足をはさまれては一大事とあわてゝ引き込めたのであるが、運悪くも着物だけはさまれてしまつた。今までこくり／＼やつてゐた連中まで一齊に眼を見張つたのも無理はない。尻を一杯にまくられた娘が「ドア」の所に突つ立つてゐるからである。顔を見られたゞけでもはづかしい娘が冬でゝもあつたならそれこそ風でも引いたであらう位ひ股までまくられたのであるから僅か二三分を十年位ひに感じた事であらう。さても着物と云ふ奴は不都合なるものかな。

小樽病院最近十ヶ月の入院患者に就き

古 山 實



今年是我が小樽病院の外科は非常に患者が多くて、八月の如きは六二名の入院患者が来て、一日に五三名を廻診するといふ小病院開設以來の記録を作りましたので、一寸整理をしてお知らせしたいと思ひます。これは實に山本院長の並々な努力の結果によるもので一ヶ月時間外手術二十回などの超馬力が、あの細い身體の何處にあるのかと疑はせる程です。然も一日もお休みにならず院長としての對外對内の煩雜な院務以外に、これだけの患者を處理せらるゝ事は凡人の遠く及ぶ所ではないのであります。尙先生の元氣の良さは待望五年のゴルフのカップを今年初めて獲得した事に依つても充分察せられます。

以下簡單に統計を申上ます。

患者は入院患者のみで、本年一月より現在（十月末日まで）に至る満十ヶ月間のものです。

月	男	女	計
1	17	10	27
2	19	10	29
3	27	11	38
4	19	7	26
5	22	11	33
6	22	10	32
7	30	13	43
8	44	18	62
9	28	18	46
10	28	14	42
計	254	124	378

總計三七八名中男は女の約二倍で、季節的には三、四、五、六月に漸次増加し八月最高に達し七、九、十がこれに次ぎます。十一月よりは毎年減少の傾向を示します。これは小樽の氣候にも多少は影響せられるかと思はれます。

次に慶應式に病類別に分類して見ますと次の様になります。

I	全身病	17
II	神経系の疾患	6
III	血行器	23
IV	呼吸器	5
V	消化器	171
VI	泌尿生殖器	8
VII	皮膚運動器	91
VIII	先天性畸形	8
IX	外因によるもの	69
計		378

一、全身病中二例は敗血症で、十五例の悪性腫瘍中胃癌乳癌各三例、舌癌直腸癌各一例、その他三

例、肉腫三例で、手術不能の舌癌及試験的開腹術を行つた肝臓腫瘍の二例以外は手術して全治しております。

二、神経系疾患なし。

三、血行器の疾患中脂肪腫の一例以外の二二例は何れも急性淋巴腺炎で切開しました。

四、呼吸器疾患は全部膿胸で五例中二例の死亡は一寸残念です。

五、消化器疾患は最も多いもので

A、耳下腺腫瘍

C、急性胃擴張症

D、ヘルニア——一七例

イレウス——一〇例

腸結核——二例

蟲様突起炎——一〇五例

E、肛門疾患——三四例

即ち消化器疾患のうちにも矢張アツペが一番多くて全入院患者の二八%を占めております。そして早期手術六一、中間期膿瘍手術十一、間歇期手術六、危急手術二三、内科的保存療法四例で危急手

術中三例の死亡數を數へます。

六、泌尿生殖器疾患中乳腺炎四、陰囊水腫二、副睪丸結核睪丸腫瘍その他各一例。

七、皮膚運動器の疾患は消化器に次で多數を占めて居ります。

A、疔癰蜂窩織炎丹毒 五七

B、筋 炎 五

C、骨膜炎、骨髓炎 二〇

D、關節炎(脊椎カリエス) 一九

八、先天性畸形八例中兔唇多趾各一例で以外は股關節脱臼であります。

九、外因に由るものは六五の多數に及びます。築港や鑛山の外傷以外に近來は當地でも自動車に由る事故が相當増加して居る様であります。骨折三五例中脊椎骨折四例頭蓋骨折三例を見ます。その他尿道破裂腎臟破裂の各一例腸破裂の二例がありますが、腸破裂の一例以外の三例は死亡しました。

以上極簡單に入院患者に就き記しましたが、死亡數は一六で四であります。今後は大いに頑張つて死亡率を減少させたいと思ひます。



岩泉の秋

渡邊敬

茂木先生始め醫局員御一同様が、益々御壯健にて宿題の爲め御奮闘遊ばれる事を大慶至極に存じて居ります。

岩泉は盛岡の先の沼宮内驛にて下車しまして其處より自動車（乗合）にて五時間、賃切なら二時間三十分を要する場所にありまして、周圍は山を以て圍まれ町の中央には綺麗な川が流れ、今山々のもみじが赤くなり、丁度鹽原温泉を思はせる様な山紫水明の町で、人口は約五千人です。病院は高い土地に位置し飛行機型をなしモダンな建物で、患者の收容人員は五十名にて醫師は院長と私との二人にて、看護婦は三名見習看護婦四名、アポテーカー一人、事務員三名、小使二人にて岩手醫專病院より外科の看護婦一名、醫師一名が来る事になつてゐます。此の病院の目的は一町七ヶ村（下閉伊郡の）

人口約三萬を診療するにあります。開院致しまして二ヶ月になりませんが、主なる手術は乳癌一名、腸重積一名、蟲突炎二名、痔核一名、扁桃腺（口蓋）摘出五名計十名になつてゐますが、今迄ステルベンせるものなく豫期の効果を擧げてゐます。院長先生も蟲突炎の早期手術に對して、理解があり、ますから蟲突炎の手術は増加することは疑ひありません。整形外科方面にてはギブスベツト、ギブス繻帶をやつて居ります。圖書も茂木先生の診斷學、前田先生の整形外科學、キルシユナー、ノルドマン、ヒルルギー及びクラインシユミツト外科手術學を買ひ求めました。

乍末筆醫局皆々様の今後共御指導御鞭撻の程一重に御願ひ致します、外科診察室に茂木先生の御寫眞を賜り、掲げさせて戴いて居ります。御寫眞の前にて慶應外科整形外科の名を汚さない様奮闘致して居ります。

私達のブライド平和と團結を誇る外科醫局の益々御發展の程祈り上げます。

甲斐雑話

山田迪

一、待合へ馬を置いて来た話

富士、八ヶ岳、南アルプス何れを見ても山々々々……である。甲斐に来て初めて山の雄大さと秋の美しさを知った。こうした甲斐盆地の西南隅に倉庫町がある。此の町を中心に一町二十四ヶ村（人口三萬）が即ち私の組合病院區域である。殆ど總てが百姓でありながら、一粒の米をも取ることも出来ない憐れな所である。田圃がない、稻を作りたくても水がない。見渡す限り桑園である。蠶を飼つて一年中の生計を立てゝゐる。蠶が米になり味噌になり税金になる。どんな小さな家でも二百貫や三百貫の上繭をとる。老人子供に至る迄濱の生絲相場がどうのアメリカの景氣がどうのと論じてゐる。アメリカの景氣が好ければ濱の生絲相場もよいし、次いで繭も高く賣れるので此の邊の景氣も上々となる。まるでアメリカの景氣とこの邊の景氣とが結び付いた様な所である。

私のゐる町は丁度此の繭の集散地である。お蠶時で少し繭相場でも好ければすばらしい人氣である。冬春にかけては約四十名内外の私娼が、お蠶時になると七、八十名から百名になる。私はこの組

合病院に来て初めて検診なるべきものをやるべく餘儀なくされて、毎月十日目毎にそれをやつてゐる。夫々異つた顔と異つた孔とを診てゐる。これら百名からの私娼が何れも百姓の汗と力の結晶なる繭の賣上金を狙つて居るのだからたまらない。此の夏の出来事である。南アルプス蘆安登山口の或百姓が例によつて百貫近い繭を馬の脊につけて町に賣りに來た。思ひの外の大値で大金を懐にした。心祝ひに一杯だけやるつもりで小料理屋へはいつた。待ちかまへてゐた數名の白首連中が下へも置かぬサーヴィスにいゝ氣になつて一杯が二杯となり、酔ふ程に飲む程に氣が大きくなつてしまつた。五百に餘る大金は懐にある大名にでもなつたつもりでつい本腰をすえて、座り直る程に歸るのも忘れて五日程居續けてしまつた。

裏庭につないで置いた馬の嘶きによつてふと我に歸つた彼。會計を見ると夏蠶の賣上金全部を出してもまだ四、五十圓不足だ。百姓今更ら青くなつて後悔しても始まらない。都會の待合なら早速つけ馬でも連れて歸らなければならぬ所である。所がさすがは田舎だ。永年飼ひならした愛馬をとう／＼待合へ取り上げられてしまつた。馬をつれて歸るといふ話は醫局時代時々耳にしたことはあるが、馬をとられて面目なげに歸つたといふ話は始めてゝある。馬こそいゝ迷惑ではある。

二、中耳炎の蛆蟲療法

お蠶だけで一年中の生計を支へなければならぬ、百姓はお蠶に失敗したらそれこそみじめなもの

だ。お蠶といへば何事をも打ちすて、夢中になつて盡して居る。時には人間の生命以上に尊重されてゐる様だ。従つてお蠶の最盛期になると大變だ。病人や子供はまるで顧られないのである。

志村某といふ二歳の男の子。四、五日來泣いて、少しも眠らないから診てくれといふ。聞いてみると昨年來耳だれで耳から膿が澤山出てゐたが數日來出なくなつたといふ。何の氣もなしに左の耳を見ると、何か動いてゐるものが奥の方にある。ピンセットでつまみ出して見たら驚くべし蛆蟲である。出るは、二十匹といふ大量の蛆蟲が押し合ひへし合ひぎつちり詰つてゐる。これでは痛がるのも道理である。初め外聽道の入口に居たであろう蟲は膿を求めて段々深く喰ひ入つたのであろう、終に鼓膜は喰ひ破られてゐる。母親はポロポロ涙を流してゐる。蠶が忙しくて子供は柱にしばらくつけて蠅がつゝ、泣こうがほつたらかして置いた爲に蛆が出来たのである。子供こそいゝ災難だ。

而し何が幸するものであるかわからぬものである。滿一年餘り何れの醫者に行つても治らなかつた耳だれが奇麗になほつてしまつた。膿も出なくなつた。母親は先生が上手だからといつて悦こんで居る。自然による蛆蟲療法なる尊い經驗を得たのである。

三、蛔蟲にだまされた話

町の二、三の先生に診てもらつた。或者はアツペだと言ふ、他の者は膽囊結石症だといつてお互に主張し合つてゐる。患家では困つて小生の往診を乞ふて來た。二十八歳の女、二、三日前より微熱と共

にお臍の右の方が急に痛み出して、數度黄色い水を吐いて苦しむだと言ふ。昨日來急に廻盲部に約手拳大のアブセス様のツモールが出来た。A先生が廻盲周圍膿瘍の診断を下つてアツペの手當をしてゐるといふ。觸診して見る場所は正しくアツペの場所であるが、アブセスにしては變だ。あまりにグレンツがハツキリしすぎて居り且つ可動性である。壓を加へてみてもアツペの時程疼痛は訴へない。髄温は三十七度二分である。アツペと診断を下したいが而しアツペとは少し違ふ様だ。はて何であらうこれでは小生も結局わからないことになる。白血球數を調べたくても仕度がない。色々聞いて見ると嘔吐物の中に蛔蟲が二、三匹ゐたといふ。更に昨夜も二匹口から出たといふ。思ひ當つた、蛔蟲によるツモールであろうと。早速サントニン、マクニンあらゆる驅蟲劑を與へて見た。サントゾールの注射もした。その後數日に亘つて出たくゝ蛔蟲が全部で百四十一匹。これにはさすがの患者も驚いたが小生も驚いた。廻盲部のツモールは無くなり、患者はピン／＼して働き出した。赴任後間もない頃である。



(通)

(信)

(欄)

成松清敏

會員諸兄益々御健勝の由、喜ばしく存じます。殊に會長始め在局諸兄には來年度の日本外科學會宿題御擔當の爲め定めし御多忙の御事と、曾て「創傷治療」宿題に御手傳せし小生は、當時を回想して御同情申上げる次第でございます。來年の日本整形外科學會宿題が「災害外科」であるので、何か炭坑外傷に就てやつたらどうかと勸める方もございましたが、纏めるのに餘暇を持ちませんでしたので、例の「單獨横突起骨折」の經驗四十八例に就て

でも十分間演題として出て見ようかとも思つてゐます。

終に今夏母を失ひまして目下未だ服喪中でございますので、來るべき新年の賀詞は差控へさしていただきます。

先は同窓會の盛大を祈り近況御知らせまで。

大庭國紀

皆様御變りもなく御元氣の事と存じ上げます。私本年三月迄鎌田學兄の御援助をうけまして、四月から診療に従事してゐます。當地に開業いたしました十周年になりました。回顧いたしますと速ま早だけです。

まだ自祝もいたしかれてゐます。

梅村六郎

編輯係諸兄の御努力の御蔭により、年々會員各位の御發展の御近況を拜見するの機を與へられ眞に感謝に堪へず深く敬意を表する次第です。小生昨春ほんの遊のつもりにて横濱在大雄山病院に参りました。つい深入りし今「醫人の眞の使命」の爲に餘生を奉仕の生活に送つて居ります。茲に謹んで刀林紙上を借りて御報御詫び申上げます。

戸田四郎平

いつもながら御無音何とも申譯ありません。茂木先生初め諸先生並に醫局諸兄御壯健にて宿題蟲様突起炎御研究の由何よりと存じ上げます。小生は夏以來體を害し、醫局員工藤氏の御手傳を受けほつゝ働いて居りますから御安心下さい。田舎に引込んで七年、雜誌を見ず學校にも出かけずほんさうの田舎者になつてしまひました。

體を直して尙一度出直す覺悟です。

中村武重

醫局皆様益々御勇健の御事と存じま

す。宿題御擔當の本學年は御多忙の御事
と存じます。小生十月半より肝臓が腫れ
黄疽を發し、未だ元氣恢復せずへこたれ
て居ります。山本小樽病院長の來駕を得
たるも大失禮致しました。

山本 順

醫局皆様の御健康を祈りますいつも御
無沙汰ばかり致し申譯無之候、御教室益
々御隆盛の段奉賀候、來年は宿題報告に
て御教室御多忙の事と御察し申上げ候、
小生も小樽在任足かけ七年、滿六年五ヶ
月、小樽赴任當時の紅顔の美青年も今は
子供から「テランバーゲ」と云ふ有難き
尊稱を奉られ居る有様に有之候。

小樽は最早や白雪に包まれ醫局一同は
スキーの準備に忙殺され、病院本冬中の
スキー登高のスケジュールも出来上り候
豪快なる處女雪滑降の快味を一日千秋の
思にて待機中に候。

關 市 衛

昨年迄は新聞を見るに苦勞がなかつた
が、今年からは老眼鏡を常用せねばなら
ぬ事となりました。それは新聞を見るに

馬鹿に眼が疲れ、抜糸の際細い縫合糸な
どを時々見落し「先生モー一本糸が残つ
て居ます」など、看護婦から注意をされ
る様になつたからです。未だ氣は若い
眼だけは致し方がありません。

篠原 靜 夫

先生始め教室皆々様益々御壯健にて結
構です。亦本年は宿題御擔當御奮勵の御
事と察します。さて小生は相變らずの開
業稼ぎ早や三ヶ年もたちました。三年た
てば樂にならうと思つて始めましたが、
何時までかゝるか見當が付きませんが、
教室の御繁榮皆様の御健康を祈ります。

林 軍 醫 正

平常御無沙汰にのみ打過ぎ申譯之無く
候、茂木先生益々御壯健に諸先生各位亦
愈々御健勝の段賀し奉り候。

明年の學會を控へ愈々御多忙の事と拜
察致居り候、小生早や在滿二年となり申
候、御蔭を以て元氣にて多忙な勤務を勵
み居り候、國際關係の難局、對支外交の
紛糾の際第一線にあり、萬一の準備に怠
りなく候、向寒の折茂木先生始め諸先生

の御健康と醫局の繁榮を遙かに祈り申上
げ候。

神山 敏 雄

秋冷の候益々御健勝の段御喜び申し上
げます、小生事九月十七日大連を引上げ
て當地へ参りました。その後も南山線沿
線の各病院やら、去る廿四日から哈爾濱
新京と視察に出かけて居て一昨日歸宅し
た様な次第です。

教室は愈々學會の準備で御多忙でせ
う、小生また病院の方は器械一つ到着し
ないで何時開院出来るか見當もつきませ
ん。この淋しいホテルに一人暮してゐる
のが退屈でやりきれません。過日哈爾濱
では佐藤憲一君とハダカオドリやら、キ
ヤバレーを見て夜深しをやつたので昨日
から少し風邪氣味で弱つてゐます、昨日
は滿洲では中秋節で城内は大變な賑だつ
たらしいですが見ませんでした。明日は
城内に電燈がついたので滿電で御祝をや
るさうで招待されました。錦城からジ
ン公が十数名来るさうでそれを楽しみにし
て居ます、近郊の散歩もいゝ時期ですが
まだコリーナンが刈取られないので一人

歩きを禁じられて居ます。

醫局の諸兄、同級の諸兄へ何卒宜しく御傳へ下さい。

濱野碩太郎

初冬の候と相成りましたが、茂木先生を初め皆々様益々御清祥の御事と存じます。平素は誠に御無音に打過ぎ申譯ありませんが御陸様にて至極健康にて暮して居ります。一度上京し諸先輩諸兄に御目にかゝりたいこの念願で居りますが、いつも突然の患者にてその機を得ず、失禮のみ致して居ります。刀林へも一度田舎の開業醫の内容でもと考へてゐますが、筆不精の小生には果し得ず困つたものです。

終りに刀林を通じ皆々様へ宜敷く御風聲の程願上ます。

竹下貫一

菊の候となりました。茂木先生始め御一統様いよ／＼御壯健のこと、拜察いたします。本年は宿題報告でさぞ御多忙のこと、存じます。遠くゐて何のお手傳も出来兼ね甚だ申譯なく存じます。慶應醫

學のため萬丈の氣焔を吐かれんことを御望いたします。

四條龍作

毎時思ひながら御無沙汰して居ります。茂木先生始め醫局の皆様御元氣の事と存じます、小生相變らず平々凡々毎日同じ事を繰り返して居ります。樂しみと言へば好きな碁を圍む位のもので、中央に居られる皆様も時々御目にかゝり新しい種々御教導に預り度くと思つても開業醫の悲しさ、體をしばられて居るので上京の暇さへ見出せず、年々田舎者になる事を痛歎して居ります。

横山虎雄

師走の空も近づき御忙しい中を刀林編輯の爲め御努力下さる教室の皆様は厚く御禮申し上げます。格別本年は外科學會宿題報告の爲め茂木先生始め皆様が寸暇なく活動なされて居る有様を時々拜見し居る私にとつて、此貴重な時間に刀林發行の爲多大の犠牲を拂はるゝ事に對しまして深く敬意を表はす次第でございます。本年二月赴任以來約十ヶ月幸に大過

なく診療に従事致して居りますが、之も一重に茂木先生の永年の御教導の賜と今更ながら深く感銘して居る次第でございます。日々非常に多忙な生活をして居りますが、何處へ出ても恥かしくないと言ふ確心を持つて治療すべく専心努力して居りますので、自分としては愉快な生活を續けてゐます。終りに先生始め皆様の御健康を祈り上げます。

川田正雄

先日は久方ぶりに長い時間を醫局の空気に浸り、知つてゐる總ての諸兄と談りそしてお酒を御馳走になつて、歸つて來てから頼に若返つて來たことを自覺し嬉んで居ります。吾々醫局生れの者にとつては、この母體より抽出されるものこそ何よりウキルクザームなホルモンなのです。注射して貰ひにはこつちから出掛けるのが患者道なのでせうが「往診」の規定も許されてゐる筈ですからそれも願ひたいものです。

佐藤院長、志田、栗本君も健康に活躍されてゐますが、ホルモン注射は薬理上多量で悪いこともありますまいから精々

よろしくお願ひ致します。

中村次郎

心に懸つて居た刀林返信のハガキに向ふ、茫然として古巢懐しき情が込み上げて來ます。警局から合棒が漸次影を消しました。警局に顔を出しても忘れられて何者だま白眼視されるのも遠くはありますまい。心細いですれ、せいぜい上京したいのですが大阪からでは時間が得られぬのが残念です。いざ開業と決心した時人觸りの悪い様では何うであらうと心配したのですが、案ずるより生は易し無事人に伍してやつて居ます。只口下手だけは依然たるもので世の波に揉まれても一向上達しません。將來も見込みがありません。ムンテラ學校があれば悦んで一年生に入學したいと思ひます。家内と女兒二人の四人暮らし、皆健康家庭至て平和良き交振りを發揮してゐます。

松井八郎

先日は久し振りにて茂木先生初め警局員諸兄の益々御健勝の呈を拜し感慨無量に御座候、住めば都さやら五年振りに内

地に歸り見れば、却つて朝鮮が住みよき如く感ぜらるゝもおかしう候。

此度は飛行隊附のため、毎日々々プロペラのウナリを開きつゝ、診断のための聴診器にもプロペラの音入り來り候。

中村廣人

伊豆西海岸土肥温泉から東京へ歸つて早一年になります。矢張り都はよいですれ。大勢の友人が居り退屈する様な事は一日もありません。克蘭ケが少なくてもホカンと外來に倚つて飽き足らない氣味であつた日も度々でした。

従つて朝顔作りとか園藝に味を覺え、東京に歸つても夏は大輪朝顔、秋は菊と勉強の餘暇を樂んで居ります子。

供は長男一人、母と家内との四人暮らしで皆至極健康で居ります。

未筆で失禮ですが茂木先生初め同窓會諸兄の御健康を祈ります。

加藤銀治郎

御無沙汰のみ重ね申譯けない次第です。

茂木先生初め警局員御一同宿題のため

御奮闘の由、蔭ながらその業績の成功を祈つて居ります。小生内地と殆ど變りない大連ではありますが、往つて既に五年願て夢の様です。其の間毎日々々を患者の診療に追れつゝ、結核に對する認識に努力して居ります。本年四月長男を得て親としての第一歩をふみ出しました。皆様の御健康を祈りつゝ、近況一報まで。

富田勝郎

向寒の砌、警局諸先生には愈々御清勝にて誠に御目出度ふ存じます。本年は誠に外科學會宿題御擔當にて、茂木先生初め諸先生には日夜御研究に御繁忙さのこゝさ、何一つ御手傳ひ出來ぬ自分を情なく思つて居ります。刀林御發行に就き御案内を戴きましたが筆不精で途のび／＼となりました。本年一月に關西の赴任先より懐しい警局に歸り、又直ちに現在の生理學教室に轉科させて頂きました。毎度警局へお邪魔して種々御厄介になつて居ります。以上刀林發行を祝し近況御一報まで、諸先生の御健康祈りあげます。

布留文夫

時下晩秋の候、醫局諸先生には益々御健勝に涉らせられ慶賀此の事に御座候、下つて當方一同無事消光在罷候間何卒御休心被下度候、借而小生歸國開業以來最早十ヶ月を経過致し、其の間種々の成功失敗談有之いろ／＼御報申上度事御座候へ共最近風邪を引き、ぐす／＼致し居り誠に残念に候へ共本年は御免蒙り度く缺禮の段平に御容赦被下度候。

乍末筆諸先生の御健康を祈り上候。

照井侃

日増寒氣厳しく相成候折柄醫局皆々様には益々御清榮の段奉慶賀候、學會期日も迫り定めし御繁忙の事と御察し申上候小生秋田病院辭任致し目下表記の地に診療所開設致すべく着々準備中に有之候、過一年間には色々御報告申上度事柄並に私感思考を經める暇もなく、何れ機會を見計らひ發表さして頂き度此度は何卒御容赦被下度願上候。

乍末筆貴局の益々御發展せられん事を奉祈上候。

古山實

醫局の御隆盛を御喜びします。

小樽生活一年半、野球、庭球、スキーと一年中遊ぶことばかり、ピールの味は格別。

野球は去年は十一勝七敗、本年は十一勝五敗三分の成績で、市役所各課對抗には堂々優勝しました。残念だつたのは札幌に遠征して柳外科に敗れたことです。尤も後で柳先生に御馳走になつたので帳消しではありませんが。

スキーの進歩は見るべきものがあります。今年には雪が早くて既に十月二十二日に初雪がありましたので大いに張切つて居ります。

中村寛

唯今渡満中故留守宅より宜しくこの御返事を受けました。(刀林編輯係)

釜江省司

晩秋の候と成りました。全く御無沙汰致しまして誠に申譯ありません。茂木先生初め醫局諸先生には益々御元氣で何より結構と存じます。何分にも開業術を物

にしよう色々考へる内に一年が経過しました。多少なれては参りましたが、當地方に先輩が居られませんかので苦戦を續けて居ります。設備も大分整ひました。先月レントゲンを設置致しました。家族は夫婦子供二人、助手一人、薬剤師一人看護婦二人といふ工合です。

重盛福七郎

來岡一年半、漸く岡山の生活にも馴染み申候、此の頃は平穩には候も淋しくも有之候、平素は一向に御無沙汰の段申譯も無之候。

渡邊敬

茂木先生始め醫局員御一同様が宿題のため日夜御奮闘の段大慶至極に存じ奉り候、私も御蔭を以て毎日元氣で平穩に暮し居候間御安心下され度候、岩泉頼りな書き送附致す筈に候間不取致御通知申上候、御一同様の御健康を一重に御祈申候。

渡隼

一時病氣しましたが再び恢復、九時から九月から當院に出勤中、最近(十月廿五日)家を持ちました。

同窓會記事

茂木先生御嚴父御逝去遊ばさる

茂木先生の御嚴父は昭和十一年十二月五日、八十二歳の御高齢で仙臺市にて長逝遊ばされました。先生
の御落膽もさぞかしと存じます。同窓會員一同謹みて哀悼の意を表し奉ります。

茂木先生御招待忘年会

編輯員

十二月廿七日、幸樂に於て開かれた。出席多數盛會にして、一同五つの圓卓を圍み心置きなく御馳走になり、お酒を頂戴する。

宴酣、餘興ともなれば各圓卓の妙技、珍藝の競演とはなる、茂木先生の名都々逸「濱の松風サツト吹けば……」を始めとし終には醫局名物K君の「鱈すくひ」I君の「鴨綠江」等も紛裝よろしく立ち上る。興は何時果てるとも知らぬ盛況であつた。





茂木先生謝恩觀劇會

編 輯 員

恒例同窓會主催、茂木先生謝恩觀劇會は昭和十一年一月十一日歌舞伎座に於て催されました。

茂木先生御夫妻、御令嬢の御出席を仰ぎ、木村、前田兩先生御夫妻以下、吾等同窓會々員百名近く、打揃つて愉快に觀劇の一夕を過しました。

序幕は、歌舞伎十八番内、暫、次は加羅先代萩、壽式三番叟、更に我童の片岡仁左衛門襲名披露の

後三千兩初春藏入、最後に俠客御所五郎藏と羽左衛門、菊五郎、吉右衛門、幸四郎等の名優一堂に會しての名演技に茂木先生も大變御喜びになられた御様子で、一同も亦何れも大満足で午後十時頃、茂木先生御一家の御隆盛と、併せて吾々同窓會の發展を祈つて散會致しました。

同 窓 會 總 會

編 輯 員

本年度同窓會は四月十九日、午後五時より赤坂幸樂に於て催された。本年度日本外科學會宿題報告、蟲様突起炎を擔當せられた、茂木先生をお援け申さうと馳せ參じた大先輩多く、總勢七十八名の盛會であつた。宴會の開始に先立ち同窓會評議員會が開催せられて別項の如く副會長推戴の件、新評議員の任命、會則の變更等を決定された。宴會始まるや茂木先生の宿題御擔當の御挨拶あり、次いで前田先生の御激勵の辭があつた、此處で吾々は深く、宿題報告の御成功と、不撓の努力、勉強を先生の御前にお誓ひ申したのである。

宴將に酣なるも流石に何となく緊張した空氣に終始した。先生も何時迄も大先輩御相手に歡談されて居られた。

見よ、來年の四月を！ 慶應外科整形外科同窓會萬々歳！



同窓會報告

百 溪 記

一、議事及記事

◎昭和十一年四月十九日の同窓會總會に於て別紙改正會則が議決されました。

主な點を摘記すると會名が變更されました。副會長が置かれました。

事業を會則に列記する事を止め同窓會内規なるものを作り、之に記載する事にしました。

その他は大した變更はありません。

◎同日副會長が推戴され、新評議員が指名されました。別記の通りです。

◎内規には別に新しい事項を未だ記載してありません。従來の行事を條文に書き出しただけです。即ち謝恩會、會員名簿、同寫眞帳、刀林發行、會員の禍福を見舞ふ事等

です。

右内規に従つて行ひました事の内特記する事は残念乍ら、會員豊田氏逝去に際し同窓會より弔意を表した事です。

◎本年度同窓會役員

會長 茂木藏之助先生

副會長 木村 博先生

同 前田和三郎先生

評議員 (いろは順、○は新任)

犬養六郎君 ○岩原寅猪君

○畠中卓助君 大庭國紀君

大曾根幾次郎君 ○鎌田竹次郎君

昭和11年度同窓會々計報告

山口 記

昭和11年11月24日決算

収入ノ部		
前年度ヨリノ繰越金	2609.84	
本年度収入(會費及利子)	174.20	
計	2784.04	
支出ノ部		
昭和10年度刀林	300.00	
刀林編輯費	11.50	
謝恩會雜費	5.30	
眞アルバム	8.00	
豊田君香料	20.00	
其他	10.00	
計	354.80	
本年度差引(支出)	180.60	
差引礎高	2429.24	
内 譯		
安田銀行預金	1850.92	
振替貯金	509.76	
替貯金	10.00	
醫局内保管	58.56	
以上	會計	山口恒造

- 横山虎雄君
- 神山敏雄君
- 藤原道純君
- 佐藤太平君
- 篠原静夫君
- 土方久顯君
- 百溪定七郎君
- 以上十九名
- 上石英造君
- 梅村六郎君
- 山本 順君
- 町田謙二君
- 柳 壯一君
- 竹下貫一君

會計より會員諸兄へのお願ひ

同窓會々費は毎年の同窓會總會の節會計へお拂ひ下さ

るか、又は會計よりの集金郵便を御利用下さる事になつて居ります。本年も集金郵便を差廻はさねばならぬのですが、この手續は大變面倒なもので、本年は教室の宿題報告の爲に教室員一同忙しくして居りますので、本年度は之をやめさせて戴き、來年度に二ヶ年分の集金郵便を差廻させて戴く事に致しましたから左様御諒承下さい。尙來年度より毎年五月頃に集金させて戴きます。

御禮の言葉

編輯 眞

各地の醫局先輩の皆様から四季とり／＼の山海珍味をお送り下さいまして眞に有難うございました、醫局員一同大變美味しく頂戴しました。

醫局は昔ながらの和やかさで頂きました御馳走を中心に先輩御奮闘の御状況。在局中のお話等お噂に花を咲かすのが常です。此等醫局の坐談會が如何に吾々の活きた學問になりますことか！

尙お送附の品を受領致しました際は醫局からその都度受取御挨拶をお出し致す様に努めて居りますが、多忙中に取紛れ或は失念して御禮状を差上げなかつたことがあるかも知れません。此際深く／＼お詫び申し上げます。終りに先輩諸兄の御健勝と御多幸をお祈り申し上げます。

慶應義塾大學醫學部外科整形外科學教室同窓會々則

總則

- 第一條 本會は慶應義塾大學醫學部外科整形外科學教室同窓會と稱す
- 第二條 本會は慶應醫學の發展に盡し會員相互の親睦を計るを目的とす
- 第三條 會員は外科整形外科現教室員及前教室員を以てす
- 第四條 現教授及前教授は名譽會員とす
- 第五條 本會は役員として會長副會長評議員及幹事を置く

會長

- 第六條 會長副會長は名譽會員より推戴す
- 第七條 會長は本會を主裁す
- 第八條 副會長は會長を補佐し會長事故ある時は其事務を代行す

評議員

- 第九條 評議員は會長若干名を指名し任期は一年とす
- 第十條 評議員は會長の諮問に應じ本會の事務及事業を協議す
- 第十一條 定期評議員會は毎年一回總會當日開催す
- 第十二條 評議員會は本會の緊急を要する事項を決定し得

幹事

- 第十三條 幹事は會長の指名により現教室員之に當る
- 第十四條 幹事は會長の指揮に従ひ一切の事務を處理す

總會

- 第十五條 定期總會は毎年一回學會開催地に開催す
- 第十六條 總會に於ては事務の報告をなし又本會の重要事項を會長及多數會員の賛成を経て決定す

事業

- 第十七條 本會に於て決定せる事業は同窓會内規として記録し幹事之を保管し會長の指揮に従ひ實行す

會計

- 第十八條 會員は會費年額三圓を納入す
- 第十九條 會費は會長之を保管し年一回決算報告をなす

附則

- 第二十條 會員不都合の行爲ありたる際は會長之を役員會に計り除名す
- 第二十一條 會則の變更は總會に於て決定す

第十一條 本會の事務は理事が執行す

第十二條 會員は本會の行爲に對して其の責任を負ふ

第十三條 會員は本會の事務に對して其の責任を負ふ

第十四條 本會の事務は理事が執行す

第十五條 本會の事務は理事が執行す

第十六條 本會の事務は理事が執行す

第十七條 本會の事務は理事が執行す

第十八條 本會の事務は理事が執行す

第十九條 本會の事務は理事が執行す

第二十條 本會の事務は理事が執行す

第二十一條 本會の事務は理事が執行す

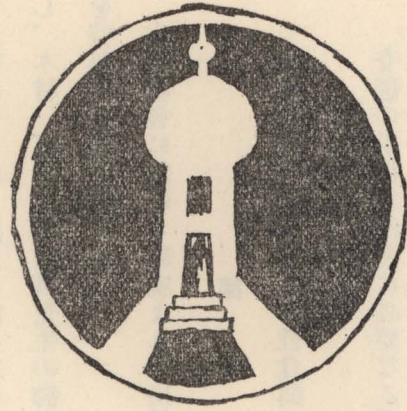
第二十二條 本會の事務は理事が執行す

第二十三條 本會の事務は理事が執行す

第二十四條 本會の事務は理事が執行す

第二十五條 本會の事務は理事が執行す

臺灣總督府大臣勸業部高等林業研究所林業講習所同窓會章程



+++++
 ++++**學**++++
 ++++**術**++++
 ++++**欄**++++
 ++++
 +++++

昭和拾壹年度第參拾八回日本
 外科學會總會宿題報告

演題 蟲樣突起炎

擔當者 茂木藏之助教授

木村博教授

町田謙二助教授

鎌田竹二郎講師

日本外科學會

第三七回日本外科學會總會は昭和十一年四月一日、二日、三日名古屋醫科大學圖書館三階大講堂に於て開催された。

例年の事ながら大講堂は連日聽衆を以て溢れ、文字通り立錐の餘地なき程の盛會にして、茂木先生

を始めとし、木村、前田兩先生並に醫局内外の先輩諸兄にも多數に出席された。

本總會は例年と少し其の趣を異にし、多くの貴重なる發表に加へて連日午前午後に互り各種の宿題報告が行はれ、聽衆にとつては盛り澤山にて稍々疲れ氣味の嫌ひはあつたが、いつもながら吾國外科學領域に於ける偉大なる業績に酷く感激せしめられたる次第である。

尙些事ではあるが、會場に於て特に我々の注意を惹いた事は演說形式の技術的進歩であつて、昔日の如く講堂の壁全體に及すが如き大なる圖表は殆んど見られずして、全部幻燈を用ふるか或は映畫供覽に依り演說を進むる様になつた事は種々の點より觀て確に一大進歩と云ふべきであらうと思はれる。

最後に吾々は、第三八回外科學總會に於ける宿題「蟲様突起炎」の擔當者として茂木先生を初めとし、木村、町田、鎌田諸先生の御名前が大講堂の壁に掲げられたる際の吾々の限りなき感激と歡喜とを特筆して筆を擱きたい。

尙本總會に於ける教室よりの出演者は左の如くである。

第一日

酸性及び「アルカリ」性食餌の創傷治癒に及ぼす影響に關する實驗的研究

渡邊 治君

脊髓の手術的侵襲に必要なる脊髓横斷面に於ける計測

島 中君

蟲様突起炎壁神經の組織學的及び病理組織學的研究（實物標本示説） 井 手 君

日本整形外科學會總會

第一回日本整形外科學會總會は昭和十一年三月三十一日、四月一日の兩日に互り名古屋醫科大學西臨牀講義室に於て催された。本總會も外科學會同様連日非常なる盛況にして多數の貴重なる研究業績の發表に加へて矢繼ぎ早の質問に、討論に。或は又追加に終始潑測たる活氣に充てる學會であつた。尙吾教室よりの出演者左の如くである。

第一 日

筋肉造影法に關する實驗的並に臨牀的研究 伊 藤 君

脊髓神經根に對する手術的侵襲の經驗及び其の臨牀的觀察 野 崎 君

脊髓及び脊椎疾患に於ける「クロナキシ」法の應用に對する研究 野 崎 君

第二 日

椎弓截除後に於ける脊柱の形態並に機能に關する研究 伊 藤 君

慶應醫學會總會

昭和十一年一月六日東校舎階段講堂に於て開催された。例年の如く出演者は院内に止らず遠き地より上京出演の熱心なる學徒も相當に見受けられ、聽講者又滿員の盛況であつた。毎々の事ながら慶

應醫學の燦然たる存在と、益々健在なるを觀て吾等齊しく觀喜に耐へざる次第である。

尙吾教室より野崎君の出演を見、其の臨牀上有益なる業績發表に依つて會場に一段と光輝を加へ得た事は吾々一同喜びの極みである。

演 題

脊髓神經後根切斷に據る人體皮膚知覺像の臨牀的吟味

野 崎 君

外科學教室より出てたる文献

胃腸内異物の四例

(グレンツゲビート、第一〇年第一一號) 神山敏雄

精系蔓狀靜脈叢に於ける結核性靜脈炎の三例

(日、泌尿、雜誌、第二五卷第八號) 瀨尾宥三

左側蟲様突起炎(内臟轉位症)の一例

(グレンツゲビート、第一〇年第六號) 土方久顯

高橋眞雄

溶血性連鎖狀球菌に因る急性化膿性膝關節炎の一知見

(グレンツゲビート、第一〇年第四號) 島田信勝

先天性十二指腸狹窄の一例

(グレンツゲビート、第一〇年第六號) 瀨尾宥三

重症黃疸を主徴とせし乳兒先天微毒の一例

(グレンツゲビート、第一〇年第一一號) 山口恒造

下腿潰瘍に就て

(グレンツゲビート、第一〇年第一〇號) 瀨尾宥三

整形外科學教室より出でたる文献

脊髓外科 (第三六回日本外科學會宿題報告)

(日・外・雜誌、第三七回第二號)

前田教授

岩原助教授

脊髓前側索切斷術

(醫學輯覽、第一二七號)

岩原助教授

脊髓外科 (第一〇回日本整形外科學會宿題報告)

(日・整・外雜誌、第一一卷第二號)

前田教授

岩原助教授

脊椎前方脫出症

(醫學輯覽、第一三四號)

岩原助教授

後頭下穿刺の治療的應用

(大阪醫事新誌、第六卷第一二號)

岩原助教授

背痛

(醫學輯覽、特輯號、「疼痛の診斷」、昭和一〇年一月)

前田教授

先天性微毒性骨軟骨炎 (バロー氏假性麻痺)

(治療學雜誌、第六卷第一一號)

岩原助教授

脊椎披裂症

(醫學輯覽、第一二五號)

前田教授

吾教室に於ける先天性筋性斜頸の治療遠隔成績に就て

(グレンツゲビート、第一〇年第六號)

島田信勝

捻挫

(醫學輯覽、第一三三號)

前田教授

脊髓硬膜外に轉移せる悪性脈絡膜上皮腫の手術例

(日・整外・雜誌、第一〇卷第六號)

門橋 勇

前田・岩原式脊髓手術用具に就て

(醫科器械學雜誌、第一三卷第九號)

前田教授

下肢の痙攣性麻痺に對する脊髓後索切斷術

(實驗醫報、第二三卷第二六五號)

前田教授

發現に就て

(日・整外・雜誌、第一〇卷第六號)

伊藤 原

諸種關節疾患に於ける赤血球沈降速度の調査成績に就て

續に就て

(日・整外・雜誌、第一〇卷第四號)

長坂謙三

諸種の脊髄疾患に於ける腦脊髄液細胞數並に其の細胞種類に就て、附、硬膜内「ミエログラ

フイー」後の該所見に就て

(日・整外・雜誌、第一一卷第一號)

長坂謙三

脊椎棘状突起「カリエス」の二症例

(日・整外・雜誌、第一一卷第三號)

小泉次郎

後頭下腰椎共同洗滌法(前田・岩原)

(日・整外・雜誌、第一一卷第三號)

今井秀雄

外傷性化膿性腦脊髄膜炎に於ける腦蜘蛛膜下腔洗滌例

(グレンツグベイト、第一〇年第七號)

今井秀雄

脊髄腫瘍を想はせたる胸腰椎部畸型性骨炎(ペーヂエツト)

ヂエツト)

(日・整外・雜誌、第一〇卷第五號)

大内正夫

砂時計腫を形成せる大なる脊髄「ノイリノーム」の

一手術治験例

(日・外・雜誌、第三七回第一號)

菅千里

胸鎖關節部に於ける二、三の特種疾患に就て

(臨牀醫學、第二四年第五號)

島田信勝

淋毒性關節炎の診斷及治療

(テラピー、第一三年第一號)

島田信勝

外科集談會 (於東京醫師會館)

第三四五回 (昭和一〇年二月二〇日)

出演者なし。

第三四六回 (昭和十一年一月一七日)

稀有なる先天性多發性腸閉塞の二例

布留君

「トロトラスト」による硬膜外「ミエログラフィー」

(脊髓硬膜外腔造影法)

岩原助教授

前田・岩原式脊髓手術用具 (器具及び映畫供覽)

前田教授

第三四七回 (二月二〇日)

胃癌切除後に於ける横行結腸重積部の

自然離脱の一例

武藤君

泰西に於ける蟲様突起炎問題の變遷

茂木教授

第三四八回 (三月二〇日)

出演者なし。

第三四九回 (五月一五日)

出演者なし。

第三五〇回 (六月二六日)

出演者なし。

第三五一回 (七月一七日)

出演者なし。

第三五二回 (九月二五日)

出演者なし。

第三五三回 (一〇月二三日)

痔疾の「ラヂウム」療法

小島君

大量輸血の三例並に余等が慣用せる準直接

齋藤君

輸血法に就て

第三五四回 (十一月二七日 於日本醫師會館)

椎弓切除後二次的に處置せる脊髓硬膜の態度

岩原助教授

整形外科集談會

第八三回 昭和一〇年一月二一日

(於東京警察病院)

教室員よりの出演者なし。

第八四回 昭和一一年一月二一日

(於東京醫師會館)

一卵性雙胎に於ける先天性股關節脱臼の鏡像的發現に就て

伊藤原君

第八五回 昭和一一年五月二五日(於慶大)

後部脊椎「カリエス」の三例

小泉君

吾教室に於ける先天性筋性斜頸の治療遠隔成績に就て

島田君

第八六回 昭和一一年六月二二日(於三樂病院)

胸椎腫瘍(脊索腫)の一例

大内君

第八七回 昭和一一年九月二八日(於東大)

下肢の痙性麻痺に對する脊髄後索切斷術(映畫供覽)

前田教授

第八八回 昭和一一年一〇月三一日

(於横濱十全醫院)

淋毒性關節炎に於ける血清及び關節液補體

結合反應に就て

加納君

先天性脊椎骨(腰薦部)骨融合症の一例

小泉君

第八九回 昭和一一年一月二四日

(於東京警察病院)

出演者なし。



外科、整形外科教室抄讀會

(於院內講堂)

第一一二回 昭和一〇年二月三日(火)

習慣性肩胛關節脫臼の手術的療法

小林不君

腎臓と氣管枝、小腸の瘻管

渡邊仁君

鎖骨假關節形成の自家經驗例

小泉君

小兒期に於ける外科的骨並に關節結核の

合理的療法

大内君

下腿潰瘍の保存並に根治療法

齋藤君

蟲様突起炎の遺傳に關する知見補遺

武藤君

第一一三回 昭和十一年一月二十八日(火)

骨折治癒と内分泌

中山君

辜丸腫瘍の臨牀的組織的確證

小坂君

新しき靜脈内麻醉藥としての「オイナルコン」

今井光君

放線狀菌病の沃度「イオントホレゼ」療法

門橋君

壓子による人工肛門閉鎖

布留君

腸性紫斑病に際する外科的合併症

橋本君

第一一四回 二月二十八日(火)

「ジンパトプラスチック」に就て

河田君

直腸癌の肺臟轉移と誤診されたる肋膜囊腫

小島君

靜脈擴張症の療法に就て

今井秀君

前膊に於ける外傷による血栓

渡邊敬君

潰瘍に續發する胃痛

笹島君

手術による對心臟血液新供給法の進歩

渡邊治君

臨時 三月二十六日(木)

外科、整形外科學會出演者豫演會

教室員

第一一五回 五月二一日(木)

廻首部に於ける異常なる炎症性障礙

松丸君

急性蟲様突起炎二〇〇〇例の手術に就て

林君

急性蟲様突起炎の死亡率の要因

小林忠君

急性蟲様突起炎と合併症並に死亡率の觀察

小林忠君

假關節を形成し二五年間經過せる骨移植片に

小泉君

再生的能力附與

小泉君

急性蟲様突起炎の症狀を呈せる稀なる疾患

伊藤原君

外科的方面に於ける組織無機鹽類の顯微鏡標本

田村君

及び其の鑑別

田村君

第一一六回 六月九日(火)

蟲様突起炎に於ける閉鎖神経症状に就て
「ステンメルン」に於ける典型的「スポーツ」
障礙としての肘關節軟骨腫

術後腸管麻痺の療法としての脊髄麻醉
蟲様突起炎時の肩胛痛及び鎖骨痛

ドーグラス氏窩膿瘍に於ける肛門括約筋
弛緩に就て

蟲様突起炎血糖曲線の變化
輸卵管膿腫、輸卵管卵巢膿瘍の破裂と婦人科的
腹膜炎に就て

第一一七回 七月二日(木)

急性蟲様突起炎後の瘻管形成を伴へる腎盂化膿

腹側線切開後に生ぜし巨大なる「ヘルニア」に
對する成形手術

骨節筋の緊張態

急性蟲様突起炎性浸潤及膿瘍の療法

蟲様突起炎四八三三例の統計

第一一八回 九月二五日(金)

初生兒の蟲様突起炎に就て

蟲様突起切除後に於ける異物性腸閉塞症

「ヘルニア」の注射療法

安齋君

西平君

小坂君

佐藤君

山口君

若林君

菊池君

渡邊仁君

久崎君

門橋君

古川君

所謂特發性慢性蟲様突起炎に就て
體腔管球と直腸癌の治療

第一一九回 一〇月六日(火)

蟲様突起炎の死亡率及びその原因

「アナフィラキシー」性蕁麻疹の蟲様突起除去
による治癒

ヤコボウイツチ氏のアルビー氏變法による
結核性脊椎炎の手術經驗

脊椎骨折及び鎖骨々折の治療の原則に就て

蟲様突起炎に原因する門脈の硬化とその
空洞性變化

外科に於ける食鹽療法 (一)急性腸閉塞

(二)幽門狹窄及胃手術

第二二〇回 一〇月二九日(木)

軟部組織に移植されたる移植骨折の運命

蟲様突起炎再發の原因に就て

蟲様突起炎に因するドウグラス膿瘍

蟲様突起動脈炎の一例

直腸脱並に脱肛の新療法

下腿潰瘍と植皮による治癒

上膊骨々囊腫に對する骨片移植

汚染せる創傷の一次的神経縫合

今井秀君
百溪君

工藤君

加納君

名倉君

小島君

瀬尾君

左奈田君

名倉君

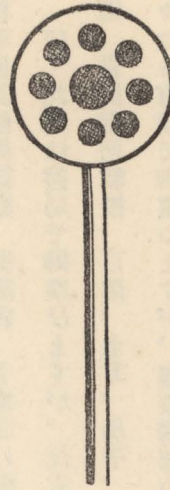
河田君

菅君

齋藤君

橋本君

+++++
+++++
+++醫局欄+++
+++++
+++++
+++++



醫 局 近 況

月 下 成 敬

K、O、G、S！ こちらは慶應義塾大學醫學部外科整形外科醫局であります。全国の先輩諸先生方は益々御元氣に御奮闘の事と思ひます。吾々醫局員一同も御蔭様で相變らず元氣一杯に勉強を續けて居りますから何卒御休心遊ばされます様御願ひ申上げます。

此の度「刀林」マイクロフォンを通じて、最近の醫局近況を全國先輩諸先生方に御報告申上げる機會を得ました事は不肖、月下臨時アナウンサーの光榮これに過ぐるものは御座ひません。

茂木先生は益々御健勝で新來、再來の御診察、御講義、手術等に當られ、更に昭和十二年度外科學會に御發表になられる蟲様突起炎の宿題に關して、殆んど寧日なき御多忙中の所を吾々醫局員の御鞭撻御訓育にまで其の御心を向けられ、尙御自身も朝早くから夜遅くまで御精勵遊ばされて居られま



す。爲に昭和十一年度は夏期休暇も御取りにならず又御好きの釣や野球にも餘り行かれず、吾々醫局員一同は此の先生の大きな御努力と御精進振り眼のあたり拜見して粉骨碎身益々研鑽を重ね先生の御期待に叛かざる事を誓つて居ります。

ものと確信致します。

「木村先生も亦大變御元氣で御座ります、只今一日置きに横濱警友病院へ御出張され、其他の日は當醫局に於て茂木先生と共に宿題報告の各種準備其他御診察、御講義、手術等に御奮闘されて居られます。

扱て此處は醫局で御座りますが、茂木先生、木村先生、前田先生、町田、岩原兩助教、百溪、土方、島中、鎌田、渡邊諸講師何れも元氣満



々たる有様で御座りますが、藤原講師の病を得ての御静養は寂寥の感を深く致します。以下現在の醫局員は五十有餘名を數へ、流石の醫局も近來斷然狭く若し全醫局員が集合したならば其れこそ卓子や棚の上にも上らなくてはならないと思はれる程の盛況です。斯の如く多數の醫局員を擁すると云ふ事は、茂木先生を初めとして他の諸先生の御高德に因るは勿論ですが、又他方全國各地に於て當醫局

にて鍛へられた先輩諸先生方の靈腕を振つての御奮闘に因る吾が慶應外科整形外科の隆々たる高名あらばこそと、茂木先生他諸先生に満腔の感謝を捧げると共に、廣く全国各地に活躍を御續けになる先輩諸先生方にも、亦此處に衷心から御禮を申上げる次第であります。

其れから聊か申し遅れの感がありますが、當醫局に對して何時に變らぬ先輩諸先生の御好意に因る季節々の各地の名産の御贈與は殺風景の醫局の唯一の色取りとなり、又吾々醫局員一同の勉強の根本ともなるものでありまして、此れに對しても亦此の機會に御厚禮申上げる次第であります。



アッ！ 丁度森田婦長が這入つて参りました。婦長は年と共に益々元氣で活躍をして居ります、何か先輩諸先生に對して申上げる事があるかも知れませんが、「マイク」の前に婦長を連れて参りませう。……「アタシヤー」何も云ふ事はナインダモノオ、只先生方御身體大切に云つて下シヤイ」全國の諸先生只今の婦長の言葉が御耳に達しましたでせう

か、婦長は部屋の入口でこれだけ云つて倉皇として逃げて行つてしまひました。

極めて短い言葉であります、諸先生方は此の婦長の言葉を聞かれて曾ての醫局生活を偲んで、懐舊の情を禁じ得ない事と思はれます。(如何?)

前に申上げた通り現在の醫局員一同は宿題報告の準備で、何れも大童の奮闘で御座みますので、將棋や碁に専心する醫局員の姿も見へず、麥酒や銘酒に氣焔を擧げる人達も少く、極めて醫局も謹嚴閑寂なる有様です。多分隣りの圖書室の方へ皆詰め掛けて居る事と思ひますから、「マイク」を圖書室へ移動させませう。

〔圖書室〕

推察通り空椅子は一つもない有様です。醫局員一同は宿題報告に對して如何に眞摯なる努力を續けて居るかが窺はれます。相變らず百溪醫局長が此處の管理を務められ、年一年と數種の新書籍を加へ完璧を期して居ります。

此の部屋の三方に天井に達するまで空隙もなく列べられた、夥しい書物は醫局員の必要に應じ常に血となり肉ともなり、外科整形外科に關する必要な書物は大體に於て、此の圖書室に於て用が足りると云ふ事は百溪醫局長竝に協力良く、今日の整備に至らしめた菅君に對して一同を代表して深く感謝の意を表する次第であります。

「マイクを更に移動致しまして診察室の模様を御報らせ致しませう。

〔外科 受附〕

受附は昨年度刀林誌上で御紹介申上げました、小出君が病氣の爲十二月から新しく柴田君が來られて此れから働いて下さる由です。

〔第二診療室〕

第二診療室は殆んど昨年と變りなく、毎週火曜日は茂木先生の御診察があり、他は渡邊治生講師の擔任で、患者は一日約五十名位の由です。

碓子君は主任として堅實な勤務振りを見せて呉れます。

〔豫診室〕

豫診室は特別申上げる事もなく次に移る事に致しませう。

〔第一診察室〕

第一診察室は毎週月、水、金曜日は茂木先生、火、木曜日は木村先生、土曜日町田先生が夫々御擔當新患の御診察に當られて、主任としては菊池君が軟い態度で、患者さんの世話其他に努力して居ります。新患は一日廿人を越えて居ります。

〔検査室〕

検査室を一寸覗きませう、此處も圖書室同様完璧の整備を誇つて居ります。武藤君が主任となり鵜

澤君が其れを補けて、益々正確と精細を期すべき各種臨牀的検査に供へて居ります。

〔第三診察室〕

第三診察室は處置室として先輩諸先生の御存知の事と思ひます。現在は診察室兼處置室と云ふ事になつて居ます。月曜日瀨尾、火曜日町田、水曜日百溪、木曜日町田、金曜日橋本、土曜日土方の諸先生が夫々分擔され、午前中フライの患者を以つてポリクリとされます。

ではこれから外科標本室へ参りませう。

〔外科標本室〕

外科標本室は先輩諸先生には舊助教、講師室兼標本室として御承知の部屋であります。只今は奥に簡単な境を作つて其の内に町田助教が相變らず御勇健で勉學されては居りますが、専ら研究室竝に標本室として高名であります。

瀨尾、井平、門橋、小平、齋藤、菅、景の諸君が熱心に研究を續けて居り、小野さんは相變らず標本作製、學生動物實習の手傳ひ等々に元氣で働いて居ます。

此處の前が整形外科の受付けになつて居りますが、そちらの御報告を申上げる前に手術室の方へ行く事に致しませう。

〔外科手術室〕

手術室と一口に申ししましても、現在はソウ易々とこちらまでアツペの患者さんは来る事は出来ません、痛くて歩けないから来られない譯けではありません。即新患診察に當り「アツペ」と診断された場合宿題報告に備へる可く數々の新鋭器械を使用しての、或は使用せずしての嚴重なる各種検査を終了せざる限り、と云ふ譯けです。

新鋭器械として擧ぐ可きは茂木、百溪式「腹部測定器」、久崎君創案の「フエーダー、スクレロメーター」等で其他の検査としては「赤血球沈降反應」「白血球算定」「血液滴像法」グワクタイアフォート「血型」其他血液に關する各種検査の必要に患者さんは採血される、更に「腹壁運動のキモグラフィ」キモグラフィ「横隔膜キモグラフィ」の後初めて手術場へ運ばれると云ふ事になります。

手術に際しては患者は軽度の右側高位を取らせる事になつて居り、加刀より縫合完了までの時間測定、其他は血圧は術前、術中、術後に亘り調査され、糞便、血液其他前に申上げた各種器械を用ひての検査は何れも術前術後に亘り詳しく行はれます。

切除後の蟲様突起は病理學的に多種多様の検査が、各々專任者の間に行はれ居ります。

更に輸血の必要なる場合は此の方面にも掛りを定めて給血者の嚴選に留意して居ります。手術室の主任は石合君が務めて居ます、では今度整形へ移動する事に致しませう。

「整形外科」



〔整形外科受付〕

前田先生は、相變らず御元氣に御診察、御講義、手術、御廻診等に御精勵され、年と共に益々御勇健さを御加へになられる感があります。更に御多忙中の所を本年七月中旬「前田整形外科」なる御著書を御完成御發行されました事は、日本整形外科学會に於て宿題報告以來再度の大本壘打として永遠に其の御功績は記録される事と思はれます。

受付は松浦君で勤務が永年に亘つて居る爲醫局員に對し電話、面會等のあつた場合今頃は誰れが何處に居るか、と云ふ事に關しては實に詳しく、搜索効果一〇〇%で實に掌を指す如しと云つた有様で醫局員一同から感謝されて居り、尙患者の應答も懇切を極めて新患再來、何れからも感謝されて居る由です。

〔第一診察室〕

第一診察室は這入つた所は豫診室になつて居り、左手カーテンで境された内部で新患、再來、フライの區別なく月、水、金曜日前田先生、火、木曜日は岩原先生、土曜日畠中、野崎兩先生が診療に當られます。

殊に前田先生の御診察日は四年學生のポリクリに當りますので、御診察中前田先生は温顔に微笑を

湛へられながら學生に發せられる、質問は即臨牀の試験でありますので學生も平常より一層慎重さを加へて居ります。主任は田村君で總てに明快な處置を行つて好評です。第一診察室の隣りが手術室になつて居ます。其の先きの第二診察室から御話し申上げませう。

〔第二診察室〕

此處は午前中再來患者の處置を行ひ午後はギツプス、其他の小處置場と變ります。

〔手術室〕

第一、と第二の診察室の間に挟まつて手術室があります、此れは前田先生の御自慢の準暗室式裝置で日中でも「シャリチック」と「移動スタンド式電燈光線」の光で手術野に注意力を集中させると云ふ方法で手術を行つて効果を擧げて居ります。此處の主任は西郡君で第二主任を兼ねて多忙を物ともせず熱心に働いて居ります。

〔マツサージ室〕

第二診察室に列んでマツサージ室があり、一日五十名から六十名位の患者を野村氏を初めとして、四名の技術者が腕に擔をかけて處置致します。

次は機械室へ移ります。

〔機械室〕

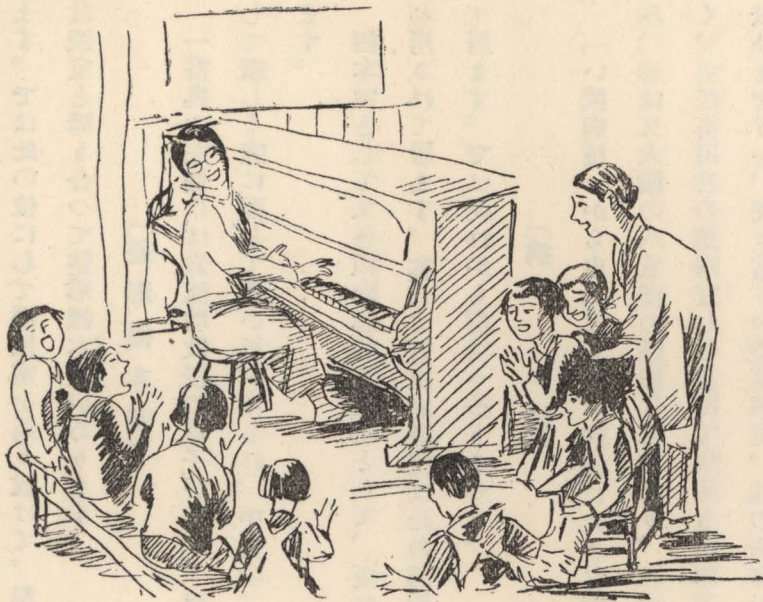
此處は従前通りザンデルのアバラートが嚴然と列べられてあり、關節炎や側彎症其他の患者さんが其れを常に利用して効果を擧げて居ります。

尙此の部屋に這入りますと兩側に列ぶ嚴しいアバラートを他處に、澤山の子供さんが中央の卓子の周圍に集つて折紙や手工、圖畫等に興じたり、ピアノの伴奏に合せて唱歌の練習をしたりして居る和やかな情景を見る事が出來ます。此は最近前田教授の御努力に據つて設備された整形外科保育園であります。

〔整形外科保育園〕

此の保育園は昭和十一年七月中旬に、外來で順番を待つ子供さんや入院して居る子供さんの無聊を慰め病院に對する恐怖心を忘れさせ喜々として、充分なる治療を續けさせ確實なる効果を擧げしめる意味に於て役立されるものであります。最初女子師範學校の保姆片岡さんが擔任され、十月より新に保姆門村さんが替つて擔任され、明るく朗らかに子供さんを導いて下さいます。

日課として黒板に八時半：九時半（芝生、此の芝生は外科標本室前の空地に設けられて、奇麗な砂場も作られて、お天氣の良い日は此處で輝く太陽を全身に浴びて、遊戯する子供さんの姿が見られます）。九時半：十時（作業、此の時間は此處の部屋に戻つて折紙、圖畫、手工、を教へ、其の作品は周圍の壁に貼り出して一般の觀覽に供して居ります。従つて子供さんも益々勵みが出來て、衷心から



として牽引室と熱氣室が境されてありました、其れを最近二分して、食研に面した方は熱氣室とし他

喜びながら毎日の通院を樂しみにすると云ふ有様です。十時：十一時半（音楽、此れは門村先生が新設されたピアノを伴奏しながら童謡の教授をされます。十時半：十二時作業、再び折紙其他の實習です。斯の如くして午前を終れば、午後、門村先生は入院して居る子供さんを一人づゝ訪れて以上の折紙、手工、其他を教へられ殺風景の病院生活を忘れさせ、暖い家庭に於けると同様の慰安を與へ大變皆から感謝されて居ます。

前田先生の御創案の此の整形外科保育園の評判は期待通り大成功で、聽て本邦各地の病院でも此れに習ひ續々と設立され、夫々所期の効果を擧げ得るものと考へ、又當然そうあらねばならぬと確信して居ます。機械室の奥には前から第三治療室

の半分は近來頼に醫局員を増した整形では畠中講師、野崎君が主となつて研究室として使用して居ります。では此の位にして機械室を通り抜けて。臨牀講堂の前に通ずる廊下に出ませう。其處には前田教授室と隣り合つて整形標本室があります。

〔整形標本室〕

一番奥の左側には岩原助教授の卓子があり、何時に變らぬ御熱心な御勉強を續けて居られます。其して新しく窓に面して長い机が作られ、中央の二つの大きな卓子と共に醫局員の研究に利用されて居ります。

標本室として又各種臨牀的検査室として、更に醫局員の研究室として狭いだけに少しの無駄もなく利用されて居ます。其して岩原助教授は此の部屋の監督として、常に醫局員の鞭撻御指導に専心されて居ます。では此れから病棟へ移りませう。

〔病棟〕

「い號病棟」から申上げます、南側に大きな樹が繁つて夏は外苑より送られる涼風が青葉の香を含み、春は又大輪の八重櫻の艶麗な風情あり、秋の觀月又賞すべく、冬又南側一杯の陽を受けて暖かく、主任富田君の薰陶宜しきを得て病棟も清潔ですが、道路を隔てた省線の雑音が珠玉の微瑕とでも云ひませうか、突き當りの特等病室、他の病室の各科共同使用は従前通りであります。

「ろ號病棟」此處は殿様病棟など、云はれるだけあつて、入院患者氏名の中には屢々世界的に高名の人が發見される事も既に御承知の事と思ひます。

主任は日川君が務めて遺漏なく、病室は婦人科と共用で片側だけに限局されてありますので明るく奇麗です。

「に號病棟」毎年刀林誌上で紹介される如く、全部外科整形外科獨占で心から吾等の病棟と云ふ感じがします、院内關係で外科整形外科に屬する疾患を不幸にも得られた方々は、殆んど全部が此處の病棟に入院され、他の入院患者も亦總ての點に中庸を得た型が多く何れも温順です。主任藤野君は此の病棟に最も相應しい温容さを以て、親切に常に空室のない多忙の此處で奮闘を續けて居ります。

「ほ號病棟」此處も亦御承知通り純外科整形外科病室で、三等患者、健康保險、フライ患者を收容して患者數に於ても、入院料、手術料、健保追加申請等で治療以外の煩雜な問題の多い事に於ても、病棟中斷然抜き出で、居ります。

従つて忙しい事も他の比を見ず入れ替り、立ち替り、患者廻診に訪れる醫局員の爲ブレ諸君は席の温まる暇も無い有様です。此の眼の廻る様なほ號に於て主任として大磐石の如く、ガツチリと其の強靱な勤務を續けて居るのが窪田君です。

「ほ號上」一番奥に整形外科専用の一室があります、五人部屋で患者は女性に限られて居ます。

此の病棟は皮膚泌尿科、眼科と共同と云つた型で主任は金澤君が各科平等に懇切な手堅い奉仕振りをを見せて居ます。扱て此れで大體本館の御報告は済みましたから「マイク」を別館へ移動させる事に致しませう。

〔別館〕

別館は本館から地下道の連絡があり、三階に外科の醫局、東、南の各病棟、標本室等がある事は既に御承知の事と思ひます。

〔別館醫局〕

依然として醫局とは名のみで別館の地下室や四階で食事をした醫局員の休憩所、或は又新人の安息所となつたり、運動用具の置場所となつたりして居ます。

〔別館南〕

南三階は通風、採光共に申分無く、寝ながらにして外苑の風光を愛でる事が出来、夏の若葉もさる事ながら、秋、黄に紅に染つた樹間より望む神宮繪畫館ドームの偉容、尙遠く瞳を放てば靈峰富士の秀麗な姿をも眺め得られ、更に雪良し、月、花の眺又千兩、と云はれて居りますので病室としては此程數々の良好なる條件に恵まれて居る所は他にあるまいと、吾々も自負して居る次第であります。

省線の音が聊か氣になります。主任は志田君が窓から眺め得ら

れる富士山の如くドツカリと腰を据えて練達の勤務を續けて居ます。

〔別館 東〕

東三階は三等患者で大部屋の個々のベットは夫々衝立式擦硝子で區切られて、中央の通路とはカーテンによつて遮られてあります。此處の看護婦詰所の窓からは豫防醫學の建物及グルンドの各教室が眺められ、すぐ下には幾多の戦勝の想出を残すグラウンドが先日まで思ふ存分陽の光を吸つて黒々と日焼けした健康そうな温顔を見せて居りましたが、現在は北里記念醫學圖書館の大きな頑丈な鐵骨の爲に無慘にも踏み荒らされて哀れな姿を曝して居ます。假令僅かの時間であらうとも此の運動場に出て汗を流した事のある醫局員ならば、誰れでも此れを眺める度にさながら掌中の珠を奪はれた如く淋しい氣持ちに襲はれ思はず暗い面持ちになるのも亦當然の事と思はれます。北里記念圖書館の建設は吾々一同等しく欣快とする所がありますが、懐しいグラウンドを奪はれた事は残念の極みです。此の懐しいグラウンドを何れかの場所に於て再び吾々の手に戻して下さる日の一日も近い事を望むのは、只外科整形外科醫局員の叫びのみならず全醫局一同の衷心からなる切實な叫びであらうと思ひます。

〔別館標本室講師室〕

別館標本室は本館の標本室の大部分を移しましたので、宿題報告に關し幾多重要な標本の數々及カルテが保管されてある關係から現在極めて大切な、云はゞ外科に於ける寶庫の如き存在となりまし

た。尙此の標本室兼講師室は現在古川君が新人を鞭撻して宿題に關する統計學的研究を續け、標本室と云ふより目下統計室と云つた方が醫局員の間には判りが早い位になつて居ます。

他に武藤君他數名の人達も此の部屋に閉じ籠つて研鑽を續けて居ます。

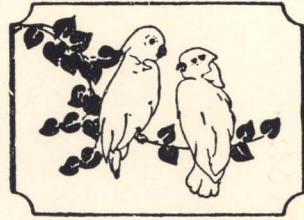
御承知の事とは思ひますが、別館手術室はあらゆる近代設備の最高峰を行くものとして非常に高く評價され、又此を利用して大きな効果を擧げ得ましたが、木村先生が一日置きに横濱警友病院へ出張され、尙又經濟的方面より考へて此處を閉鎖し、現在も其の儘閉鎖の状態を續けて居ります。

〔總 廻 診〕

外科の總廻診は月曜日本館茂木先生、別館木村先生、金曜日は本館別館共茂木先生が御廻診になります。

整形外科は火、木、土曜日前田先生自ら御廻診されます。

以上で大體の御報告が済みました、大變簡略な報告なので御了解下さつたか何うか、聊か不安に思ふ次第で御座ひますが許された時間も極めて僅かで御座ひましたので、不充分ながら此れで御容赦願ふ次第で御座ひます。全國の先輩諸先生、御寸暇が得られましたならば是非共醫局へ御遊びにいらつしやつて下さい、茂木先生を初め其他諸先生、其して吾々後輩は双手を擧げて皆様の御來訪を歓迎致します。全國の先輩諸先生！では御身體御大切に、サヨウナラ。



醫局から各地への御手傳

編輯員

東京 杉並區

昭和十年暮、關市衛君御病氣、醫局より橋本、門橋兩君御手傳に行かる。約三週間。

東京 中野區

昭和十一年六月、中村復一郎君御病氣、神山、久崎兩君御手傳に行かる。約一ヶ月間。

東京 新宿

昭和十一年十月、犬養病院へ吉岡君御手傳に行かる。約一週間。

神奈川縣 小田原

昭和十一年十一月、戸田四郎君御病氣、工藤君御手傳に行かる。約一ヶ月間。

山形縣 小松町

昭和十一年十一月、君塚正君上京せらる、その留守を預り吉岡君手傳に行かる。約五日間。



某事件と醫局

一 醫局員

昭和十一年二月二十六日！その日の記憶はあまりに生々しい、この痛々しい事件の記事を書く手は重い、然し事件は偶然にも吾病院の近くに起つたものであるだけに、色々の影響もあり殊に救護班として出動した様子は是非記録して置きたいと思ふので敢て筆をとる。

二月二十六日。朝八時頃降り出した雪は數日來天氣續きの後とて忽ちあたりをすつかり銀世界とし了せた。いやに積り方が早い。その日午前早く醫局でも既に突發事件の噂がしきりで異常な興奮と緊張した空氣が漂つてゐた、然し話聲は低く、皆沈痛な顔貌である、午後になつて雪は益々ひどくあまつさへ風も加つて雪片は窓を打ち、悽愴な空氣が益々濃くなつて行く、四谷署から男の銃傷患者の手配が來たが夫らしい患者もなかつた。何時もな

らまだ醫局員で賑やかな頃、六時と云ふのに殆んど皆歸宅してしまふ、特診もなし、病棟は平穩。無氣味な病院の夜は更けた。

二月二十七日。雪は止んだ、醫局員も平常通り出勤した。然しよるとさはると事件の話なので落付かない、何うなるものかと皆等しく世を憂へ且つ事件の豫想外に重大だつたのに驚いた、仕事は何となく手につかない、外來患者も極少數である、午後外出先からニュースをもたらすもの、電話でデマらしきものを聞き出すもの等、慌しい物情騒然の中に夜となる、アツベとカルブルケルの特診あり、茂木先生御來院アツベの手術をなさる、病棟は異常なし。

その夜重要ニュース以外の放送なきラヂオを通じ、唯一の冷靜なる興奮傳導に關する學術放送を吾加藤教授、富田講師等がされたのは印象深かつた。

二月二十八日。事件の全貌も略々明らかになつた様な氣がした。而も吾々は益々不安の念にかられて行く。マサカと思はれた事が眞實であつた事も段々と判つて來た、世を悲憤慷慨する者、兵士等に同情する者、皆仕事なんかそつちのけだ。唯事件がどう推移進展するかが氣にかゝる。

正午に突如、内務省から救護準備に關する電話あり。俄然緊張する。先生から救護準備命令下る、慌しい足音が廊下を右往左往した。外科第二診察室では多勢の看護婦によつて瞬く間に晒木綿が裂かれて多數の繃帯が作られた、その布を裂く音が無氣味に耳につく。

○救護準備、繃帶、シーネ、ガーゼ、エスマルヒ帶、油紙、三角巾、沃丁、ナルコボン、カンフル等。

○午後一時救護班編成（醫員二名、看護婦三名）

第一班 齋藤、渡邊仁君、有明嬢

第二班 門橋、中山君、菊地嬢

第三班 伊藤原、名倉君、松村嬢

第四班 山口、小林忠君、西郡嬢

第五班 小平、小林不君、畠山、芝山嬢

入院患者は別館收容の事、手術場は別館使用の事と手筈を決める。

午後三時十五分、内務省より連絡緊密にとられたき旨の電話あり。當方の責任者を森田婦長とする尙左の如く救護受持を決定された。

一、救護本部 四谷見附、麴町消防署

二、救護範圍 三宅坂方面、赤坂見附方面

三、目 標 ⊕を附し慶應病院救護班の旗を立てること。

尙救護班は慶應の他に、警察病院、赤十字病院、警視廳救護班がある由。

以上の如く救護陣が整備された。吾々一同には禁足命令が發せられた、夕暮はせまつて來た皆胸せまる思ひである、この夜事務當局から夕食の炊き出しがあつて皆で豚汁と香物で、腹を作へた、茂木先生を始め一同醫局に揃つてゐる所へ、北島部長、西野教授、倉井事務長等が應援に來られた、吾々の緊張はいやが上にも加つた。川上教授も來られ吾病院の旗印に墨痕鮮やかに慶應病院救護班と書いて下さつた。色々と不吉なニュースが來る、よもや救護班出動の必要はあるまい、否さうあるべき事を念じつゝ當直交代を残して一同醫局、圖書室、に號病棟の空室に分配されて假睡をとる、外は愈々凄氣せまつた様な報告が來る。

二月二十九日。午前四時過ぎ赤坂某家より電話あり、立退命令により逃げる所だと云ふ！ 午前四時五十分には赤坂前田病院より患者を吾病院に收容方相談の電話あり。同五時二十分先發の患者三名來院別館に收容同三十分更に四名の患者來院收容する。ニュースは愈々危機せまるを思はせた。午前六時三十分突如、ラヂオは戒嚴司令部告諭となり、「事此處ニ至レル」を報せ、次で市民心得が放送せられた、吾々は肌寒き思ひで聞いた。

午前六時五十分内務省濱野氏より救護班出動準備命令があり、愈々と吾々は覺悟の程を決めた。

午前七時五分！ 内務省から速刻出動の命令が下つた。

午前七時二十分各救護班は自動車に分乘して緊張裡に出動した。

出動後の各班からの情報は次の電話で報告せられた。

一 午前七時四十分本部開設—第一班、第四班

二 同八時十五分第二班開設、於麴町山本町寶亭前

三 同八時二十分第三班開設、於麴町四丁目、そばや

四 同八時四十五分第五班開設、於麴町區平河町一丁目、ドライクリーニング店

斯くして時刻は過ぎて行く、八時半もとつくに過ぎた、九時も来た、突如「ラヂオ」は彼の有名な香椎戒嚴司令官の兵に告ぐなる言葉を放送した。夫を聞いてゐた、醫局の吾々は萬感込みあげて來て眼頭のあつくなるのを覺えた。感激の極みである、安堵の氣持に次いで來るのは彼等の無事を祈る切實の情である。

午前十時ラヂオは歸順の色があるのを報せた。さもあるべきである、ホツとした事であつた。
午前十時三十分救護交代班決定す。

第一班 瀬尾、今井秀君

第二班 橋本、大内君

第三班 渡邊治、鶴澤君

第四班 武藤、小島君

第五班 田村、渡邊敬君

續々と歸順した模様は救護班の諸氏から明らかにされた。

午後三時のラヂオは午後二時頃を以つて全部の歸順を見た事を報じた。

午後二時五十分から外科救護班本部を引揚げた。

午後四時茂木先生を始めとし——同醫局に集合、先生御寄附のビールで一同乾杯無事を祝して萬歳を三唱した。

石	關	安	松	工	辻	小	西	稻
川	口	齋	丸	藤	岡	田	平	葉
七	政			達			賀	玉
郎	三	直	忍	之	浩	滿	健	六
							(整形)	



新入局員紹介

左	菊	小	松	名	加	富	林
奈	池	柴	浦	和	納	田	
田	龍	清	勇		保	忠	克
幸			四				
夫	介	定	郎	精	之	良	巳
(整形)		(整形)			(整形)	(整形)	

今年、以上十七名が新に同窓會員に加りました。

此内には、ハイラーテン濟の者が二人居るが、残りは、皆目下賣出し中で皆良いのがあれば何時でもO、Kと言つた顔をして居ます。

既に「ゴールイン」した羨やましい身分は……「俺は美しくはないぜ」……コレ／＼其んな事を云ふのは誰ですか、鬼に角小田と左奈田で現在の所人生を最も楽しんで居ると自ら許し他も認め様として居ます。

扱て小田は醫局では小田満オダマンで通つて居る、小田満オダマンさんの名前は、何んて言ふんだなんて聞かれた位だ、彼は徴兵検査に合格し今度入營する。陸軍も仲々罪な事をしたもんだ、入營の話が出たが、非常時の餘波を受けて、今年は甲種六名既に入營中の者二人を加へ、都合八人が軍隊に行く、フラウの御世話を願へるなら、是非残りの者から願ひたい、かならずしも體格が悪いのではなく、運が悪くてハネられたに過ぎないから、と言ふのも斯く言ふ某が殘留組の一人だから云ふ譯では決してない。今年の者は、皆善良な男ばかりだ、只酒は相當やるのが多いから、此點御承知ありたい。

先づ脊の高いのを御希望なら辻岡を推薦する。

辻岡浩 身長なら、醫局でも一位を争ふ資格がある、彼は體格は、普通だが凡らく高梁でも食つて育つたのだらう、身長が幅に比して、伸び過ぎた感がある。高梁と言へば彼は、ニツクネームマンチエューコーを滿洲國、略して滿さんと言ふ。何でも學生時代滿洲へ行つて以來の事だそうだが、餘り精しい事は結婚式の後にしよう。會員の辻岡元先生の弟でテニスが得意で醫局の正メンバーだ。趣味も、仲々高尚でヴァイオリンをやる。當直の晩を音楽放送で楽しむ一人だ、酒は飲まないと言つていゝ位、然し盃を出すと、「いやだなー／＼」と甘つたるい聲をしながら受けて居る、銀座へ出てでもビー

ルより紅茶で歸る方です。

同じヴァイオリンをやる者に、松丸が居ます。

松丸忍 彼は一寸見ると宋子文に似て居るが日本人です、彼は宋子文に似て頑張りの効く男だ、仕事に掛ると、夜が更けても平氣です、然し日中彼の寝て居るのを見る事も稀ではないそうです、彼は、良い意味に於ける夜の人です、體格は小さい方ですが、水泳、バスケット、テニス、大ていのはやりますが、籠球は、中學時代よりの御手のものだそうです。

菊池龍介 面長の男ですが、髭の濃いのが目立ちます、彼は、一人でアパート住をして居るようですが、何時もキチンとした服装をして居ます、此男、朝睡眠が深くなるらしく、其處を起きてやつて来る爲か眠そうな顔をして廻診に附いて廻つて居るのをよく見ます、酒も、運動も、やらない方らしく、と言つても酒は、嫌いでもなさそうだ。然し食道樂と郷土玩具の趣味に於ては一流です、一體に口數の多くない男です、髭の濃いのでは、次の西平に斷然軍配が舉ります。

西平賀健 髭ばかりでなく、體中、何所でもハールライヒである事は、但し頭髮は此の限りにあらず「チール氏」の別名でも、想像が出来るでせう。

一人息子で眼の中へ入れても、痛くないと言ふムッターが有るが、彼を目に入れるムッターのコルネアは、よくあの「たわし」の様な髭で傷が付かぬと感心する。人は見掛けに寄らぬものとはよく言つたもので彼は、酒も煙草もやらぬ、柔道は強いそうだがアルコールに合ふと直ぐに落ちる。然し入局以來大分腕を上げたそうだから油断はならな

い。入營組の一人だ、軍服を附けたら、立派な威厳のある軍人が出来るだらう。常に「十以上の女の子にモテタ事が無い」と歎いて居るが、此からは、その心配は無用になるだらう。

工藤達之 彼は、繪をよく畫く。そう言へば彼の顔貌も何んとなく畫家に似た所もある、彼に言はせると寫真より、スケッチの方が、よく風景、情緒を表はせるそうで旅行の時に、スケッチブックを離さないのも彼です、眼の細く切れた仲々スマートな男です彼をスマートだなーと譽めてこらんさい、何も奢つては呉れませんが嬉しそうな顔をして細い目を尙細くして笑ひます、目は細いが笑ふと口の大きいのがよく目立ちます、よく髪の毛をかき上げては、「薄くなつた〜」と言つて居ます。酒には、相當の腕を持つて居ます。彼も入營組の一員です。彼と反對にカメラには腕があると自稱するのが加納です。

加納保之 彼には、寫真を見せるものではありません。めつたに褒めた事がありません。此はと思つたのを見せても、ペンヤンコにやられます。然し彼の撮つたのを餘り見せません。古い名刺型のカメラを唯一無二の親友として、此を萬能カメラと誇つて居ます、でも最近或筋よりの報導に依りますとカメラは小型と鞏固の意志も軟化した由です。彼は岐阜の産で海の無い所だけに、山へよく行きます。石川、林等と新人山男の一人です。夏でも冬でもよく山へ行く男です。近頃「仙人」と言ふ別名を頂戴して居るが、此の仙人チョイ〜銀座で、松浦、小柴等と一緒に歩いて居るのを見掛ける。負けじ魂の強いのが此の男の特長でもあり、又缺點です。仲々のテオリストです、彼は整形です、酒は餘りやらず整形のアルコールメンゲ番附では、幕尻あたりに居ます。入營組の一員ですが瘦形の男で甲種とは思はれません。徴兵官殿彼の頭を見て合格にしたんだらう。と言ふのは、學生時代より彼はクラスの大頭の一人であつた

のです。彼に言はせると、帽子は人並より少し^〇大きだけだそうですが。

運動は餘りやりません。がスキー蹴球をやるんです。整形新人で加納とは反對に圓いのが富田です。

富田忠良 目下陸軍中尉です、七月から短期軍醫に採用されて、今は、スマートな軍服に中尉の肩章を光らせて時々醫局に現はれます。色の白い名古屋の産に相應しい男です、酒に強い事は、前記整形酒量番附の三役を占めてゐるのもお分りでかう。

彼の野球は、愛知一中時代よりのお手のもので醫局の名ショートとして醫局リーグの花形です、運動神經の良く發達した男であらゆる運動をします。何時でもニコ／＼して居ますが締る所はチャンと締めて行く、ガツチリした男です。

安齋直 彼は、小柄な方です。不必要な事は言はないと言つた様な口數の少い男ですが言ふ可き時は、仲々ガツチリガンバります。

諺をやつて居るだけに聲を聞いただけで力強い腹から出る様な聲をして居ます。諺、弓術等、日本趣味の方で武士の面影を持つて居ます。

左奈田幸夫 彼は十三回生で一年兄さんの病院で働いて來た由で今年の整形新人中最も幸福な人生を味つて居るのは、誰でもない此左奈田です。彼は、今年二月「ハイライター」したばかりなんです。面長の髻の濃い男で何時見ても嬉しそうです。酒は大分好きらしく飲つ振りが實に美味そうです。家で飲むのも悪くないらしいです。と言つて、別に嫉いて居るのではない唯彼の家庭の夕餉を一寸想像したまでの事さ。

ボートで鳴らしただけあつて、ガツチリした立派な體格の持主で水泳も醫局のメンバーとして缺く事の出来ない一人です。

稻葉玉六 玉六、全く呼び易い名だ、彼の両親は、玉の様なキズの無い圓い人間をと願つて付けたのだらう。玉六實に良い名ぢやないか、一人豫料の戸澤さんがほめるだけぢやない、吾々仲間の愛稱語でもあり同時に玉の如き圓轉滑脱の士と言ふ事だ。富田と同じく七月より軍人になつて居るが、彼は海軍だ。太平洋の荒波も玉の如く圓くおさまるだらう。

彼は、又スポーツマンでボート、テニス。何でもやる。玉突はどうだか、皆さんの御想像に任せよう。

林 克巳 脊の高い後姿の良い人を醫局で見たら彼と思つて差支へはない。唯前は、残黒いだけと言へば一寸お世辭になり過ぎる、でもあれで氣はとてやさしく方々で「モテル」事は有名だ。どこかに他にいゝ所があるんだらうつて？失禮なお黙んなさい、顔が田村さんによく似て居るつて、よく言はれて居るぢやないか。一寸苦味走つて居る點だ。どちらが迷惑して居るつてそれも皆さんに任せよう。然し俺に娘が居たら、必ず君にやらうとも言ひたい位温厚の士だ。彼も山へよく行く男だ。山男だけに力はあるよ、うそだと思つたら、喧嘩してこらんささ。

小田 滿 醫局へ來たら「オダマン」と呼んでもらいたい。小田滿さんの名は何んて言ふんですか、なんて聞かれた人もある位だ。此頃メキ／＼肥つて來た。腹は出て來る貫録はつく。全く早く持たせたいものは、いゝや、もう持つて居る入營組だが陸軍も「ツレ」なさすぎる。

一寸見は上州邊りの親分を思ひ出させる。世が世なら長脇差の渡り鳥渡世だつたらうに惜しい事をした。が然しオ控

ヘナサンシ／＼。こゝに落してならないのは彼はよい咽喉を持つてゐる事だ。長唄、都々逸、宴會には、是非缺く事の出来ぬ人だ。彼も、軍服を附けたなら吾々仲間て異彩を放つ事だらう。

關口政三 彼は、テニスのチャンだ。彼もテニスの外に、野球ランニング等、スポーツマンだ。

體格は、餘りガツチリもして居ないが何をやらしても上手だ、彼は、運動並に酒も行く、銀座、其他方々へ出かけるから、彼に會ひたかつたら、尾張町邊りて待つて居てごらんなさい。彼のアツベが外科標本室で、夏川靜江のと並んで居ると言つては喜んで居る。俺のも並べたいが今からではもう遅い。

名和精 脊の高い骨太な所謂ガツチリした最近流行型の男だ。が然し此人位女氣の無い人も珍らしい。惜しい事だ。奇骨稜々本當の男性的な一本氣な男だ。酒は飲むと言ふより底無し酌だ。誰か勇士があつたら、彼と一戦やつてごらんなさい、卓一パイ、銚子を並べてもケロリとして居ますよ。御用心々々々。

彼も入營組だ。

小柴清定 彼は整形です、醫局で「ライオン」は何うしたと云へば、間違ひなく彼の所に通じる程だ。然し彼は決して齒磨き屋の息子でもなければ、エチオピアからの留學生でもありません。普通部時代いやそれより以前からの名前ですから、其由來は、お釋迦様でも御存知ありますまい。此男、よく銀座あたりをウロツイテ居る事がある。人間並に此ライオンも酒を飲む事を知つて居る。此の男、よく前田先生の口眞似をする男だ。自分では俺も四十か五十位になると前田先生みたいに立派になれると考へて居る、其う云へばどうやら髪の毛の形がやゝ前田先生のそれに似て來たと言ふ評判だが、此れは生付きで餘り當にはならない、他はゼロな氣の毒な奴さ。とは莫迦に悪口を云ふ様だが自分

で云ふのだから先づ謙遜だよ。

彼と同様によい別命を持つ男に松浦が居る。

松浦勇四郎 通稱カメ、此も由つて来る由來は知らぬが歩きつ振りも、どうやら、龜に似て居る。此龜、仲々の藝人で彼の米山甚句、は玄人ハダシだ。某教授が、それでなくとも傾いて居る首を一層曲げて、一體どこで習つたのだからと感心したのを覺へて居る。彼も左奈田と同じボートの選手で又、此カメは、山登りの好きな事も有名だ。カメだけに「カメラ」は、人一倍趣味を持つて居て、院内各科寫眞展にも出品する位の心臓を持つて居る。

大分あきた頃だから、一つ婦人雑誌の寫眞紹介で行かう。

石川七郎様 御年齢は廿六歳、このお寫眞は先日御邸宅で撮らせて戴いたものでございます。前に見へますのがお庭、まあ何と言ふお綺麗なお庭ですこと。

七郎様は未だお一人でいらつしやいます、お寫眞でお分りの通りそれはくスマートなお方でございます。お趣味といたしましては、お寫眞スキー、登山、レビニュー等でございます、特にお寫眞には大へんお堪能でいらつしやいます、唯今お料理の方を御研究中でいらつしやるそうでございます。エ！料理？ ウソも休み／＼言へ。

ではこれ位で。ア、くたびれた／＼。

終りに新人記憶上参考ともなれば結構だと思つて居るんだが、つまらぬ物を二、三書いて見る。

オダマン 小田滿に名和れ／＼れた(名和糖) 眞田紐(左奈田幸夫)

丸く(松丸忍) 縛らば(小柴清定) 玉(稻葉玉六) となるらん。

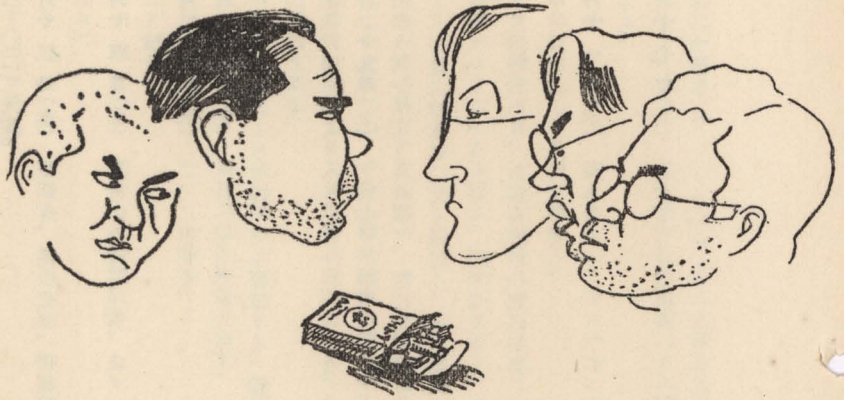
質（石川七郎）流れ、安く（安齋直）口説いた（工藤達之）かの（加納）カメラ（松浦）

聞く（菊池）者ぞ知るその關（關口）の山。

これとはんだ（富田）お話し（林）で失禮。

はい御退屈さま。

一新人記。



十二月一日(日) 大木、蓮江兩君入營、祈御健闘。
 十二月二十七日(金) 茂木先生御招待忘年会、於幸樂、出席多數、種々の珍藝餘興あり。飾りの大風を分捕つて歸る。

務 庶 醫 局 便 り

十二月二十九日(日) 幸樂より戦利品の大風返還を要求さる。

年忘れかつぎかへりし大風を

さりかへされて頭かくべえ。

山口恒造君 アツペにて入院。

一月一日(水) 晴れて暖い結構な元旦、午後一時より大

手術場に集合、茂木先生を中心に大祝賀會を開く、吉例の福

引も賑し。

茂木先生宅初め諸先生宅に千鳥足ふら〜年賀に繰出す。

一月八日(水) 渡邊仁七郎君入營の爲め新潟へ出發。

(但、間もなく歸さる)

一月十日(金) 大角力春場所始る。救護始め。

一月十一日(土) 茂木先生謝恩大觀劇會を歌舞伎座に開く

參會者多數。

一月十五日(水) 大角力愈々佳境に入る、婦長も始めて兩

國へ乗出す。

二月三日(月) 茂木

先生より「山くじら」

の御馳走。満腹々々

二月四日(火) 節

分。整形入院中の高

登關の豆まきあり六

尺二寸の年男も白衣

の天使に取りかこまれて汗だく。鬼は外福は内。



五十四年振りさかの吹雪、帝都の交通は殆ど不通、臨時當直多數。

二月七日(金) 對婦人科蹴球戦、積雪のグラウンドにて熱戦三〇にて快勝。

二月十三日(木) 茶話會、係の交替、警局規要二、三の改正あり。

二月十五日(土) 對青山外科蹴球戦、珍プレー續出、二一〇にて惜敗。

二月二十六日(水) 二、二六事件。

二月二十八日(金) 叛徒に最後通牒を出す、いよいよ戰闘開始の由。内務省より救護準備を要請さる。警員一同禁足病院に籠詰さなる。

赤坂前田病院より入院患者を依託せらる。

二月二十九日(土) 午前七時救護班出勤命令下る。慶應病院救護班の旗を押立て勇氣凛々、四谷見附麴町方面五班に分れ屯す。午後二時叛徒は全く歸順し、戦火を交へずして鎮定す。

救護せるもの一人も無し、腕がなる。午後四時茂木先生より御寄附あり、救護班解散の乾杯を擧ぐ。

中村武重君より見舞電報來る。

三月十一日(水) 茂木先生「ラヂオ」にて盲腸炎の話放送せらる。

三月十七日(火) 高木宗吉君肋膜炎にて入院。

三月二十三日(日) 「アラナル」の八木勝郎君歸局。

三月二十六日(木) 學會豫演會。

岩崎一平君増田病院轉任のため來局。

三月二十八日(土) 八木勝郎君歓迎、山田迪君送別の會を行ふ。

三月二十九日(日) 照内先生告別式。哀悼の意を表す。

三月三十日(月) 名古屋學會一行元氣にて出發。

三月三十一日(火) 岩崎君青森に出發。藤原道純君高熱にて入院。

四月一日(水) 古川明君生理より歸局、大岡保司君理學科へ轉科、山田迪君甲府へ出發。

四月三日(金) 名古屋學會より吉報あり、「宿題を擔當する」ことに決定。

四月八日(水) 二、二六救護謝禮として内務省より金一封。宿題に關し同窓會員に依頼狀發送。

四月九日(木) 新入局員十七名元氣な顔を見せる、夕刻新入局員より澤山の御馳走あり、新人舊人和氣霽々たり。

山田康夫、竹内實兩君除隊歸局。

岡島教授急逝せらる、謹んで哀悼の意を表す。

四月十一日(土) 新入局員歓迎旅行、鬼怒川温泉に出發。

四月十二日(日) 整形新入局員西平賀健君旅行中アツペになり急遽歸京入院。

四月十四日(火) 宿題に關する打合せ會及び八木君のアラナル談あり。茂木先生によつて各自その受持分擔を指令せられ起立の上今後の奮勵を誓ふ。尙席上前田教授の鞭勵の辭あり。

四月十九日(火) 外科整形外科同窓會、於幸樂、出席者多數。

四月二十八日(火) 中野宗夫君大阪日赤に轉任出發。

五月十二日(火) 小平正君御結婚。

正ヒンが貴方に代る今日の春、外科獨身會

謹みて御成婚を祝す、外科醫局

五月十四日(木) 山田迪君論文通過。

五月二十日(水) 對内科野球戰、一對一の大熱戰の未引き分け。

五月二十三日(土) 對内科野球再試合、六一四宿敵内科を倒す。

鎌田竹次郎君講師就任祝賀並に渡邊敬君送別の會あり。

五月二十八日(木) 鷗澤敏三君、小田滿君結婚。

謹んで御結婚を祝す、外科醫局

御成婚を祝し脱退を承認す、獨身會

一家の興廢此の一戰にあり兩人奮勵努力せよ、同窓會

五月二十九日(金) 醫局野球對小兒科決勝戰。三〇にて惜敗。

六月八日(月) 第十六回開局記念日、祝賀會を職員食堂に開催、茂木先生始め犬養大庭その他先輩諸先生の顔もみられ大

盛會。

六月十日(水) 對婦人科籠球決勝戰快勝。

六月十三日(土) 高松宮殿下御台臨、外科にてはアツヘ塔、

整形にては脊髓外科標本等を御台覽にされる。

六月二十日(土) 對青山外科ホートレース、快勝す。

六月二十七日(土) 富田忠良君壯行會。

六月二十八日(日) 當整形對東大整形野球戰、七一三にて快勝。試合後於三四會食堂懇親會を催す。

六月二十九日(火) 柔野鐵四郎君論文通過。

七月四日(土) 對青山外科庭球試合快勝。

七月九日(木) 富士救護初陣出發。

田村信介君肺炎にて入院。

七月十六日(木) 神山敏雄君送別會、於幸樂大盛會。

七月二十日(月) 整形外來に保育園開設さる。

七月三十日(木) 豊田秀穂君御逝去。謹んで哀悼の意を表す。

八月二日(日) 神山君滿洲興城に出發。御壯途を祝す。

八月三十一日(月) 渡邊敬君赴任の途に就く。祈御健康。

九月一日(火) 關東大震災第十三周年、默禱提飯。

吉野史郎君歸局。

茂木先生より恒例の舟遊びのかはりに醫局に多額の御寄附あり。

九月二日(水) 對耳鼻科庭球歸、五一〇にて大勝。

九月五日(土) 高橋真雄君南洋テニアン島より戰京。

九月十二日(土) 對内科競泳、前田教授の應援を辱うし吾が

軍奮戰大勝す。

九月十六日(水) 對青山外科競泳、吾が軍意氣大いにあがり

宿敵青山外科を破る。(詳細別記)。

九月二十日(日) 青山外科招待懇親會、雨天の爲め期待せる

野球、リレーの試合は中止となりたるも、既に庭球、水泳、

ホートに連勝せる我が軍は三年振りにて茂木、青山カップを
獲得し深酒々々。

十月 四 日(日) 對小石川分院野球戰、延長十一回の熱戰

一〇にて辛勝す。

十月 七日(水) 對内科庭球、四―一にて惜敗。

十月 八 日(木) 草間滋教授逝去さる。謹んで哀悼の意を

表す。

十月 十九日(月) 別館産科襦袢乾燥室より發火す。別館外

科標本室にて勉強中の藤原、武藤、笹島、古川、鷗澤、吉岡、

松浦諸君猛火を潜り奮闘よく大事に至らずして消し止む。

十月 二十日(火) アツペ五〇〇祝兼昨日の消火慰勞會あ

り。

十一月 一日(日) 高橋眞雄君結婚、祈御幸福。

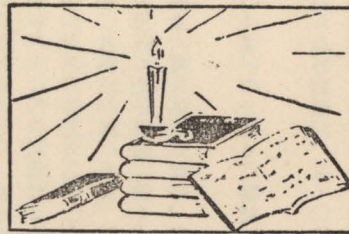
十一月 二十一日(土) 壯行會。小田、松浦、加納、名和、工藤

西平諸君送別。

十一月 二十九日(日) 當方整形對東大整形野球戰。春の仇をう

たれる、十六―七にて大負。試合後於好仁會食堂懇親會を催

さる。



二、競 演 會

先ず兩軍代表の挨拶の後例により優勝杯の授與式となる。吾軍本年こそは思ふ存分實力を發揮した爲めか「ボート」「テニス」水泳と連戦連勝で、餘す野球「ランニング」も實は快勝する事になつてゐたのであるが、惜しい哉雨天のため中止となつたのは返へすくも残念である。然し既に五種目中三種目優勝してゐるので、「カップ」は目出度く吾軍に授與された。それからいよ／＼競演會とはなつたのであるが、敵は大將「デコチャン」が見へないため何んとなく萎縮し、これに反し吾軍よりは次から次へと腕に覺への斯界の強者をば送り出し、遂に吾軍の壓倒的勝利に終始した。

斯て本年度對青山外科懇親會も極めて和かなる空氣のもとに、兩教室の萬歳を三唱して解散となつた。

一、青山外科との庭球試合

H、 T、

今年度より青山外科との庭球試合を行ふとの話があり今井、佐藤兩君が交渉に當ることになつた。何しろ今始めてであるから試合の形式上について、兩方にそれ／＼の言分がありなかく／＼まとまらず、一時は交渉決裂と思はれるやうになつたが兩君の努力空しからずA、B、Cの三組（二編成各々五、六組づゝ）に分けて試合を行ふ事に話がまとまつた。

期日は七月四日、その日幸に青天にめぐまれいよ／＼一時半迄には青山茂木兩外科のメンバー殆ん

ど集合愈々試合開始となつた。總人數約四十名づゝ、合計約八十名茂木外科總動員の感があつた。

A組始めより調子よく優退組三組もあり意氣昇天の勢だつた、而し味方に利あらず大將組の若林、森兩君の奮闘空しく惜敗したので結局A組は敵の大將組の總ナメとなつて、惜しくもA組は慘敗となつた。

B、C兩組もやはり結局大將組の勝敗によつて決するわけである。

C組の大將組佐藤、小林兩君の組は難なく敵を慘敗せしめ残るB組が勝敗の分れ目となつた。

實にこの一戦は息がつまるやうだつた、敵の大將組巧妙にして味方危しとみゆること幾たびかあつたが今井秀君の牽制見事効を奏し、又小林忠君の援助宜しきを得て遂に敵を破り2-1にて茂木外科に凱歌が上つたのである。來年も是非必勝を期す！

甚だ簡單ながらこゝで筆を置く。

一、對青山外科ボートレースの記

ながすね



る。

クルーの編成にメモが木枯しに會つた桐の葉の如く、一枚、一枚散つて行つた、主將の額に皺が増して來た。

A、B、C組に先ず仕上たのはレース當日の六月廿日の午前中であつた。思へば苦心の結晶であつた。

兩クルーA、B、C組、組合せて、A組がスタートする前にB組が河に出て居る、A組が上ればすぐC組が乗込むと云ふ段取り、つまり、各自の組の勝負以外他の組の勝負は、レース前は全く不明である様になつて居る。各クルー、ベストを盡さざるを得ない。

A組 僅差で勝を譲る。

B組 ゴールイン後タッチはしたが、半艇身の差で勝。

これで同点、C組がいよゝゝ決勝の鍵を握つてスタートした。

来たゝ前のB組に双方懲りたか、お互に左右に離れしかも二コース吾クルーは悠々迫らず、相手クルーを遙かに水を開けて従へて、ゴールイン。

これで、二對一で勝ち、第一競技に一點を得て幸先を祝した。

吾各クルーメムバーは次の通りであつた。

A	小泉	舵手
	赤倉	一 整調
	名和	一 五番
	松浦	一 四番
	大岡	一 三番
	中山	一 二番
	大木	一 舳手
B	加納	
	田村	
	笹島	
	竹内	
	藤原	
	古川	
	神山	
C	尾村	
	齋藤	
	伊藤	
	瀨尾	
	富田	
	小田	
	關口	

終りに臨み、勝利を得た蔭の力醫局全體の後援に感謝し、一方、田村主將の渾身の努力に敬意を表し、氏の病の一日も早く快復されて、元の元氣になる日の速かならん事を祈つて止まぬ次第である。

一、對青山外科競泳記

石川

日時 昭和十一年九月十六日午後四時半
場所 三田綱町プール（短水路）



て、曇天、秋風肌に心持よし。

午後四時に至るや選手連、思ひ／＼にウォーミングアップ、をなす。泳ぐと疲れると言つて、練習せざる心細きもあり。

メンバーの交換、コースの撰定あり。我水上チームは第四コース、青山外科は第二コースと決定せり。

スタートは體操場側、各人廿五米泳ぎ廿五人目のアンカーは、跳入臺側にゴールすることゝなる。

正四時半、スターター岩原助教教授スタート臺に立つ號砲第一發は試され、いざスタートとなるや岩原先生、あやまつてプールに落ち、次いで本當のスタート見事に決つて決戦の火蓋は切らる。

岩原先生敵の第一泳者を三ストローク程離して瀬尾主將に引きつぐ。瀬尾主將、此處を先途と力泳勉め殆どプールの長さ半分位引離してしまふ。

これに氣を好くした我選手大いに張切つて、見違へるばかり潑刺として、いつの間やらプール全長の差をつけ、敵とはプールの中間ですれ違ふといふ状態となる。

後半ともなれば、敵には凄い奴が出て追ひかけられるのではないかとひやく／＼したが、それは杞憂に終り、アンカー左奈田君のゴールインせる時は、敵のアンカーの跳び込んだ時であつた。

めでたし／＼

思ひがけないこの大勝は各選手の熱と、ファイトに負ふ所多く瀬尾主將の策戦の巧妙なるものもこの勝利の重大原因である。

左に當日のオーダーを記して、各選手の益々御奮闘あらんことを祈る。

外科	原尾内泉岡溪邊 ^治	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
木	岩瀬大小吉百渡小野笹今小島久松中古渡松齋辻林赤小 ^{奈田}	1	2	3	4	5	6	7	8	9	11	12	13	14	15	16	17
外科	倉林 ^忠																
山	瀨水永野口宮棟田村川田永藤利原柴高原山上原井屋村																
山	高 ^比 清 ^濱 時 ^日 濱 ^{地方} 福 ^吉 田 ^石 寺 ^德 佐 ^佐 松 ^御 安 ^桑 西北西大守大																

庭球醫局リーグ戦跡

關 口

今年こそ勝たうと、夏休み頃暑い時から宿題報告で多忙の中の寸暇をぬすんで、ポツ／＼練習を始めました。メンバーは森、若林、久崎、島田、佐藤、今井、小林忠、小林不諸先輩に新人辻岡、關口が加はりました。練習のためか皆かなり打てる様になりました。殊に小林忠先輩など進境目覺ましいものがありません。

九月末試合も迫つたので佐藤、今井、小林先輩等一夕を卜して策戦の會をやりました。どの組を先にするかの問題もさる事乍ら殊に前後衛の組合せ等傍でみる目も一通りの苦心ではなかつた様です。

十月に入つて間もなく抽籤の結果最初内科と當つた事が、わかると何となく勝てる様な氣持がしましたといふのは今年内科は力強い、二選手湯淺、富田兩氏が醫局を去つてゐたからです。

試合も愈々切迫したので吾々も一心に練習しました。十月七日(水)、初秋でも少しうすらさむい午後でした。三時頃組合せが發表されましたが、その結果は實に吾々の豫期に反して最も都合の悪い組合せでした。でもベストを盡して何か悔ゆる所があらうと一生懸命戦ひましたが、天我に恵まずでした。組合せ及び戦跡は左記の通りです。

- | | | | | | |
|------|----|-------|----|------|-----|
| 外科 | 内科 | 外科 | 内科 | 外科 | 内科 |
| 1 島田 | 西村 | 2 小林忠 | 五味 | 4 若林 | 南谷 |
| 岡 | 藤 | 今井秀 | 原 | 森 | 宇賀田 |
| ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

外科

内科

外科

内科

4

○佐藤
關口——石田
三邊

5

久崎
小林不——伊藤
野○

以上の様な成績で何とも申譯ない次第ですが、然し吾々は出来る丈戦つた積りです。殊に島田辻岡組の第一戦は未だに印象に残る惜しい試合でした。最後迄デウスで戦つた試合でした。その間の島田先輩のあの巨體を以てかけ廻る奮闘には實に涙ぐましいものがありました。もしこの組が勝つてゐたならと時々考へますが所詮勝負は時の運ではないでせうか。

老将森先輩を始め他諸先輩も多忙の中を、練習に策戦に實際苦心したのですが、この様な結果になつて了つた事は武運拙いといふより仕方ありません。

こんな譯で「今年こそはが」又しても「來年こそは」に變つて了ひました。吾々も來年こそ一層練習して是非勝ちたいと心懸けてゐます。實際眞劍にやる迫力位恐いものはありません。何卒御後援を願ひます。

以上甚だ以てお粗末乍ら戦跡報告の責をふさぐ事と致します。

野 球

小 島

醫局對抗戦

◎對藥物醫化學戰

四——三 辛戦す。

◎内科一勝者戦

五月二十日（於病院グラウンド）

一——一 大接戦後引合。

◎對内科第二回戦

五月二十三日

六——四にてやはり大接戦後辛戦。

◎對小兒科決勝戦

五月二十九日

三——〇にて完敗

8	中山
2	齋藤
1	小島
5	島中
6	富田
7	渡邊仁
4	山口 (小林不)
9	小柴
3	石川

先	小	外
I	0	0
II	0	0
III	2	0
IV	0	0
V	1	0
VI	0	0
VII	0	0
VIII	0	0
IX	0	0
T	3	0

◎對小石川分院戦

十月四日（於本郷帝大球場）

一A——〇（十一回）にて我軍辛戦す。大接戦

尙當日の出場メンバーは

2	藤
6	内
1	島
5	中
8	泉
7	邊渡仁
9	柴
4	山
3	石

先	分院	慶
I	0	0
II	0	0
III	0	0
IV	0	0
V	0	0
VI	0	0
VII	0	0
VIII	0	0
IX	0	0
X	0	0
K	0	1A
T	0	1A

決勝の一點は十一回裏我軍第一打者石川君左翼快打に出壘齋藤君内野飛球一死後石川君二盜成功。續いての打者大内君投手後の小飛球ヒット投手とるやあはて、一壘暴投走者石川君決勝の一點を擧ぐ。試合終了後本郷白十字に於て茶菓の饗應にあづかる。

對醫局リレー

小林

三四會運動會の呼び物たる對醫局リレーは、夕暗みの中にスタートが切られた。我が醫局からは新人石川君がスタートの大任を見事に果して、慶應病院切つての超特急内科の小田君、東校舎の伊東君をば負してしまつた。其の後我が軍大いに奮闘せしも内科の追走急にして、或ひは抜かれ或ひは抜きして大接戦を演じたが、實力の相違と云ふよりは練習不足のため、アンカー百溪君の頑張りも空しく遂に内科に名を爲さしめた。當日のメンバーは次の如し。

外科	川田	藤内	林山	丸島	邊溪
	石左	齋大	小中	松小	渡百
内科	田邊	藤谷	藤邊	原	秦野
	小賀	三安	南佐	渡	小



昭和十一年夏季富士山救護記

山

男

恒例の通り新人の洗禮である富士登山者救護の役は今年も幾多の笑話、艶聞、功績を残して成功裡に幕を閉じた。昨年迄は山梨縣吉田口だけを引受けてゐたが、今年は静岡縣でも御殿場口七合目、日之出館内に救護所を設置し救護方を静岡日赤支部へ依頼したので、日赤より醫員を本學へ囑託し、こゝに吾々は静岡日赤支部臨時醫員として御殿場口へも出動することゝなつた。

各々の胸に秘めた想出は別として、救護日誌

に記し残された出來事の一つ一つを、今神戸行燕の車窓から既に夏を忘れて白雪に埋つた富士の姿を今更ながら懐しく眺めて拾ひ上げてみよう。

吉田口之卷

時——七月十日より九月七日まで六日交代、

五合目及び八合目夫々三日づゝ。

人——左奈田。林。加納。安齋。工藤。松浦。

辻岡。小柳。關口。石川の順序。

左奈田君。七月九日一番槍を承つて見參に及ぶ。

然しこの一番槍たるや、醫局で別れの「アルコ

ール」が効き過ぎ、野崎、武藤兩先輩に汽車の中へ擔ぎ込まれたと云ふ記録を残してゐる。だが流石に敵陣は誤たず吉田へ辿りつき、池谷醫師に恒例の迷筆を揮はされた。吉田署は昨年の猛者の御利益で署長以下全部新らしく、腰が低かつた。

林君。七月十六日二番槍、この頃からそろそろ忙しくなり始めた。患者は専ら女學生が多く、猛烈に張切る。救護所は「ホルモン」の溢れた女學生で埋つてゐる。其他某工業學校生徒三名高山病ならぬ金缺病のため一夜救助す。

加納君。七月二十二日小舎は全部女學生で埋まる、二十五日には小林(不)君兄妹来る。二十日埼玉縣學務課長心臟麻痺死亡。翌日の新聞には二段抜きでデカ〜と慶應病院加納、兒玉(内科)兩醫學士急行云々と書かれ正に今夏一番の大物を射止む。二十七日には七合目の

斷崖から墜ちた男が運ばれたが既に昇天してゐた。早速不淨道より下し、その後で和光の親爺に小舎の前の怪しげなほこらの前でお祓ひをされ、藥罐頭の村長さんにエラく持ち舉げられピールの御馳走になつた。

安齋君。七月二十八日一緒に來た内科某氏、救護

日誌や藥品を見て珍らし相な顔をしてゐる。

「これは何んだい?」、「この帳面に色々な事を書くんだよ」、「へえー」、「藥はどれだい?」、「この箱の中だ、見ておけ」、「どんなものがあるんだい?」、「何云つてやがる、お前醫局で聞いて來ないのか?」、「だけど先輩はそんな事一言も云はなかつたよ」、「一體何を聞いて來た?」、「オ金チャンの話ばかりだつた」、「ヒデイ奴だ」、「オ金チャンでどれだい?」、「アレだよ」、「ウエツナーンだ、アレか」。オ金チャンと云へば毎年話題の中心になるのだが、

齡は幾つか見當がつかない。白粉をデコく塗つた、やゝ花王石鹼に似た所がある。いやにジワく近寄つて来る女だ。出戻りとかで近頃少々あせつてゐるらしい。自分では自信たつぷりなんだがアレではどうも。餘り書くと差し障りがあるかも知れぬのでこの邊でやめよう。その妹にオシゲチャンと云ふのが、芳紀將に十八歳、もの凄くアラケズリの女である。

七月三十一日 Leiche に遭ふ。

工藤君。八月三日まだく救護所は忙しい。郵便局の親爺はよく呑む。酒は四斗樽で上げてゐる。

今年の富士国立公園記念切手が美しいので大もてだ。女學生が来る、「切手百枚下さいナ」、「百枚もどうするんだ」、「だつて欲しいんですもの」、「しようがないな、ヨシ賣つてやる」、

「アラ賣つてやる？エバつてるわネ」

松浦君。八月九日、もう相當閑散だ。散歩をしたり、バイ一引つかけて八合目を彌次つたりして暮す日が多い。

辻岡君。八月十五日、この頃になると、患者は殆んどない。

小柴君。八月二十一日、救護日誌はオ金チャン、オン、ブレードだ。實際人氣のない八合目に居ると、電話で御聲に接しバイ一傾けるしかない。

關口君。八月二十七日、一風呂浴びて天下泰平、吾又何をか言はんや。

石川君。九月三日、救護の殿りを承る、それでは和光の人達、それから我々をこんなに楽しませて呉れた富士の山よ、さようなら。

御殿場之巻

時——七月十三日より八月十五日迄であるが
外科は前半の七月十三日迄で後半は内
科が行つた。

人——小田。石川、松丸の順序、六日交代。

小田君。七月十三日、初陣御殿場の一番槍を承
つて先づ静岡日赤病院支部警局訪問、諸先輩
の猛烈な歓迎と激勵を受け感激す。持つべき
ものは兄貴なりの感身にしみて更めてこゝに
深謝す。

登山者は吉田口に比し多少少ない様である。

石川君。七月十九日此の頃になると登山者も漸
く多くなり、仕事も随つて多くなる。

松丸君。七月二十四日外科の殿を承る。非常に
忙しく飯を食ふひまもない。七月二十六日自
稱「アルツト」で赤十字に十年間ゐた事があり
目下大阪に居て自ら院長と喧傳する不逞漢來

り堪忍袋の緒を締めかねた。同日夕方に静岡
縣知事と御殿場署長が救護所を訪ね丁寧に
を懇ふ。知事殿牡丹餅を食ひ過ぎ胃を悪くし、
胃散を望むので與へた處が落してしまつた。
更に與へ様とすると勿體ないからと云つて拾
つて服んだと云ふ、前者に較べ云ひ得べから
ざるものがある。七月二十八日には海兵團八
〇〇名の登山のため海軍々醫中尉殿以下看護
兵三名應援に來る。

これで救護日誌は終つてゐる。さつきまで見え
てゐた富士も遠く雲の彼方にかくれてしまつた。

(終)

て置かう。運動は嫌で、話題は藝術的な上品なものが多かった。

我々が入局した頃は、飲み仲間に事缺かず、しかも可成り荒つぽい飲み方をした。其の中にあつて酒は嗜まず品行の正しい彼は紳士の部に屬してゐた。但大聲で喋舌るのと、偉大なる食慾とは少々彼の品位を落した感があり、支那料理の宴會などで彼の次に座ると料理の配分が悪くなる恐れがあつた。

此の如く食慾旺盛で榮養佳良なる彼が、何の間違か呼吸器を害し、暫時入院の後平塚へ轉地した。轉地先に於ける彼の養生法は理想的のものであつたらしく、すん／＼と健康を取戻して、元氣な顔を病院に見せる様になつた。そして醫局は空氣が悪いと言つて窓を開け放して其の傍に座り、大概は早々に引上げて行つた。

續いて館山病院に赴任してからは愈々壯健になり、體重も増し洋服が皆駄目になつたとこぼしてゐた。筆者が彼の後任になつた夏は、共に同地に暮したが、交友を集め麻雀をやつたりして、大いに元氣であつた。好い手がつくと、立ち上つて帶を締め直すのが彼の癖と言はれて居た。

再び上京した彼は生理學教室に入つた。其の後數年は筆者は館山に居た爲に彼と直接相會ふ機會は殆ど無かつた。しかし彼が愛好した館山にきつと來ると言ひながら一度も來なかつた處を見ると、可成り忙しく過した事と思はれる。其の甲斐あつて、美事學位を獲得した彼は、横濱の山下病院に勤

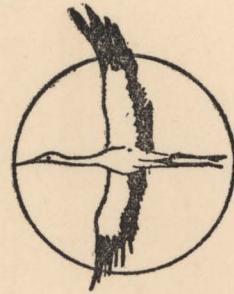
務心置き無く醫務に精勵してゐた。次で同病院の解散を機とし故郷鶴岡市に開業した。

開業の成績は甚だよく、正に順風を得て出帆するの勢を見せた時、不幸苟且の病に臥した。豊田病むの報を得たけれど、筆者は必ずや恢復するものと信じて疑はなかつた。豊田自身も治癒すると思つてゐたらしい。歿前一ヶ月、筆者への便に、やがて上京入院するからよろしく頼むと書いてあつたので、面悟の日を楽しみにしてゐた筆者の耳を愕かせたのは突然の危篤に續く訃報であつた。

業半ばと言はんより、漸く準備を了えて、正に其の業に就かんとする時斃れた彼は、如何ばかり残念であつた事か、最期の心中を推し計れば、我も亦涙無しには居られない。既に事終れる今日、若くして逝ける彼の靈安かれと祈り、遺されたる一家の多幸を深く願ふのみである。

彼の美點を擧げれば、何より其の心情の正直にあるであらう。彼の言葉、彼の態度、總て天真爛漫に何等の策を藏しない。餘り正直な爲に却て敵を設けた事すらある程であるが、本來の彼を理解すれば、何人も惡む事は出来なかつたと信ずる。

豊田秀穂は良き友である。良友遂に憶出の人となつた。淋しく思ふ者筆者獨りではあるまい。



古 い「カルテ」

古
川
明

目下自分は古い「カルテ」によつて蟲様突起炎の統計的調査を行つてゐる。調査事項が何時も容易に探し得るものなら何でもないが、記載の不備なため入退簿、手術簿、入院「カルテ」、外來「カルテ」、手術表、體溫表等を調べて行かなければ目的事項を見出し得ないことが屢々ある。最初の間はこんな時に大に不満を感じた。然し乍ら段々之を續けてゐる間に慣れてしまつたせいか此の手数はあまり苦にならなくなつて來た。よく考へてみると以前は何も蟲様突起炎に限つて詳細に「カルテ」を書く必要があつたわけではないし、又特に記入すべき必要事項が示されてあつたわけでもない。従つて澤山の「カルテ」の中には多少不備なものが出來るのも已を得ないだらう。

翻つて今の自分の「カルテ」の書き振りはどうだらうか。蟲様突起炎が宿題報告と決つた現在だから必要な記載事項の大體はきまつてゐる。従つて以前の様に唯漠然と「カルテ」に記載するのはち

がつてずつと書きよい筈である。然るに必要があつて之を見直してみると大切な事項を書き落してゐることが随分ある。何とも恥しい次第である。

そう考へると教室の先輩諸兄の努力の結晶たる古い「カルテ」は粗末に扱ふべきものではないし、又之を用ひて色々なことを調査する時は多少不備な所があつても徒らに不平を云ふべきではない。否寧ろあれまでの努力を大に感謝すべきではないだらうか。

こんな事を考へながら自分は毎日塵だらけの古い「カルテ」を開いてこつ／＼と統計の仕事を進めつゝある。

× × ×

附記。同窓會々員で蟲様突起炎に罹つた人が意外に多く五十名に上つてゐます。之を詳細に調査しようかと思ひましたが、肝心の宿題の統計が未だ出来上りませんので他の機會に譲ることにしました。

(昭和十一年十一月下旬)

動物 雜 考

小 平



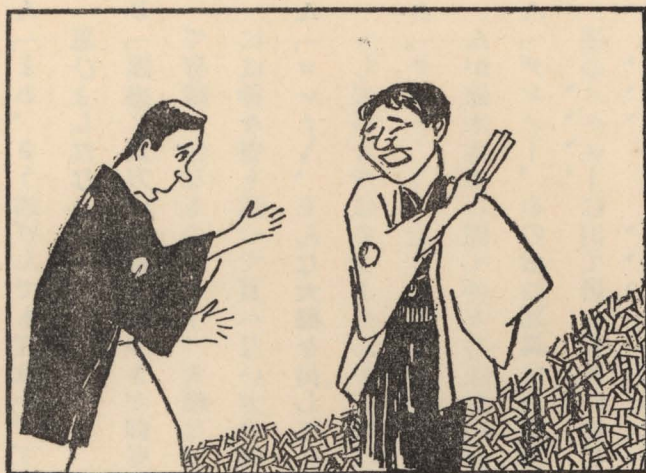
君はカンガルーの仔が母親の腹の袋に這入り込むのにどんな工合にして這入るかと云ふ疑問を持つたことがあるか？ そりや、親が寝そべつて居る時に匍ひ込むのだらう。いやちがふ、親が口でくわへて入れるのさ。いや親が両手で抱き舉げて入れるのだ、といふ事になると成程長い尾と後脚で直立して小器用そうな兩手を胸の前に掲げてゐるカンガルーの格好から、あゝそうか、いやそうに違ひ無いと簡単に賛成して仕舞ふ人もあらうが、事實は然らず、廣い世界でその瞬間を目撃した人は實にたつた一人しか居ないのである。

そもくカンガルーの屬する有袋類といふのは無胎盤類 (Aplazentals) であるから、分娩直後の仔の發育状態は非常に遅れて居るので暫時も母體を離れてゐるわけは無い、といふので、腹の袋にどうして這入り込むかといふ事は各國の動物學者間で随分と議論されたものである。百聞一見に如かずといふわけではあるが、生來憶病な此の動物は人の居る前では決してお産をして見せぬのである。所が

或る動物園で丁度景色をスケッチして居た一人の英人畫家の眼前でついつかりとその光景を暴露して仕舞つたのである。その奇妙な光景は忠實に寫生されてある本に記載された、それによると、カンガルーの牝親は時々自分の下腹部（と言へば此の節では直ぐと新聞記事の下腹部を想像するので甚だ便利である）の毛を腹の皮囊の方に逆舐めにする習性があり、これは妊娠時に殊に頻繁であるそうだ。（此の事實は諸々の動物園の人達は皆認めてゐる。）さてお産となると牝は地上に仰臥して盛に此の現象を繰り返してゐる間に、胎兒は頭を出し、あれよ〜と言ふ間に此の舐めならされた毛並みの上を芋蟲の様にする〜と袋の中に滑り移つて仕舞つたのである。此の間觀察者は非常な緊張もしてゐたのであらうが確かに極めて短時間内の出來事であつたそうだ。」

先頃から豹が逃げたり、鹿が脱走したりして腐り切つて居る動物園の園長さんは午後の陽ざしを浴びながら、斯んな話をして呉れたのである。

僕等の前では、今夏遙々南の國から初登場の「笑ひか、は、せみ」の笑ひ啼きをトーキーにおさめて、ニュース映畫でワツと言はせん哉と、A新聞の大の男五人が朝の五時から動物園の籠の前に録音器を据え付け、二羽の鳥の御機嫌損じまいぞと息を凝らし待機すること正に一日半、未だに啼きもせぬ、笑ひもせぬ、「商賣とは言へ、辛いものでせうな、鳥は腹の中で笑つてゐるでせうよ。」と太い眉の奥で古賀さんの眼が苦笑してゐた。（一九三六・七）



眞の話に相違ない!!

A ワンタウン

B フルベース

A 「私はネ、先週の日曜日阿佐ヶ谷まで一寸用事があつて
出掛けましたよ」

B 「へー貴方みたいに無精の、外出嫌ひの御方がわざ／＼
御出掛けとは餘程の大事件があつたに相違ありませんね
一體何が起りましたか？」

A 「ナニ、用事の方は大した事ではありませんが、其の阿
佐ヶ谷の驛で大事件が突發したんですよ、實はね大きい

聲では申上げられませんが、其處で實に絶世の美人に話しかけられたんですよ」

B 「それは又大變結構な事だつたではありませんか、貴方みたいな醜男に美人が話しかけたなんて實
に古今未曾有の大事件ですよ、大聲を擧げて大いに宣傳する價值があると思ひますよ。」

A 「イヤ／＼それ程ではないそしてね、只話しかけたばかりではなく、随分迷惑な事でしたが、斯う私にビツタリと寄り添つてね……」

B 「ワー氣持ちが悪い……」

A 「まあ、さう逃げんでも宜敷い、丁度他人が見たら、まるで戀人か何かの様にね、實に私は迷惑と思ひましたなあ。」

B 「迷惑？貴方は迷惑とはつきり仰有いましたね、然し其んな絶世の美人に寄添つて貰つてはかへつて有難い位なものでせう、失禮ながら、貴方はどちらかと云へば上野動物園へでも行かなければ雌には仲々寄り添つて貰へない方の部類に屬しますからねエ」

A 「コレ／＼、そんな大聲を出しては困りますよ、だから私は初めから大きな聲では云へないと御断りしてあるではありませんか、では此の話は止めにして置きませうか」

B 「チョッ／＼、止めなくてもいいでせう、今のは全く冗談ですよ、貴方はお古い所で甚だ濟ンませんが鈴木傳明に似て仲々苦味走つた好男子ですよ」

A 「デンメー、あの活動寫真に出る傳明にですか、ソーデスカ、傳明は立派なスタイルですね、洋服屋のメニユーに出て居る寫真の様なスタイルで、アー實に良キですねー」

B 「メニユー？メニユーは料理店の献立表の事でせう、スタイル、ブックとでも云ひませうね」

A 「そう／＼その様な素的なスタイルで、頭は今の流行のバナマ、ネントウ、エーブでね」

B 「バナマがネーンではありませんよ、傳明だつて夏はバナマの帽子をかぶりますがな、あの髪の毛は本當の生れ付きのもので、バーマ、ネントといふより寧ろナチュ、ラルウ、エーブでせうね」

A 「あゝさうですか、私は又あのチャ、ソレた髪をバラリ と額に垂らして、愛する彼女の爲に勇敢に奮闘する彼氏の銀幕上の勇姿が深く私のハートに印象されて居りましたので、傳明は帽子をかぶらない、従つてバナマ、ネント、思つたデス、一體私の何處が彼氏に似てゐますか？」

B 「何處とさう簡單には申上げられません、仲々探すのに困難ですね、只漠然と似て居ますよ。」

A 「ウワー心細い限りですね、でも似てゐると云はれ、ば悪い氣持はせんですな、オツ、ホン、」

B 「まあ似てゐるとでも云はなければ貴方は話の續きをスル、キ、デン、メーと思ひましてね」

A 「エツ、エツ、エー」

B 「まあそれは兎も角として、お話を續けて下さい」

A 「では前の續きと行きませう、時に話は何處まで行きましたかナー」

B 「阿呆らしい人だね、話といふのは、貴方が驛で絶世の美人に寄り添はれて夢心地になつたと云ふ處までですよ」

A 「ソウ／＼、然しデスネ、ウム、……」

B 「何を今更考へて居るのです、その美人がどうかしましたか？」

A 「エ、それがねエ、今考へるとお辱かしい話ですが、逢初夢子嬢ではなかつたかと思ふのですがね」

B 「エツ 逢初夢子 あの有名なシネマのスターの、そしてオリムピック水泳の猛者遊佐君と婚約の間だとか云はれて居る」

A 「ソ、ナンデスヨ、然し世の中は萬事思ふ様には行きません、結婚をユサセやうと奔走する遊佐君のお母さんが頑張つてゐるんではねエ」

B 「變な洒落はおよしなさいよ」

A 「ハア、然し何んと云つても美人は逢初君に相違ないと思ひますよ。」

B 「さう斷定されるには何か根據でもあつての事ですか」

A 「エ、ありますよ、何故ならば私は、初めて逢つた彼女が餘り美人だつたので、即ち逢初めは夢、コ、ーチだつたんですからね」

B 「ワー助からん人ですね」

A 「ソウ、私は又突然私の鋭い腦裏に浮び上つた美談がありますから、此の機會に御話致しませう。」

B 「良く脱線しますね、何の話ですか？」

A 「それはネ、毎年夏になると世界の名山、靈峰富士に登山者が俄然増加しますね、貴方は何故か知つて居ますか？」

B 「詳しい事は知りませんが、只登り度いから登るのでせう？」

A 「イヤ違ふ 富士山へ一度登れば永遠の生命が得られるといふ事に政府の方でも認めてゐます」

B 「ホ、ウー、それは初耳ですね、一體何ういふ理由でとせうか」

A 「解りの遅い人ですね、ソレ不~~死~~山 と云ふではありませんか」

B 「莫迦らしい、私は眞面目に聞いて居るんですよ」

A 「失禮々々、その富士山も眺めたゞけでは相當樂さうな山ですが、イザ登るとなると又恐ろしく難コースの連続でね、數々の病人も爲に生ずるんですよ、従つて慶大からも毎年外科の偉い先生が交替で行つて下さり、救護に當つて下さいます。」

B 「ソウでしたね、毎年の先生方の御努力で何の位登山者も助かるか判りませんね、昨年は岩崎先生今年は左奈田先生が其の救護のトップを切りました。」

A 「へー、さうすると毎年一番先きに登る先生は特別お偉い先生なのですか？」

B 「それは又何故に？」

A 「何故つて昨年は日本で一、二を争ふ大金持ちの岩崎先生で、今年は又上田の城主眞田幸村公の御子息サン、でせう。」

B 「呆れて物も言へませんよ、ソウではありません、何れも御關係はない方々と思ひます。」

A 「何んだ、ソーカ、そんな事ならイ、ハサキ判つてゐますよ、サナダロー、サウデハナイですか？」

B 「其れは兎に角、富士の難コースの問題はどうなりましたの。」

A 「アツ ソウ／＼その富士山の難コースをですね、聊かなりとも樂にしてあげたいと登山道の改正の爲に、毎年莫大の金を寄附する人がありますよ。」

B 「一體その奇特的な御方は誰れですか？」

A 「知らザア言つて聞かせやうか、然もラク、クにお金を貢いで居るのですよ」

B 「ハ、貢ぐとは變な言ひ方ですが、それにしても随分お金持ちなんですね」

A 「此れは絶対に内密に願ひますよ、其の方は慶大出身ですから此處の病院にも關係があるんですからね。」

B 「ソウですか何誰でせうか」

A 「それはね、矢張り活動役者の藤井貢君です。」

B 「へー人は見かけに依りませんね、あの役者はそんなに金がありますか？」

A 「イヤ、なくとも結構です、何故ならば名前が富士、イミツグでね、お金を出すのは樂な筈ですよ、ラグビー、ラグビーの選手だった人ですからね。」

B 「ダー、貴方と話をして居ると心から疲れて來ますよ、まあ、前に歸りませう、その美人はど
うしたんですか？」

A 「大分長くなりましたから、急いでお話致しませう、その美人が私に縞の財布ならぬ、ハンドバッグを預けてね、仲々立派なものでしたよ、そして、アノー私一寸お電話を掛けて來ます間御保管して下さいませんか？ と云ふのですよ、私も勿論喜んでその依頼を引き受けました、据え膳食はぬは男の恥とね。」

B 「ウン、成る程。」

A 「處がですよ、何時まで待つてもその美人は歸つて來ません、一時間、二時間、私も馬鹿面下げて待つて居るのも實にどうかと思ひましてね、最寄りの交番へ譯を話して私の住所も責任上告げて歸宅しましたよ。」

B 「それで終りですか？」

A 「イヤ、それからが大變です、私が歸宅して約一時間後、阿佐ヶ谷の交番から通知がありました。」

B「フン〜」

A「で大至急出頭せよ」と云ふ命令です、私は一體何事が起つたかと取る物も取りあへずその交番まで駆けつけました、そして事の次第を聞いて驚きの餘り……ウーン何んと云つたつけなあ、病氣になつただけれ共。」

B「貴方が病氣になつた？ どう云ふ病氣ですか？」

A「一寸思ひ出せませんが、エートなんでも頭と尻が貧乏する、と云ふ病氣でしたがねー、アツ思ひ出しましたよ、ノー、ヒン、ケツ、脳貧血ですよ。」

B「脳ヒン尻か成る程ね、頭と尻が貧乏するか、これは又大笑ひだ、時にその病氣の原因を作つた話は一體どういふ話ですか？」

A「暫く休憩させて貰つて、容易く恢復したんですがね、その話は、私にハンドバッグを預けたらしい人が電車に飛び込んで自殺したと云ふですよ、どうだ驚いたらう。」

B「ソーカイ驚きました、實に驚きましたね、逢初夢子の自殺なんて云へばそれこそ特種だね、何れ遊佐君との破鏡を嘆いた結果だらうと思ひますね」

A「いや〜逢初君ではなかつた事が後で判りましたがね、先づ私が屍體検診に立會ひました、實に無慘なものでした、兩足、兩手何れもバラ〜でね、周圍に流血と肉片が飛散して凄えのなんのつ



て、私は再び頭と尻に財布をあて、病氣の發作を未然に防ぐべく努力しましたね」

B「貴方の病氣なんかどうでも良いがな、時に屍體の話をもう少し詳しく話して下さいよ、轢死の現場つて随分凄いもんでせうね、顔はどうでした、美人の死顔も亦凄いもんでせうね。」

A「顔も亦相當に轢かれて居ましたよ、然し逢初夢子さんではないと云ふ事がヤット判る位でしたよ。」

B「へー顔は一體何處が轢かれて居たんですか」

A「丁度ネ、口の所でね、上顎と下顎が分れ〜になつてね、そして何れも齒は一本も残つて居らず、何處へ飛び散つたかも不明でしたよ。」

B「アーさうでしたか、丁度アツと口を開いた處へ車輪が來た譯ですネ、可哀想にねー、それからどうしました」

A「それでオシマヒですよ。」

B「何故？ 貴方はその美人の爲に葬儀にも參列しなかつたのですか？」

A「エ、その必要ありません、美人の齒が一本も無くて齒無し、ハナ

シ、話ですからね」

B「ウワー、此奴 私をマンマと一杯喰はせたな、畜生 アツツ 痛い 右の横腹が痛い 餘り興奮
したり怒つたりしたんでモウチヨウが起つたかな、ウーム痛い」

A「モウチヨウ！ それならば両手でシツカリ壓迫して居ると直ぐ治りますよ。」

B「口惜しいけれども、それは又ナツ！ ナツ！ 何故に？」

A「だつて俗にいふ盲腸炎とは蟲様突起炎の事、即ちこの病氣の時は先生方はアツべ、アツべ、アツべ、壓平
と言つて居りますよ、違ひますか？」

A、B「お古い處を長々と御退屈様」。



滿洲國とエチオピア

甘井太郎

近頃外交問題が色々とかましくなつて來た。

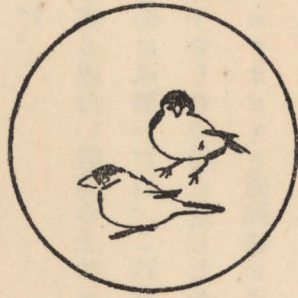
或る宵の話である。

Tさん。前夜は面白かつたぞ、一件がすんだと思ひたまへ。すると相手のがさくやりだしたんだ。俺はまだ相手の奴が足りないのかと思つて、もう一つかと言つた、そうしたら君、エチオピアだと言ふのだ。

見ると成る程白い敷布の上にエチオピアの地圖がなまなましく畫がかれてゐる、おまけに湯氣さへ出てゐるのには驚いたね、これを聞いてゐたYさん。

君もやうやくその境に達したか。俺などはいつも滿洲國さ、と鼻をうごめかした。

諸君、エチオピアと滿洲國とは實質において同じものである。



文

鳥

ひ

か

る

春は霞める花の影、夏は月淡き宵
主が枕邊アルテになれは歌ひぬ、

ひねもすは過ぎて、夏は暮れぬ、

秋も深みて、主が微笑ホエモも失せゆきぬ、

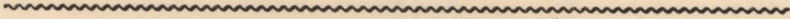
白き敷布シーツに黒髪うづめし

青白きなが主の面、みまもりつ

まろき黒かなる瞳は憂にくもりぬ、

けだるげに、又力なげに主はなれを眺めり、

なが赤き嘴、何を語り、何をかつげん、





やるせなげなる微笑にも

清らけきあきらめにも、慰めかへすすべ知らで、

あゝ、あわれ、悲しきか文鳥よ、



されどはかなきは汝が運命

そは、或る霜おける朝なりき、

文鳥の冷たきむくろはみいだされぬ、

夜半の嵐か、病める主に魂捧げしか、

文鳥はその日より歌はず、語らずなりぬ、

あゝ、文鳥よ、

病める主おきて汝はゆきぬ、

主が頬に涙の一つ、二つ、光りて

吾は汝をこよなく愛しぬと、

感傷の乙女達は、甘き歎の涙もて

ゆける文鳥を葬トムラひぬ、



主が病室の窓邊、人通ふ細道のかたわら
野いばらの下に墓あり、

—◇—

夕べ冷たき病棟ゆけば、

何處より聞ゆるか、文鳥の聲、

麗はしく、又かなしく、

清らけき愛よ、心からなる慰よ、

小さな魂

病める人々が枕邊をさまよへるなりき、

宇 宙 説

宇宙は俺の説では一元だよ、とTさんは言った、
そりや、君二元だよ、Kとさんが言った、

終
り

ひ
か
る



いや、三角形らしいぞ、とGさんが云ふ、

なに、圓形でなければならぬ。とSさんが斷言した、

私はどちらでもよい、

君が私の宇宙だ、

君は人間の恰好をして居る、

刹那主義者

君と別かれて、唯一人り

今宵又何處さまよう、

紫煙の中に

うすぼれ、消えゆく、君の面影、

紅茶の香りが、

獨りぼつちの静けさを想はず、

紫

夢



明日は又知らない女と

會つて、別かれて

果しない淋しさが

私をおそつて來るだらふ

刹那主義者よ、

あわれなおひと、と君は言つた、

私はそう言はれても仕方ない、

私には女の幸ヒトが感ぜられない、

求める女ヒトに會ふまでは

戀の巡禮がつよくだらふ、

それだから、若し、

君をきづつけたら、御免なさい、

酒
友

吾が友は語らずくみぬうま酒を、

吾又語らず杯を重ねけり、

心の底で燃ゆる火が

友と吾とをあたくめぬ、

酒は酒を、酔は酔を、

友は吾に、吾又友に

語らぬ言葉で語りけり、

寒けき風が襟足を

そつとつたつて来るけれど

友と吾とはほゝえみぬ

ひ

か

る

秋の宵

想ひ出そうとつとめても、
忘れた顔がどうしても
浮んで来ないで、ゆきすりに、
ふと見し女の淋しげな
瞳がかげにまとひつく、
いえ、ぢれつたいな、秋の宵、
部屋の隅にか鳴く虫に
心の糸をかなでられ、
京の河原の夜露^{ツユ}ふんで、
黙つて歩いたあの宵の
泣いてた女の面影を、
想ひだしたる秋の宵、

ひ
か
る



プールの一日

幸村公

毎年夏になれば暑くなることは大體前世の因縁事で仕方がない。之を寒暖計の所爲にして暑い〜とこぼしてゐるより、手取早い醫局の消夏法は手拭一本と禪一個持つて、プールに行く方法が經濟的にも時間的にも最良のものだつたらしい。

對青山外科との連敗を今年こそと蟲の良い名目を楯に、吾も吾もとプールさして出かける人々は多い時は二十人以上、少なくても五、六人は必ずプールのスタンド（スタンドですぞ）に肉體美、骨體美を堂々？と惜しげもなく晒け出してゐる。午後は殆どプールで過した様なものだ。二時三時となると來るMEMBERも大體揃つて來て、黒いの、白いの、それに毛生藥の廣告に頼まれそうなのが暑さに

追ひ出されて出かけて来る。こういう時刻には何處も暑いと見えて、プールはわんざ／＼と出かけて来た人々によつて埋められ何萬人と入場してゐる、この群衆は皆男と女の二種類しかゐないのだから不思議だ。こういう時に泳ごうなどと親不孝な考を持つと怪我の基だ。辛じて人と人との間隙を見付けて飛び込んでも、さて進みも退くことも出来ない。無理をすれば Konfusion の基となるから、汗が大體引くと上つてスタンドで甲羅を干す。その結果として此處に雑話の花が咲こうといふ譯だ。

『歩くハンター君』



A 「あ！來てる／＼」

B 「誰が」

A 「ハンターがさ」

不良の金魚の様にブカリ／＼と水を口れたり出したりして、女の子のをジロリ／＼と眺めて気分を出彼はラヴ、ハンターの異名を以て吾醫局員に知られ、必ず女子部のサイド、ステップから飛び込み、コース・ロープの傍にゐて榮養

してゐる男だ。そして五十米プールの決して縦に泳がず、専ら浅い所を横に泳ぎ、首を前後に打振りつゝ、警戒おさく、おこたらない慎重な泳法で泳ぐ男だ。

C「ほら泳ぎ出した〜」

一同「なるほどワハ……」

こんな悪口を言はれてゐるのを知るや知らずや、眼鏡のあんちゃん、すましこんで大きな湯上りタオルを肩に掛けてスタンドを遊弋してゐる。

ふと見るとスピード王I先生、先程から長々と寝てウツラ〜としてゐる。

K「I先生はプールへ来ると必ず一寝入りするね」

S「あたりまへさ、I先生は水氣があるとすぐ寝るよ」

I「S君うまいことを言ふね」

S「なんだ先生寝てゐたのではなかつたのですか」

その時キング、オブ、プールと異名をとつたM先生を初め、五、六人の連中がやつて来た。雨の日も風の日もプールに来なければ寝ざめが悪いといふM先生、専ら肥りたいが一心でこの異名をとる程熱心に通つて來てゐるのだが、一向効験が現れず、又大聲で早くなつたといふ程の話も聞かず、只ニコ〜と嬉しそうにポチャリと飛び込んだ。ドブンと言ひたい所だが、體重と引力の關係で音響學上こ

ういふ音が出るらしい。

反之一方瘠せたいが一心でブレック、ファスト、スウイミングを續けてゐるS先生、フサ／＼とした
(?)黒髪の一片をも落ちこぼれるのを惜しがる様に手術帽をかぶり、

「よう、泳ごうじやねえか」

といひつゝドツブーン(これこそ本當に)飛び込んだ。

駄喋り疲れ暑さに僻易した連中も、ゾロ／＼とスタンドを降り、ゴチャ／＼の人の間隙を見付けて
飛び込んだ。

これがプールでの夏の一日である。



日光遊記

見學生 景 凌 瀾

笈を負つて日本へ参りましてから足掛けもう三年半になりました。始めて東京に着いた時に、汽車の中であの「日光を見ずして結構と云ふな」と言ふ言葉が聞こえました。それ程に日光は有名です。今年の春に醫局の團體旅行に随つて鬼怒川へ行つた途中で、日光の中禪寺で晝御飯を食べました。此の旅行で日光の概観は見えましたが、時間に限りがあり、又急ぎの自動車でしたのでその全部の勝景は察知し得ず誠に残念でした。恰も八月の中旬に又友達と日光へ遊びに行きました。その日朝早く上野驛に七時の汽車に間に合つて一緒に出發しました。それから宇都宮で自動車に乗換へまして十時頃日光の麓に着きました。神橋の側を経て真直に爬山車驛に往き、爬山車で山腹に達すると或る臺地があります。明智平と云ひ電車驛又食堂、寫真屋及び小賣店等があります。此の處からケーブルカに乗

りました。俯き視ると種々の景色が見えます。仰いでは實に雲を凌ぐ峯を眺め、尙西の方面には眞白い白絹を流せる如き瀑布があります。その高さは四十丈よりもつと長く奔龍の勢で落下する音は虎が吼える様です、その多くの山の間に中禪寺湖といふ湖があります。此處で一吋疲れましたそして友達と相談して又明智平の食堂へ歸りました。食事すました後に湖岸に行きました。静かな水面に水鳥がばた／＼と飛び立ち皆逃げてしまひましたので湖水の小波が滅茶滅茶になりました。四方の抱合の山には美しい青葉若葉が空に掩ひ茂つて居ます。孰れも倒にしたやうな影は湖の水へ入つてまことに綺麗な景色です。北の湖岸に或る古い寺が建つて居ります、中禪寺と云ふのです。(即ち先に醫局の人と一緒に食事をした處)この寺は高くはないけれども非常に莊嚴です。此處で友達と寫眞を二三枚撮りました。それから小さい船を貸りて湖の水面へ乗つて行つた。涼しい風が水面から傳はつて來てすが／＼しく爽やかな天氣でした。又東の岸に着いて歌ヶ濱といふ寺が見えました。此處から四方の風景を眺めて居るのです、緑の山が紅い霞に包まれて灰色の雲がむく／＼動いて居ます。實に天然の眞畫であります。それから東照宮の方面に自動車で廻つてきました。門の兩傍には古い松柏が蔚然たり森秀たり、その廻物は中禪寺よりも俊秀で莊嚴です。夕方も近づいて來ましたので自動車で家に歸へりました。

感想は澤山ありますが左に一律になりました。又高山仰止の意を寄せます。



【釋】

第一句…(原意)

太陽が峯を照して山の影は倒に湖に入った。

(喻意)

茂木先生が教室の人達を學術環境に入れる。

第二句…(原意)

霞の光は眞直に山を射つて山は紅くになった。

(喻意)

喻意皆様が茂木先生の御蔭で學者になる。

第三句…(原意)

白絹を流せる如き瀑布を自慢にして居る。

(喻意)

茂木先生の人格が高潔である。

第五句…(原意)

廣々とした湖水は何處までも潤ふ。

(喻意)

茂木先生の學問と道徳は誰でも恩澤を受けないものはない。

第六句…(原意)

その山々の山は互に抱合ふ實に美しい。

(喻意)

諸教授及び助教授と醫局の諸先輩は皆親切和睦である。

第七句…(原意)

此の様な佳境は世界の中に又何處にあるか。

(喻意)

慶應外科教室である。

第八句…(原意)

誠に遊ぶ人をして自分の家へ返るを忘れさせる。

(喻意)

作者は醫局の環境を慕む。

日照崇峯入禪湖
草木葱籠爭向茂
千頃澄波無不潤
勝地佳景何處月
光霞萬點映山朱
懸流玉潔獨標孤
諸山相拱更熙如
却教遊子忘返廬

二 刀林嘘倶楽部

ウソ倶楽部會員

一、S先生と強盜

某刑務所へ行き、入獄中の強盜某男にヘルニヤの手術を行つたS先生、其後數十日を経て葉書を受取りました。其の内容は次の如くでありました。

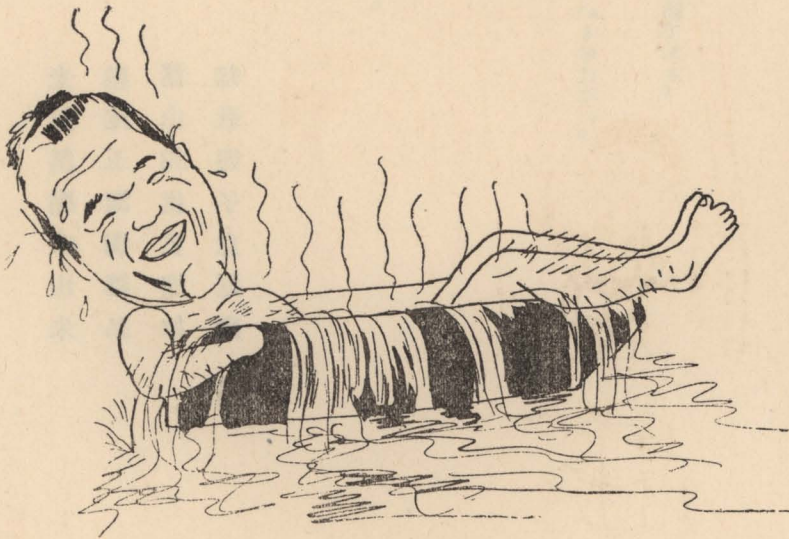
”先生色々御世話になり有難う御座いました。お蔭様で傷も治り元氣も出て來ました。何れ出獄の曉には御宅へ御禮の御挨拶に伺はせて頂きます云々。”



此の葉書を見た先生のお顔を想像して御覽なさい。

二、お湯の無い風呂へ這入らせられた話

お風呂の御許しが出て欣然風呂場へ案内された某患者君



裸體になつて、扱て這入らうと思つてお風呂の縁へ足をかけた瞬間、お風呂の中には肝腎の湯が底一寸程しか残つて居らず、此れは一體何うした譯かと、お風呂の底を調べたりしたが別に故障もない、何うも變だと尙調査を進めた所、すぐ前に同じく入院中の高登關が這入つたばかりだつたそりで、後で此の話を聞かれた前田先生は思はず御笑ひになりましたとさ。

三、お父様と尻尾

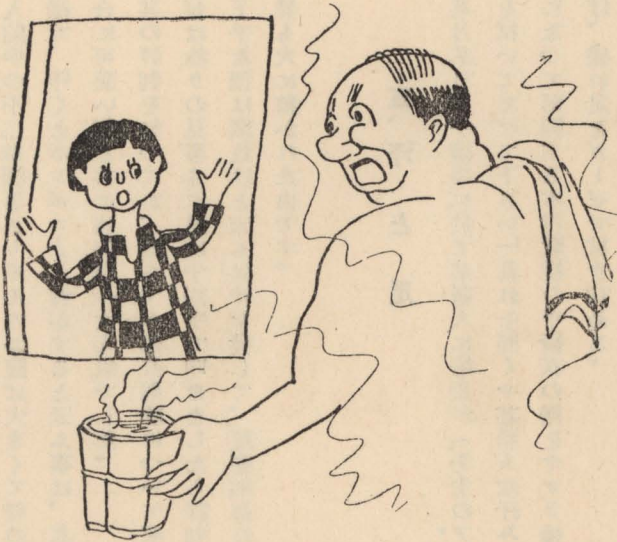
五歳になつたベチ子ちゃん或日お父様に連れられて、動物園へ行きました。

「お父様虎や、ライオンやカンガルーや、お猿には何故尻尾があるの？」と聞きましたら、お父様は「動物だからだよ」とお答へになりました。

其れから數日後御宅で御入浴中のお父様の御姿をつく／＼と眺めたベチ子ちゃんは「アラッ！ お父様は動物なの？」と聞きました。

お父様は何事かと大變驚かれて「何故だい」と申され

ましたらベチ子ちゃんは「ウン、ダツテお父様は尻尾があるんですものと云ひましたとさ。





四、正ちゃんのお腹と狸の腹

入院中の不二錦關事正ちゃんのお腹は大きくて狸の腹の様で、叩くとボンボコ／＼音がすると云ふ事は、其の割合に可愛い顔と共に病院中の大人氣でした。

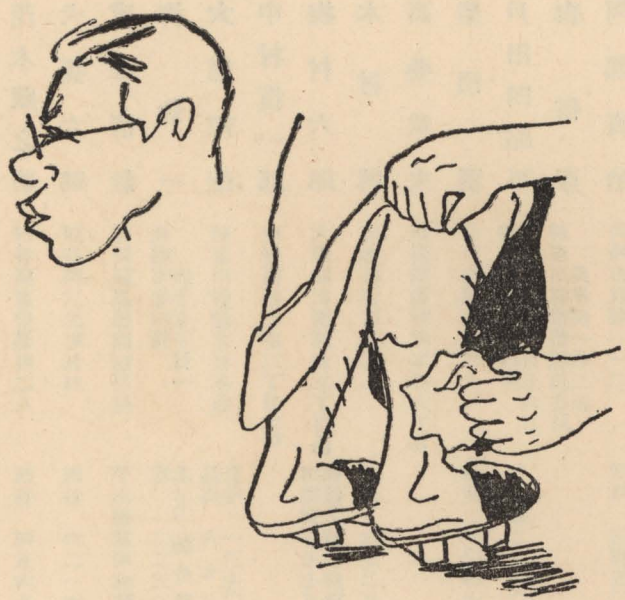
其の評判を知つてか、知らずか部長廻診について來た婦長は餘りの見事さに思はず兩手で叩きましたら評判通り下手な狸は顔負けと云ふ妙音を發して、慶應稻荷の御本體も大に驚かれた由です。

五、汗と足

某月某日、手術場に於て某新人に婦長が「先生の、ア、シエを拭いてあげて下さい」其れを聞かや某新人は汗みどろになつて奮闘する木村教授の手術衣の裾をヤオラ捲りあげ、盛に足をガーゼで拭き初める。

木村教授は流るゝ汗を暫く忘れて呆氣にとられて新人の奇異の行動に注意される。

婦長は尙「アシエ！アシエと！」と連呼する。
新人愈々周章て、一層強く足を拭き続ける。



よく聞いて見れば此れは足ならで汗の事、足を拭けと
は一寸命令出来る筈もない話さ。

.....
.....
.....

同窓會々員名簿

(昭和十一年十二月現在
入局順 ○印ハ在局者)

編輯員

氏名	住所	自宅電話及勤務先
茂木藏之助	四谷區東信濃町二八	四谷 四五六八
犬養六郎	四谷區三光町五四	四谷 六二一六
成松清敏	福岡縣嘉穂郡桂川村	平山鑛業所病院
柳壯一	札幌市北四條 西十五丁目一	電 二二三二 北大、柳外科 院用 六七三 自宅 一三七〇
大庭國紀	神奈川縣鎌倉材木座	
中村復一郎	中野區沼袋南二丁目二杏	
梅村六郎	大森區田園調布三丁目合	田園調布七七五 橫濱大雄山病院
木村博	麻布區筭町八〇	青山 六五二五
高桑武夫	新潟縣柏崎町本町六丁目	
柴沼薰	水戸市鷹匠町六九一	水戸 一〇四七
戶田四郎平	神奈川縣小田原町 萬年町四丁目五六二	小田原二四〇
森信彦	神奈川縣都築郡田奈村 長津田一四二四	
阿部貞治	川崎市員塚一一二	川崎 三四五〇
片柳常作	深川區西平井町九三	
稻葉俊雄	茨城縣結城郡結城町二四六	
大槻正路	蒲田區新宿町五〇八	蒲田 三三三一
町田謙二	芝區白金三光町二六九	高輪 六六八〇
赤松常信	桐生市西久保方町 二丁目七八六	
高木宗吉	中野區住吉町二七	
中村武重	長野縣富士見高原療養所	
鎌田竹次郎	芝區赤羽濟生會病院舍宅	
山田晟	昭和十年四月廿八日死亡	
山本順	小樽市小樽病院	
本郷光美	京都市東山區山科竹鼻	
關市衛	杉並區和泉町三四一	
今井金治	群馬縣伊勢崎町住吉町	
新田龜三	深川區木場三丁目八	
上石英造	宮城縣牡鹿郡 石卷町新田町三九	
澤江六太郎	栃木縣栃木町萬町二丁目	

篠原靜夫 杉並區阿佐ヶ谷町 荻窪 二〇八九
 四丁目九〇〇
 牛久昇治 大連市楓町九〇 聖愛病院
 佐藤太平 靜岡縣大岩宮下町七 靜岡日赤
 林利治 滿洲國吉林省拉賓線 新站。新站陸軍病院
 大曾根幾次郎 茨城縣港町六丁目 大曾根病院
 神山敏雄 滿洲國興城溫泉ホテル 滿洲興城滿鐵病院
 中村勝之助 樺太真岡南濱町
 近藤宗彦 澁谷區代々木深町一六宅
 三橋弘 樺太大泊榮町中通二八 三橋病院
 濱野碩太郎 福井縣遠敷郡 小濱町住吉八三
 豐田秀穂 昭和十一年七月卅日死亡
 渡邊治生 澁谷區代官山町同潤會 アパート三ノ三六
 神野澄晴 大分縣北海郡郡小佐井村
 吉崎純 富山縣高岡市旅籠町
 竹下貫一 熊本市大江町本一二三
 高巢三四一 岩手縣和賀郡黒澤尻町 和賀病院
 駒井忠雄 品川區五反田三丁目七〇

四條龍作 八王子市八日町三一
 小内昇 北海道十勝國帶廣市 西一條八丁目十五
 木村守江 福島縣石城郡四倉本町 四倉 三五
 原廣治 目黒區駒場町七九八 青山 五二八〇
 佐藤維秀 橫濱市中區 尾上町三丁目三六 橫濱濟生會病院
 橫山虎雄 杉並區清水町二一〇 荻窪三三五四 中島飛行機附屬病院
 川田正雄 靜岡市大岩宮下町二七 靜岡日赤
 吉野史朗 中野區大和町一八六
 中村次郎 兵庫縣西宮市川西町三四 病院、大阪市北區 曾根崎中一丁目三〇 北 五〇六七
 桑野鐵四郎 北海道釧路市富士見町望 北海道博濟病院
 槍田榮 足利市伊勢町
 岩原寅猪 赤坂區青山南町三丁目兜
 森文雄 四谷區須賀町四二 四谷 三一三六 東京電燈病院
 松井八郎 濱松市三組町二八ノ一
 河内野弘徳 世田ヶ谷區上馬町三ノ八二
 高橋福三郎 淺草區七軒町四 東京痔病院
 藤原道純 赤坂區青山北町三丁目宅

古川 明 麻布區新網町一ノ三四
 松橋 一 愛知縣渥美郡二川町
 君塚 正 山形縣小松町 小松町立病院
 鍋島 勉 甲府市愛宕町二〇一 渡邊病院
 前田和三郎 麻布區本村町二二五 三田八一三
 村上 晋 日本橋區小舟町 茅場町五〇八〇
 二丁目二ノ四
 關口林五郎 前橋市北曲輪町
 井上太郎 杉並區高圓寺四ノ六六 寄生蟲學教室
 吉岡勝衛 澁谷區上智町九
 中村廣人 世田ヶ谷區下代田町八八
 八木勝郎 橫濱市中區野毛町一ノ二七 衛生學教室
 土方久顯 橫濱市神奈川區 警友病院
 篠原町二二三三
 百溪定七郎 世田ヶ谷區代田三丁目六三
 瀨尾省三 澁谷區千駄ヶ谷四丁目三三
 小口守一 橫濱市鶴見健康相談所
 弓削 中 杉並區荻窪二丁目六五
 小野田 肇 茨城縣古河町飯島本部

加藤銀治郎 大連市星ヶ浦黒石磯宅
 志田元秀 靜岡市春日町三空ノ二 靜岡日赤
 森下貫一 靜岡縣濱松市森下病院
 橋本文吾 埼玉縣川越市小仙波二二川越 三七六
 蓮江英男 世田ヶ谷區代田 一丁目六五二ノ五
 堀田善二郎 淺草區藏前三丁目二ノ八 寄生蟲學教室
 富田勝郎 荏原區下神明町四〇三 生理學教室
 小方則太郎 世田ヶ谷區代田二丁目五五 寄生蟲學教室
 小澤武雄 牛込區若松町五八 衛生學教室
 田村信介 澁谷區代官山町一〇 清水中村
 代官山佐宅三ノ二三
 田中周吉 長野縣小諸町赤坂町 樋口病院
 辻岡元 淺草區田中町二丁目一〇
 武藤藤太郎 中野區昭和通一丁目二一 昭和アパート内
 布留文夫 滋賀縣甲賀郡 寺庄村 深川市場
 神戶市須磨區 磯馴町五丁目二四
 寺田泰三 兵庫縣瀨戶市 兵庫縣廳衛生課
 相見三郎 靜岡縣田方郡土肥町 土肥慶應堂病院
 酒井欣朗 芝區高輪南町二八

森 豊 明 北海道俱知安町 南一條東一丁目 俱知安病院

細 江 靜 男 フラジール、サンパウロ市 茨城縣日立鐵山本山 掛橋役宅三〇ノ一

濱 名 元 中 杉並區馬橋二丁目二二三

若 林 研 爾 大森區新井宿四丁目宛 大森 一〇二八

神 山 雅 臣 滿洲國開原 滿鐵醫院外科

成 内 穎 三 郎 橫濱市老松町五一 病理學教室

森 山 成 一 靜岡市安東三丁目六二 靜岡 日赤

栗 本 勝 之 進 世田ヶ谷區等々力 三ノ七七七(自由ヶ丘)

笹 島 彦 次 郎 杉並區阿佐ヶ谷 三丁目五〇四 荻窪 三三一六 芝 濟 生 會

島 田 信 勝 神奈川縣 神奈川區幸ヶ谷一 橫濱青木町病院

明 樂 治 部 輔 秋田市中谷地町四四 秋田 病院

照 井 侃 赤坂區新町四丁目一八 青山 七二六四

井 手 行 乎 豐島區駒込五丁目九八〇

伊 藤 國 男 清水市入江岡六七八 清水市立診療所

板 橋 剛 四谷區南町七六

畠 中 卓 助 澁谷區千駄ヶ谷町 四丁目六一七

門 橋 勇

龍 野 一 男 本郷區弓町一丁目二六 澁橋區諏訪町一 (津田沼戰車隊)

中 村 寬 目黒區洗足一四七三ノ四 荏原 三六二〇

野 崎 寬 三 小樽市量德町二六 小樽 病院

古 山 實 四谷區南町八六

小 平 正 澁谷區永住町一五 青山 五五〇八

齋 藤 修 二 滿洲國撫順 滿鐵醫院

宮 尾 啓 中野區大和町八四 中野 二一六七

伊 藤 原 長崎縣西彼杵郡松島村

萩 尾 又 八 四谷區右京町二二 理學的診療科學教室

大 岡 保 司 豐島區西巢鴨三丁目三五六 康 樂 病院

大 塚 廣 兵庫縣加古郡加古川町 加古川 病院

釜 江 省 司 山口縣大津郡人丸吉野方

高 橋 眞 雄 兵庫縣伊丹町五二七 伊丹 四三

中 野 宗 夫 大阪市上本町六丁目 大阪 日赤

長 坂 謙 三 小石川區久堅町六九 小石川 四二〇九 寄生蟲學教室

山 口 恒 造 大森區雪ヶ谷町三九八

重 盛 福 七 郎 岡山市上出石町 五〇次田方 鐵道省岡山治療所

木村知孝 福井縣鯖江町下深江
 渡邊敬 岩手縣陸中國 濟生會岩泉病院
 下閉伊郡岩泉町
 佐藤憲一 滿洲國哈爾濱鐵路病院外科
 山田 廸 山梨縣中巨摩郡飯野村
 倉庫町組合病院中央診療所
 今井秀雄 世田ヶ谷區太子堂町三三
 大内正夫 小石川區西丸町九
 渡 隼 橫濱市神奈川區平
 同潤會アパート廿五 大雄山病院
 菅 千里 葛飾區上平井町二九一四
 橫濱市橫濱驛前
 新俱樂部一六號
 竹 內 實 四谷區舟町六二
 滿洲國安東省
 通化縣通化
 葛原信一 滿洲國步兵第二團
 山田庸夫 神田區神保町三丁目三
 九段 二二二六
 小島茂 豐島區駒込四丁目二
 佐藤壽郎 淀橋區淀橋七(丸山方)
 小泉次郎 牛込區新小川町二丁目
 江戶川アパート金瓶室
 久崎章 中野區高圓寺四丁目五七
 岩崎一平 青森縣板柳町 青森 増田病院

蓮江信行 千葉縣市川市市川三三
 野戰重砲兵第七聯隊
 尾村偉久 芝區白金三光町二七三
 高輪 五〇二八
 大木猪四郎 九州小倉野戰砲兵
 第五聯隊警務室
 渡邊仁七郎 本郷區元町二ノ二七
 望雲館内
 渡邊昇 品川區大井瀧王子町墨毛
 大森 三三三
 海軍二年現役
 中山一郎 中野區川添町二六
 中野 二七三〇
 名倉厚 四谷區須賀町三八
 四谷 三六〇八
 小林忠 品川區五反田一ノ二五五
 三輪病院内
 高輪 四二六〇
 小林不二夫 四谷區本村町五(花岡方) 四谷 五九六五
 中野區橋場町三四 中野 三七七八
 小坂慶一 中野區橋場町三四 中野 三七七八
 赤倉一郎 淺草區雷門二ノ七 淺草 四〇五
 木本多喜雄 淀橋區柏木五ノ一八〇
 河田清士 市外吉祥寺四六七 吉祥寺 二六八
 今井光 麻布區筈町八〇(木村方) 青山 六五二五
 本所區東兩國 本所 四五五〇
 海軍二年現役
 稻葉玉六 二ノ一〇(矢澤方) 本所 四五五〇
 杉並區荻窪 四ノ五七(大桑方) 本所 二二二六
 林克巳 杉並區荻窪 四ノ五七(大桑方) 本所 二二二六
 西平賀健 四谷區南寺町二三

石川七郎	左奈田幸夫	關口政三	菊池龍介	安齋直	小柴清定	松丸忍	松浦勇四郎	工藤達之	名和精	辻岡浩	加納保之	小田滿	富田忠良
澁谷區伊達町九三	城東區大島町 三ノ四〇六(村上方)	下谷區三輪二八	澁谷區代官山アバート路	埼玉縣入間川町三五三三	目黒區下目黒三ノ六五六	杉並區高圓寺 七ノ九六七(石倉方)	澁野川區西ヶ原町五六	杉並區高圓寺四丁目五〇	四谷區西信濃町 一〇(野島方)	淺草區田中町二ノ一〇	下谷區龍泉寺町 四一三(日野方)	品川區大井原町三七	澁橋區西大久保一ノ四七
高輪 三〇二一	本所 五七三六	淺草 一七五九		三四八九	三四八九	(入) 營 中	(入) 營 中	(入) 營 中		淺草 三六三		(入) 營 中	

編輯後記

野崎寛三

今年は醫局が忙しいので刀林も極く簡單なもの或は名簿だけ等と云ふ話も始めはありましたが、扱てやりだすと慾が出まして、やつぱり皆様から原稿を頂いて例年の様な立派なものと迄行かなくとも、何とか恰好をつけたい、又今年は今として皆様の御感想もありませうし、記録しておきたいこともあると存じ、急に原稿募集を致すことゝ相成りました。募集期間も極く短く、御無理をお願い致しましたが、幸ひ皆様の御同情と御援助によりまして漸く刀林を發行することが出来ました。

今年は外科の方々がお忙しいので整形外科助手一同が主として編輯に當りました。編輯員諸氏一同の眞面目な努力と協力の結晶であります。何分不慣のことで杜撰なお恥しい編輯振りでありますが御寛容の程お願い申し上げます。

編輯員 野崎、伊藤、大内、小泉、西平、加納、小柴、左奈田

昭和十一年十二月十八日印刷
昭和十一年十二月廿二日發行

非賣品

東京市四谷區西信濃町廿二番地

慶應義塾大學醫學部
外科整形外科教室同窓會

野崎寬三

東京市京橋區入船町二丁目一番地

高橋與作

東京市京橋區入船町二丁目一番地

正進社印刷所

印刷所

東京市四谷區西信濃町廿二番地

慶應義塾大學醫學部
外科整形外科教室

振替口座東京二九二七五番

不許
複製

發行所

